

平成 20 年度総務省事業

「ICT メディアリテラシー育成プログラムの
普及・改良に関する調査研究」
報告書

平成 21 年 3 月

株式会社 内田洋行
教育総合研究所

平成 20 年度総務省事業

「ICT メディアリテラシー育成プログラムの
普及・改良に関する調査研究」
報告書

平成 21 年 3 月

株式会社 内田洋行
教育総合研究所

目 次

1. 件名	1
2. 事業概要	1
3. 実施体制	2
4. 目的	6
5. 調査研究の内容	7
5-1. 育成プログラムの効果的な普及支援	7
5-1-1. 育成プログラム配信サーバの構築と運用	7
5-1-2. 育成プログラムの配布	11
5-1-3. 普及広報	14
5-1-4. ヘルプデスクの設置と運営	21
5-1-5. 育成プログラムの利用に関する FAQ 作成	21
5-2. 育成プログラムの利用状況に関する調査・分析	22
5-2-1. 調査概要	22
5-2-2. アンケート結果	25
5.2.2.1. 【教える対象】	25
5.2.2.2. 【学習テーマの選択】	28
5.2.2.3. 【選定理由】	41
5.2.2.4. 【学校での授業の状況:実施対象授業】	53

5.2.2.5. 【学校での授業の状況:実施場所】.....	57
5.2.2.6. 【学校での授業の状況:利用方法・環境】.....	58
5.2.2.7. 【学校での授業の状況:実施者】.....	59
5.2.2.8. 【学校での授業の状況:利用教材】.....	60
5.2.2.9. 【学校での授業の状況:他の教材の利用状況】.....	61
5.2.2.10. 【授業後の状況:学習効果】.....	62
5.2.2.11. 【授業後の状況:今後の利用】.....	63
5.2.2.12. 【授業後の状況:教員向け研修】.....	64
5.2.2.13. 【授業後の状況:保護者向け研修】.....	65
5.2.2.14. 【家庭の状況:インターネットの利用頻度】.....	66
5.2.2.15. 【家庭の状況:携帯電話の所有状況】.....	67
5.2.2.16. 【家庭の状況:教える人】.....	68
5.2.2.17. 【家庭の状況:学習する時間帯】.....	69
5.2.2.18. 【家庭の状況:学習場所】.....	74
5.2.2.19. 【家庭の状況:利用教材】.....	75
5.2.2.20. 【家庭の状況:他の教材の利用状況】.....	76
5.2.2.21. 【家庭の状況:学習効果】.....	77
5.2.2.22. 【家庭の状況:今後の利用】.....	78
5.2.2.23. 【家庭の状況:他の人への紹介】.....	79
5.2.2.24. 【家庭の状況:子どもの反応】.....	80
5.2.2.25. 【要望・意見(自由記入)】.....	80
5-2-3. 利用状況に関する考察.....	85
5.2.3.1. 【学校での利用】.....	85
5.2.3.2. 【家庭での利用】.....	88
5-3. 育成プログラムの課題等の整理と対策等のまとめ.....	91
5-3-1. 育成プログラムの課題等の分類・整理.....	91
5-3-2. 課題等のまとめと対策.....	92
5-4. 育成プログラム等の改良.....	94
5-4-1. 育成プログラムの改良方針と課題.....	94
5-4-2. 公式サイトの改良.....	96

5-4-3. インストール用 CD の改良	98
5-4-4. インターネット補助教材およびテキスト教材の改良	98
6. 総括および今後への提案	100

添付資料

- 【添付資料 1】 育成プログラム広報リーフレット(一般用)
(本文5-1-3. (1) 関連)
- 【添付資料 2】 「情報モラル教育セミナー in 大阪」広報リーフレット
(本文5-1-3. (2) および(3)②関連)
- 【添付資料 3】 「情報モラル教育セミナー in 東京」広報リーフレット
(本文5-1-3. (2) および(3)②関連)
- 【添付資料 4】 ウェブサイト「学びの場. com」に掲載した本事業関連記事
「伸ばそう ICT メディアリテラシー ーつながる！わかる！伝える！これがネットだー」
(本文5-1-3. (5) 関連)
- 【添付資料 5】 ウェブサイト「学びの場. com」に掲載した本事業関連記事
「New Education Expo2008 in 東京 現地ルポ ～3 つのテーマで、明日の教育の姿をイメージする～」
(本文5-1-3. (5) 関連)
- 【添付資料 6】 ウェブサイト「学びの場. com」に掲載した本事業関連記事
「メディアリテラシー教育は小学校段階から～携帯電話の光と影を知る～」
(本文5-1-3. (5) 関連)
- 【添付資料 7】 公式サイトに掲載した調査結果
(本文5-1-5. および5-2-2. 関連)
- 【添付資料 8】 「伸ばそう ICT メディアリテラシー」導入通知見本
(本文5-1-5. 関連)
- 【添付資料 9】 利用状況調査・アンケート書式
(本文5-2. 関連)
- 【添付資料 10】 指導案ショートバージョン(ティーチャーズガイドのテーマ 1, 3 に追加)
(本文5-4-4. (1) 関連)
- 【添付資料 11】 新たに製作した解説コンテンツ一覧
(本文5-4-4. (2) 関連)

1. 件名

ICT メディアリテラシー育成プログラムの普及・改良に関する調査研究の請負

2. 事業概要

本事業は、一昨年度(平成 18 年度)総務省事業「ユビキタスネット時代における新たな ICT メディアリテラシー育成手法の調査・開発」において開発され、昨年度(平成 19 年度)総務省事業「ICT メディアリテラシー育成プログラムの普及・検証に関する調査研究」において検証と普及が行われた育成プログラム「伸ばそう ICT メディアリテラシー ーつながる！わかる！伝える！これがネットだー」(以下「育成プログラム」と略)のさらなる普及、利用状況調査、および教材の改良に関する調査研究である。

平成 18 年度事業では、主に小学校 5 年生、6 年生に必要な ICT メディアリテラシー学習項目の策定と、それに基づく 5 つの学習テーマからなる育成プログラムの開発が行われた。開発された育成プログラムは、4 種類の「テキスト教材」と、ネット教材である「インターネット補助教材」である。テキスト教材は、学校での授業等セミナー学習用の「ティーチャーズガイド」(指導者用)と「学習テキスト」(子ども用)、および家庭学習用の「家庭学習用ガイドブック」(保護者用)と「学習ワークブック」(子ども用)からなる。インターネット補助教材は、シミュレーションによって学習を進める「ICT シミュレーター」と、セミナー学習で指導者が大型画面に提示したり、家庭学習で子どもたちが自習したりできるような「解説コンテンツ」からなる。

平成 19 年度事業では、(1)平成 18 年度開発の育成プログラムの検証・評価、(2)ICT メディアリテラシーに関する最新動向調査、および(3)育成プログラムの普及が行われた。育成プログラムの検証・評価は、指導者育成研修、親子学習型セミナー、学校での授業実践という 3 つのパターンで実施された。最新動向調査では、ICT メディアの最新のサービス動向や普及実態等を調査することにより、今後どのような ICT メディアリテラシーが必要になるか、またその育成のためにはどんな方法が考えられるかということが考察された。また、普及においては、育成プログラムのウェブサイトの構築や、教材の配布等が行われた。

上記事業を受けて行った本年度の調査研究の内容は、以下の通りである。

- (1) 育成プログラムの効果的な普及支援
- (2) 育成プログラムの利用状況に関する調査・分析
- (3) 育成プログラムの課題等の整理と対応策の策定
- (4) 育成プログラムの改良

本年度の調査研究を行うにあたっては、3.(1)運営事務局が実施計画を策定し、3.(2)普及・改良事業実施委員会の承認をうけた。具体的な実施内容については、5. 調査研究の内容に示す。

3. 実施体制

本事業は、下記体制にて実施した。

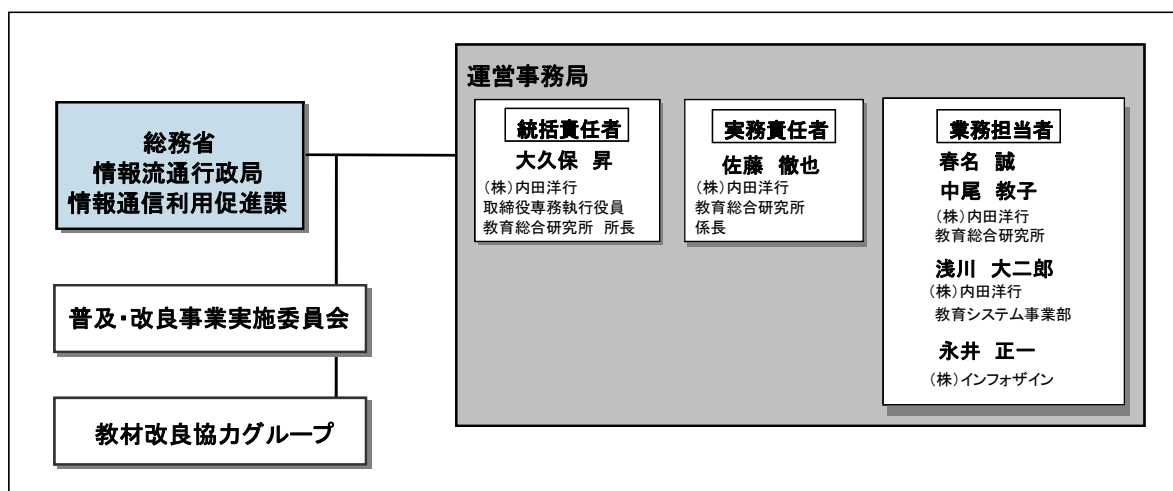


図 3-1 本事業実施体制図

(1) 運営事務局

本事業全般についての運営管理業務、および、普及・改良事業実施委員会の事務局業務を担当した。また、普及・改良事業実施委員会における議事をもとに、調査研究業務を行った。

(2) 普及・改良事業実施委員会

本事業の推進にあたっては、ICT メディアリテラシーに関する有識者から構成される普及・改良事業実施委員会において方針の策定が行われた。普及・改良事業実施委員会のメンバーは、以下の通りである(敬称略)。

表3-1 普及・改良事業実施委員会

	氏名	所属・職位
委員長	清水 康敬	独立行政法人メディア教育開発センター 理事長
副委員長	中川 一史	独立行政法人メディア教育開発センター 教授
委員 (五十音順)	石塚 康英	茨城県取手市教育委員会指導課 指導主事
	石戸 奈々子	NPO 法人 CANVAS 副理事長
	井筒 祥子	株式会社キャリア・マム 取締役 COO
	榎本 竜二	東京都立江東商業高等学校 教諭
	加藤 秀次	社団法人日本 PTA 全国協議会 専務理事
	佐和 伸明	千葉県松戸市立馬橋小学校 教諭
	鶴田 雅文	財団法人コンピュータ教育開発センター 専務理事

(所属・職位は平成 21 年 3 月現在)

その他、オブザーバーとして、山中計一氏(財団法人コンピュータ教育開発センター 部長)も陪席した。

委員会の日程及び議事は以下の通りである。

第 1 回委員会

日時：平成 20 年 9 月 1 日(月) 午後 6 時～8 時

場所：株式会社内田洋行 潮見オフィス 10F 役員会議室

主な説明・討議事項

- ① 実施計画について
- ② 育成プログラムの普及実績について
- ③ 育成プログラムの利用状況調査について
- ④ 育成プログラムの課題抽出と改良について

議事次第	指摘事項	指摘事項への対応
実施計画について	●実施計画が、目的に応じた成果を出せるものになっていることを確認し、かつ総務省の仕様書に整合していることを示すこと。	●仕様書に基づいて作成した実施計画書の内容を説明し、実施計画について承認を受けた。
実施計画のうち、育成プログラムの普及実績について	<p>●普及について、目標値のあるもの(たとえばテキスト教材配布数)は明示すること。</p> <p>●広報リーフレットについて、現在の小学 5・6 年の先生用のほかに一般用を作成し、公式サイト上で差し替えまたは追加すること。</p> <p>●保護者向けの配布が増えるようにすること。</p> <p>●都立高校への導入について働きかけること</p>	<p>●目標値が示されているテキスト教材配布数とアンケート回収数については実施計画に明記した。</p> <p>●公式サイトに、ダウンロードできるリーフレットの PDF を公開した。</p> <p>●保護者向けに、井筒委員を通じて 100 部リーフレットを配布し、さらに保護者向けメールマガジンにて広報した。</p> <p>●榎本委員へのヒアリング、および東京都教育委員会へのヒアリングと育成プログラムの広報を実施し、教育委員会のサーバへの育成プログラム導入について検討を依頼したが、導入には至らなかった。</p>

実施計画のうち、育成プログラムの利用状況調査について	<ul style="list-style-type: none"> ●公式サイトから、学習テーマごとの利用実績(アクセス数)を取ってほしい。 ●公式サイトからのテキスト教材ダウンロード時に、利用者の属性やフォローアップのためのメールアドレス等を取得した方が良いのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ●システム上、ウェブサイトのログデータからの抽出は難しいので、アンケートで収集し、取りまとめた。 ●利用者の利便性を優先するため、それらのデータ取得は行わないこととした。
実施計画のうち、育成プログラムの課題抽出と改良について	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度の改良事項を確認したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●現在3セッションで行っている2テーマについて、より短時間で行えるよう指導案と解説コンテンツの追加を行う。

第2回委員会

日時：平成20年11月28日(金) 午後6時～8時

場所：株式会社内田洋行 潮見オフィス 10F 役員会議室

主な説明・討議事項

- ① 普及支援実績について
- ② 利用状況調査について
- ③ 課題抽出と対策について
- ④ 報告書目次(案)について

議事次第	指摘事項	指摘事項への対応
普及支援実績について	<ul style="list-style-type: none"> ●普及方策それぞれの効果は示せないか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ●個々の効果を評価するのは難しいが、アクセス数との関連を見る限りは、イベントや広告の効果はあったと言える。
利用状況調査について	<ul style="list-style-type: none"> ●集計の仕方について、教員と保護者とを分けて、それぞれについて整理すること。 ●また、主要な設問項目と属性とでクロス集計を取って傾向をまとめること。 ●携帯電話の利用状況が他の調査と異なるようであれば解説すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「教員」「保護者」に分けた評価、および「クロス集計」について、それぞれまとめなおして報告書に掲載した。 ●携帯電話の利用状況については、報告書5-2-3に記載した。
報告書目次(案)について	<ul style="list-style-type: none"> ●報告書のまとめ方について承認 	<ul style="list-style-type: none"> ●承認に基づいて報告書をまとめた

課題抽出と対策について	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員が部分的に短時間で利用できる教材や、保護者が短時間で利用できる教材を提案してはどうか。 ● 特に教材改良の理由、および今後への提案の部分は明瞭に記述すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材改良と提言については、それぞれ本報告書の「5-4. 育成プログラム等の改良について」および「6. 総括および今後への提案」に記載した。
-------------	--	---

第 3 回委員会

日 時：平成 21 年 3 月 3 日(火) 午後 6 時～7 時 45 分

場 所：株式会社内田洋行 潮見オフィス 10F 役員会議室

主な説明・討議事項

- ① 普及支援実績について
- ② 利用状況調査について
- ③ 教材改良について
- ④ 本年度事業のまとめについて

議事次第	指摘事項	指摘事項への対応
普及支援実績について	<ul style="list-style-type: none"> ● FAQ, ヘルプデスクにはどのような質問が多かったか? ● FAQ にはどのくらい追加する予定か? ● 育成プログラムに関するリンクの状況について検索エンジン(Google, Yahoo など)を、詳しく分析すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度に比べ、より具体的・技術的な問合せが増えた【本報告書5-1-4参照】。 ● およそ 3~4 ほど【本報告書5-1-5参照】。 ● 検索結果についてまとめた【本報告書5-1-3(6)参照】。
利用状況調査について	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査のまとめかたとして、まず目的を明瞭に提示し、それに対してどのような結果があったか、という形でまとめること。 ● 表現:「教員/学校」「保護者/家庭」を、それぞれ「教員」「保護者」に変更のこと。 ● キーワード分析:キーワードの書き方を再考し、それぞれどのくらいの意見があったのかを数値で示すこと。 ● 調査結果の数値からの結果のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 左記指摘について改めて検討の上、報告書にまとめた【本報告書5-2参照】。キーワード分析については、一部キーワードを修正し、該当キーワードに関する記述のあったコメント数を明示した【本報告書5. 2. 25 参照】。

	方を正確にすること。 ●各グラフのまとめ:単にもっとも頻度の高い項目のみを記載するのではなく、他のデータとの頻度差など、データの読み方、結論づけを検討すること。	
教材改良について	●教材改良は、昨年度の調査報告を参考にしながら行うこと。	●左記指摘について改めて検討の上、教材の改良を実施し報告書に記載した【本報告書5-4参照】。
本年度事業のまとめについて	●単に本年度の成果だけをまとめるのではなく、平成 18 年度、19 年度の調査研究成果をふまえたかたちにする。	●報告書の「2. 事業概要」に、平成 18 年度からの概要を記載するとともに、「5. 調査研究の内容」についても、昨年度とのデータ比較等を行った。

(3) 教材改良協力グループ

5-4-4. で述べるように、教材改良、特にインターネット補助教材とテキスト教材の改良の実施にあたっては、「教材改良協力グループ」が、助言や教材の一部製作を分担した。本グループのメンバーは、以下の通りである。

表 3-2 教材改良協力グループ

	氏名	所属・職位
リーダー	中川 一史	独立行政法人メディア教育開発センター 教授
メンバー (五十音順)	河岸 美穂	石川県立金沢伏見高等学校 教諭
	小林 祐紀	石川県金沢市立小坂小学校 教諭
	佐和 伸明	千葉県松戸市立馬橋小学校 教諭
	松能 誠仁	金沢大学 技術職員
	村井 万寿夫	金沢星稜大学 教授

(所属・職位は平成 21 年 3 月現在)

4. 目的

インターネットや携帯電話等の ICT メディアを、子どもが安全に安心して利活用できるようにするために、平成 18 年度に総務省が開発した育成プログラムについて、効果的な普及支援を行い、その過程で得た成果を育成プログラムに反映させ、もって ICT メディアの健全な利用の促進に資することを目的とする。

5. 調査研究の内容

5-1. 育成プログラムの効果的な普及支援

以下では、育成プログラムの普及支援に関して、本年度事業で行った事項を順に記述する。

5-1-1. 育成プログラム配信サーバの構築と運用

平成 19 年 7 月に構築・公開された配信サーバ、および育成プログラム普及のためのウェブサイト「伸ばそう ICT メディアリテラシー」<<http://www.ict-media.net/>> (以下、「公式サイト」とよぶ) について、平成 20 年 3 月にリニューアルされたものを継続して管理・運用した。

さらに、平成 20 年 4 月より、公式サイトにて育成プログラムの各種テキストを自由にダウンロードできるよう改良を行った。

表 5-1-1-1 に、平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月までの公式サイトへのアクセス数の履歴を示す。

ここで「ページビュー」とは、あるウェブサイトを構成する各ウェブページについて、それが表示された回数を意味し、「ヒット数」とは、表示されたウェブページ、およびそれらのウェブページを構成する文書、画像、音声など個々の素材を、ファイル単位でカウントした値である。「訪問者数」とは、ウェブサイトを訪れた人数であり、1 回 (通常 30 分以内) の訪問においては、同じ人が何ページ見ても 1 訪問者と数える。「ページ閲覧数」とは、ウェブサイトへの 1 回のアクセスにおいて、ある訪問者がページをいくつ閲覧したかを示す数であり、ページビュー ÷ 訪問者数で計算される。例えば、あるウェブサイトへアクセスした 2 人の訪問者が、それぞれ 3 ウェブページを閲覧し、各ページには 5 つの画像が含まれている場合、ページビューは $6 (= 3 \times 2)$ 、ヒット数は $36 (= 18 \{ \text{ページそのものの数 } 3, \text{ その中の画像ファイル } 5 \times 3 = 15 \text{ の和} \} \times 2)$ 、訪問者数は 2、そしてページ閲覧数は $3 (= 6/2)$ となる。ページビュー、ヒット数および訪問者数は、それぞれあるサイトの総体的な訪問ページ数、訪問したページ数 + その中の素材コンテンツ数、および訪問者数を測るのに用いられる。ヒット数はサーバの負荷を測るのに用いられることもある。また、ページ閲覧数は、より興味を持った訪問者ほど、そのサイトのより多くのページを閲覧するという意味で、サイトへの訪問者の興味の度合いを評価するのに用いられる。

表 5-1-1-1 公式サイトアクセス状況 (平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月)

【公式サイトアクセス状況】	4月	5月	6月	7月	8月	9月
ページビュー	19,384	13,978	32,700	40,440	46,040	20,000
訪問者数(のべ)	2,873	3,827	4,592	5,182	4,653	3,638
平均ページ閲覧数	6.75	3.65	7.12	7.80	9.89	5.50
ヒット数	73,557	82,093	212,907	230,766	214,089	126,518

10月	11月	12月	1月	2月	3月	Total	月平均
104,970	63,262	32,539	26,012	63,470	25,583	488,378	40,698
4,989	4,424	4,179	4,460	4,538	4,008	51,363	4,280
21.04	14.30	7.79	5.83	13.99	6.38	9.51	9.51
287,432	207,395	170,341	157,211	223,117	118,406	2,103,832	175,319

12ヶ月間の合計が、ページビュー約 490,000、ヒット数約 2,100,000、訪問者数(のべ)約 51,000 であった。月平均で見ると、ページビュー約 41,000、ヒット数は約 175,000、訪問者数は約 4,300 であった。また、平均ページ閲覧数は、約 9.5 であった。

表 5-1-1-2 公式サイトアクセス状況(平成 19 年度との比較)

公式サイトアクセス状況	ページビュー	訪問者数	平均ページ閲覧数	ヒット数
平成 19 年度(7 月～3 月)	／	11,694	／	404,477
平成 20 年度(4 月～3 月)	488,378	51,363	9.51	2,103,832
平成 19 年度月平均	／	1,299	／	44,942
平成 20 年度月平均	40,698	4,280	9.51	175,319

(平成 19 年度データ出典)平成 19 年度総務省事業「ICT メディアリテラシー育成プログラムの普及・検証に関する調査研究」報告書

平成 19 年度の 9 ヶ月間(平成 19 年 7 月～平成 20 年 3 月)で、ヒット数が約 400,000、訪問者数が約 12,000 であった。月平均で見ると、平成 20 年度は 19 年度に比べてヒット数は約 390%、訪問者数は約 330%増加した。

また、公式サイト内のインターネット補助教材(ICT シミュレーターおよび解説コンテンツ)のアクセス状況は以下の通りである。

表 5-1-1-3 公式サイト内のインターネット補助教材アクセス状況(平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月)

【公式サイト/インターネット補助教材ヒット数】	4月	5月	6月	7月	8月	9月
ICTシミュレーター	148	205	1,051	751	618	554
解説コンテンツ	93	125	266	343	297	169

10月	11月	12月	1月	2月	3月	Total
1,215	852	1,147	560	910	290	8,301
326	351	272	222	263	138	2,865

公式サイトの月別のアクセス状況をグラフ化すると、以下のようになる。

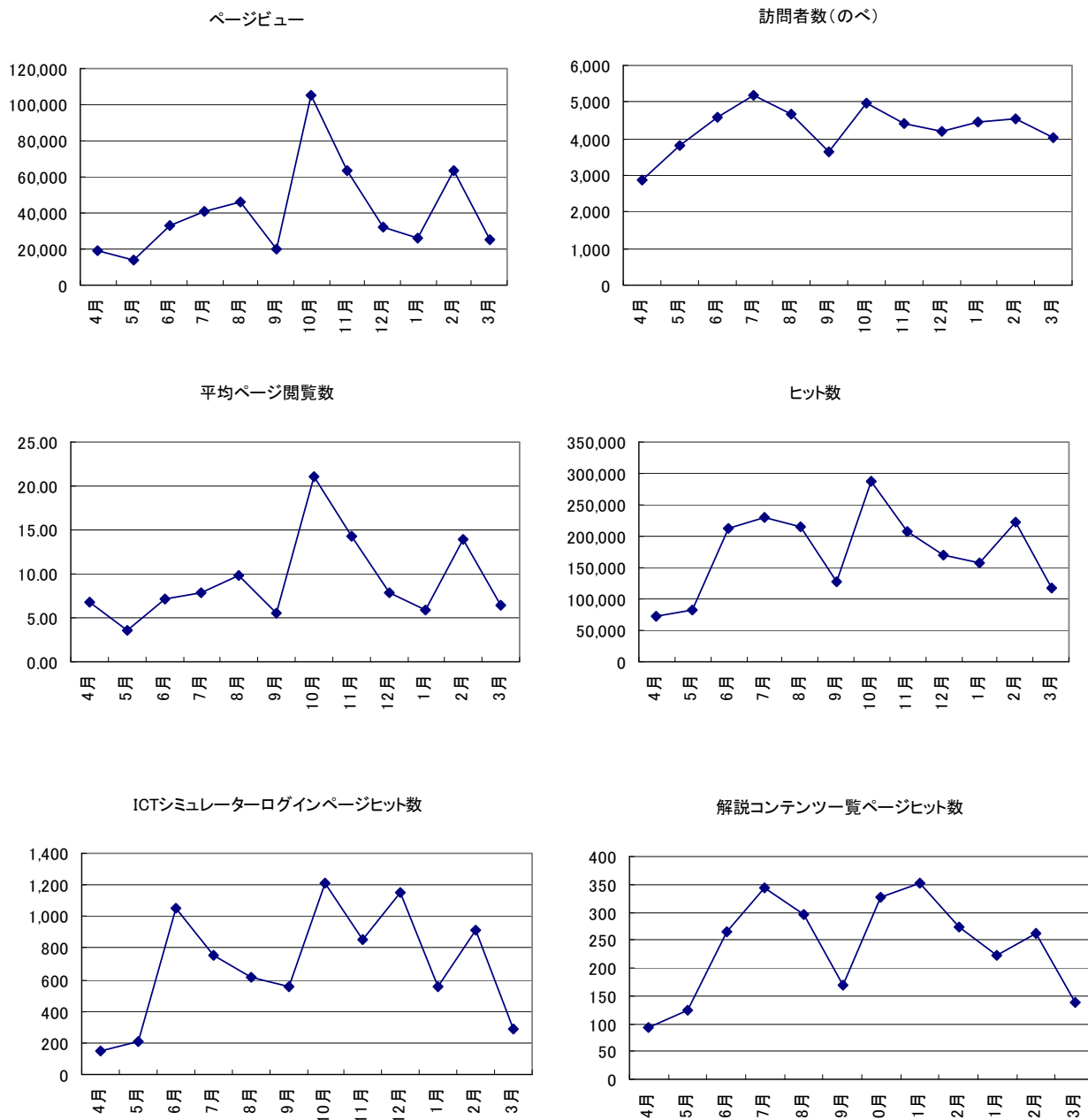


図5-1-1-1 公式サイトアクセス状況(平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月)

【ページビュー】

6 月から順調に伸び出し、10 月にページビューが急増している。11 月、2 月の値も高い。

【訪問者数】

年度当初から増加し、6 月以降、ほぼコンスタントに毎月 4,000 名以上はサイトを訪れている。

【平均ページ閲覧数】

10 月、11 月、2 月は平均閲覧ページ数が特に高い。ページビューが高い値を示す月は平均ページ閲覧数の値も高い。

【ヒット数】

6 月に大幅に増加し、以降、おおむね毎月 200,000 ヒット前後で推移している。

【ICT シミュレーターログインページヒット数】

6 月、10 月、12 月、2 月のヒット数が高くなっている。

【解説コンテンツ一覧ページヒット数】

7 月、8 月、10 月、11 月のヒット数が高くなっている。

いずれも 4 月～5 月の値が事業実施期間中での最低値に近く、6 月に上昇している。6 月には広報リーフレットの配布(5-1-3. (1)参照)や研修会・イベント等(5-1-3. (3)参照)が開始されており、これらの活動による値の上昇と考えられる。

また、10 月には前月と比べて全ての値が急増しており、ページビュー、平均ページ閲覧数、ヒット数、および ICT シミュレーターログインページヒット数では、事業実施期間を通じての最高値を記録している。5-1-3. にて述べるように、10 月には様々な広報活動等の実施が集中しており、これらの活動による値の上昇と考えられる。特に、ICT シミュレーターログインページヒット数は、10 月に限らず広報活動等の実施と明瞭に相関している(図 5-1-3-1 参照)。

5-1-2. 育成プログラムの配布

(1) テキスト教材およびインストール用 CD

4 種類のテキスト教材、すなわち「ティーチャーズガイド」「学習テキスト」「家庭学習用ガイドブック」「学習ワークブック」の利用シーンや利用対象者は、以下の通りにまとめられる。

表 5-1-2-1 テキスト教材一覧

テキスト教材名	利用シーン	利用対象者
ティーチャーズガイド(指導者用マニュアル)	セミナー学習 (学校での授業等)	指導者
学習テキスト(子ども向け教材)		学習者(子ども)
家庭学習用ガイドブック(保護者用マニュアル)	家庭学習	保護者
学習ワークブック(子ども向け教材)		学習者(子ども)

(出典)平成 18 年度総務省事業「ユビキタスネット時代における新たな ICT メディアリテラシー育成手法の調査・開発」報告書

各テキスト教材の利用シーンやその件数等を想定し、本年度は、ティーチャーズガイド 2,500 部、学習テキスト 5,500 部、家庭学習用ガイドブック 1,000 部、および学習ワークブック 1,000 部の計 10,000 部を増刷した。

また、「ICT シミュレーター」と「解説コンテンツ」からなるインターネット補助教材をインストールするための CD-ROM(以下、「インストール用 CD」とよぶ)は、要望に応じて適宜用意した。

(2) テキスト教材およびインストール用 CD 配布

テキスト教材およびインストール用 CD は、以下の方法で配布した。

① 希望者への郵送による配布

公式サイトを通じて、育成プログラムを利用し、教材の内容を理解していただいた方に対して、「教員研修」「授業」「保護者研修」「家庭学習」の実施を募った。それに応じてヘルプデスク(5-1-4. 参照)に応募してきた希望者に、テキスト教材のセットを配布した。各セットの概要は以下の通りである。

- 教員研修用セット
育成プログラムを用いての教員研修を予定している指導主事等に対し、基本的には、ティーチャーズガイド 50 部、学習テキスト 50 部を送付した。
- 授業用セット
育成プログラムを用いての授業を予定している教員等に対し、基本的には、ティーチャーズガイド 2 部、学習テキスト 50 部を送付した。
- 保護者研修用セット
育成プログラムを用いての保護者研修を予定している方に対し、基本的には、ティーチャーズガイド 50

部、学習テキスト 50 部を送付した。

- 家庭学習用セット
育成プログラムを用いての家庭学習を予定している保護者に対し、基本的には、家庭学習用ガイドブック 1 部、学習ワークブック 1 部を送付した。
- インストール用 CD については、ヘルプデスクへの申し込みに基づいて郵送した。

② 教員研修会やイベント等における配布

教員研修会やイベント等で行った育成プログラムの普及活動(5-1-3. 参照)においても、テキスト教材やインストール用 CD の配布を行った。

上記①②によるテキスト教材、インストール用 CD の配布実績を、表5-1-2-2にまとめた。

表 5-1-2-2 テキスト教材、およびインストール用 CD 配布実績(平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月)

		件数	ティーチャーズガイド	学習テキスト	家庭学習用ガイドブック	学習ワークブック	テキスト教材計	インストール用 CD
テキスト配布	教員研修	44	2,076	2,116	0	0	4,192	2
	学校での授業	87	251	3,472	0	0	3,723	24
	保護者研修	16	0	0	688	688	1,376	0
	家庭学習(個別)	36	0	0	36	36	72	0
イベントでの提示・配布分		7	549	523	220	184	1,476	76
計		190	2,876	6,111	944	908	10,839	102
平成 19 年度実績		60	711	1,465	90	81	2,347	22

(平成 19 年度データ出典)平成 19 年度総務省事業「ICT メディアリテラシー育成プログラムの普及・検証に関する調査研究」報告書

③ 公式サイト等からのダウンロードによる配布

テキスト教材の郵送以外に、インターネットを活用した育成プログラムの配布を実施した。テキスト教材を PDF 化し、公式サイト、および内田洋行教育総合研究所「学びの場.com」等の協力サイトから、ダウンロードできる仕組みを構築した。「学びの場.com」は、教員や教育関係者を対象として先進的な教育情報を提供する会員制 Web サイトである。協力サイトである「NPO 法人学習開発研究所ホームページ」、「京田辺市教育委員会ホームページ」は、サーバ運営管理を行っている業務担当者の関係先として、育成プログラムの配布に協力いただいた。

協力サイトを含めた、教材のダウンロード状況は以下の通りである。

表 5-1-2-3 テキスト教材ダウンロード状況(平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月)

ダウンロード数 合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ティーチャーズ ガイド	285	327	349	504	392	191	266	205	245	270	297	195	3,526
学習テキスト	239	363	358	617	500	166	229	165	164	193	223	125	3,342
家庭学習用 ガイドブック	142	206	165	234	169	99	145	85	149	91	100	84	1,669
学習 ワークブック	133	147	128	191	150	75	113	77	163	78	82	66	1,403
月別ダウン ロード数総計	799	1,043	1,000	1,546	1,211	531	753	532	721	632	702	470	9,940
平成 19 年度(7 月～3 月)ダウンロード数													5,476

(平成 19 年度データ出典)平成 19 年度総務省事業「ICT メディアリテラシー育成プログラムの普及・検証に関する調査研究」
報告書

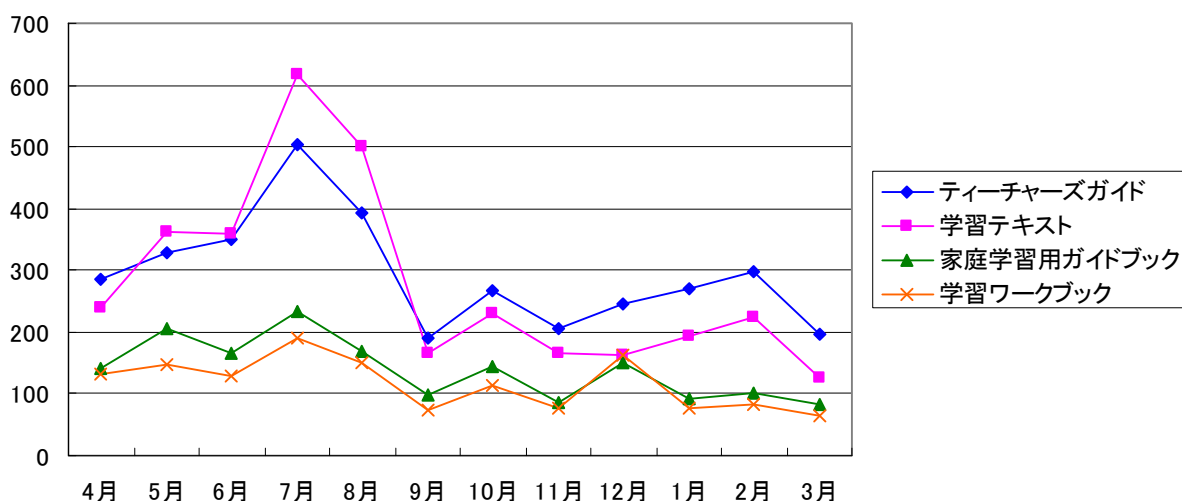


図 5-1-2-1 テキスト教材ダウンロード状況(平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月)

5-1-1. で述べたように、公式サイトの利用がすすみ、全体のページビューが増加した 6 月辺りから(表 5-1-1-1 および図 5-1-1-1 参照)、ダウンロード数が増加し始め、8 月まで大きく伸びている。特に夏休み期間中が有効でダウンロード数が高い。9 月、11 月は若干ペースが落ちているが、年末、年始であがってきている。1 月～2 月は特にティーチャーズガイドと学習テキストが伸びている。

平成 19 年度が 7 月～3 月の 9 ヶ月間でダウンロード総数が 5,476 で、月平均は 608 であるのに対して、平成 20 年度は 12 ヶ月で 9,940、月平均 828 となっており、月平均比較では昨年度の 1.3 倍以上になっている。ダウンロードされたファイルから、複数プリントアウトして使用していると推察されるため、実際の提供数は、本数字より多いと考えられる。

5-1-3. 普及広報

(1) リーフレットによる広報

育成プログラム広報用リーフレット(以下、「リーフレット」とよぶ)を、以下のように配布した。配布実績は平成 19 年度とほぼ同程度である。

表 5-1-3-1 リーフレット配布実績(平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月)

日付	件名	配布数
平成 20 年 6 月～7 月	主に関東・東北地方の教育委員会・学校への直接配布	2,000
平成 20 年 6 月～7 月	主に関西地方の教育委員会・学校への直接配布	1,500
平成 20 年 6 月～7 月	主に北海道、九州地方の教育委員会・学校への直接配布	1,000
平成 20 年 6 月～7 月	全国の教材取扱店等への直接配布	350
平成 20 年 6 月 5-7 日	New Education Expo 2008 in 東京	1,250
平成 20 年 6 月 18-19 日	New Education Expo 2008 in 大阪	710
平成 20 年 6 月 30 日	研修会等での直接配布	1,000
平成 20 年 7 月 9 日	都道府県・指定都市青少年行政主管課長等会議(内閣府)	120
平成 20 年 7 月 9 日	研修会等での直接配布	1,000
平成 20 年 8 月 2 日	やまなし ICT 利活用研究会	70
平成 20 年 8 月 19 日	松戸市立馬橋小学校(佐和伸明教諭より依頼)	100
平成 20 年 9 月 26 日	全国生涯学習・社会教育主管課長会議(文部科学省)	電子媒体で提供
平成 20 年 10 月 4 日	ICT 活用授業カゼミ	60
平成 20 年 10 月 4-5 日	ヒューマンフェスタとちぎ 2008	500
平成 20 年 10 月 11-15 日	e スクール 2008	50
平成 20 年 11 月 2-3 日	New Education Expo 2008 in 大阪	100
平成 20 年 11 月	主に東京および近県の教育委員会・学校への直接配布	500
平成 20 年 11 月 28 日	ネット社会と子どもたち協議会設立4周年フォーラム	200
平成 20 年 12 月 23 日	ICT 活用授業カゼミ	100
平成 21 年 1 月 24 日	全国の教育委員会・教育センター	750
平成 21 年 1 月 30 日	全国生涯学習・社会教育主管課長会議(文部科学省)	電子媒体で提供
平成 21 年 2 月	主に大阪および近県の教育委員会・学校への直接配布	500
平成 21 年 2 月 10 日	情報モラル教育セミナー in 大阪	50
平成 21 年 2 月 23 日	情報モラル教育セミナー in 東京	50
平成 21 年 3 月 28 日	日本理科教育学会理事会	20
平成 21 年 3 月 28 日	国語授業 ICT 研究会	100
平成 21 年 3 月 29 日	小学校英語「わいわいガヤガヤ」玉手箱 東京大会	100
	計	12,180
	平成 19 年度実績	12,055

(平成 19 年度データ出典)平成 19 年度総務省事業「ICT メディアリテラシー育成プログラムの普及・検証に関する調査研究」報告書 *行事等の概要については、(3)を参照

また、昨年度事業にて、育成プログラムの主対象である小学校 5 年生、6 年生の教員を訴求対象として念頭に置いて製作した広報リーフレットを一般向けに拡大したものを製作し、公式サイトに掲載した(添付資料 1)。

(2) ダイレクトメールによる広報

育成プログラムの広報、および次項(3)にて述べる「情報モラル教育セミナー in 大阪&東京」案内のため、全国の都道府県レベルの教育委員会・教育センター、および関東、関西の市区町村レベルの教育委員会にダイレクトメールを発送した(平成 21 年 1 月 24 日)。内容は、挨拶状、育成プログラムの広報リーフレット、上記セミナー案内リーフレット(添付資料 2,3)で、発送部数は 750 部であった。

(3) 研修会、イベントによる広報

育成プログラム普及のために、講師派遣を行った研修会や、育成プログラムの展示等を行ったイベントの実績を以下に示す。

表 5-1-3-2 研修会・イベント開催実績(平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月)

分類	開催日時	研修会・イベント名	参加人数
B2	平成 20 年 6 月 2 日	大阪府豊中市教育委員会 教員研修会	78
A	平成 20 年 6 月 5-7 日	New Education Expo 2008 in 東京	4,500(イベント総数)
A	平成 20 年 6 月 18-19 日	New Education Expo 2008 in 大阪	2,500(イベント総数)
B3	平成 20 年 7 月 4 日	神奈川県横浜市栄区桂台地域ケアプラザ 保護者研修	30
B2	平成 20 年 7 月 4 日	千葉県柏市 ICT 研究会 教員研修会	11
B1	平成 20 年 7 月 11 日	福島県矢祭町立東館小学校 公開授業	10
B2	平成 20 年 7 月 24 日	埼玉県川口市教員研修会 教員研修会	4
B2	平成 20 年 8 月 5 日	東京都東村山市教育委員会 教員研修会	21
B2	平成 20 年 8 月 6 日	静岡県富士市小学校情報教育研修会	43
B2	平成 20 年 8 月 8 日	静岡県長泉町夏季研修会	24
B2	平成 20 年 8 月 21 日	静岡県賀茂地区情報研修会	23
B2	平成 20 年 8 月 22 日	千葉県山武郡市視聴覚教材センター指導部研修会	12
B2	平成 20 年 8 月 26 日	埼玉県和光市 ICT 活用研修会	20
B2	平成 20 年 8 月 28 日	神奈川県茅ヶ崎市立鶴が台小学校 教員研修会	21
B2	平成 20 年 8 月 28 日	大阪府豊中市立千成小学校 教員研修会	23
B2	平成 20 年 9 月 5 日	千葉県習志野市情報担当教員研修会	27
B4	平成 20 年 10 月 4 日	ICT 活用授業力ゼミ	38

B4	平成 20 年 10 月 4-5 日	ヒューマンフェスタ 2008 とちぎ	11,000 (イベント総数)
B4	平成 20 年 10 月 11-15 日	e スクール 2008 セミナー	94
B3	平成 20 年 11 月 15 日	千葉県九十九里町立九十九里小学校 親子向け 研修会	350 (児童 290、保護者 60)
B2	平成 20 年 11 月 29 日	千葉県山武郡市広域組合教育委員会 研修会	38
B4	平成 20 年 12 月 23 日	ICT 活用授業力ゼミ	90
B2	平成 21 年 1 月 21 日	千葉県船橋市中学校教育協議会 教員研修会	14
A	平成 21 年 2 月 10 日	情報モラル教育セミナー in 大阪	32
B4	平成 21 年 2 月 14 日	ICT 活用授業力ゼミ	100
B2	平成 21 年 2 月 18 日	千葉県船橋市中学校教育協議会 教員研修会	12
A	平成 21 年 2 月 23 日	情報モラル教育セミナー in 東京	34

上記は、(A) 本事業運営事務局(3. 参照)またはその関連組織が主体となって実施したイベント 4 件(表 5-1-3-2 の分類 A、以下同様の意味)、および(B) 本事業運営事務局が実施依頼または運営協力依頼を受けて行った公開授業 1 件(B1)、教員研修 15 件(B2)、保護者または親子向け研修 2 件(B3)、イベント 5 件(B4)に分類できる。以下、(A)に属する「New Education Expo 2008 in 東京」、「New Education Expo 2008 in 大阪」、「情報モラル教育セミナー in 大阪」および「情報モラル教育セミナー in 東京」について詳述する。前 2 者と後 2 者とは、「New Education Expo 2008」と「情報モラル教育セミナー」として、それぞれまとめて記述する。

① New Education Expo 2008

New Education Expo 事務局主催による本イベントは、教育に関する様々なテーマについての、有識者の講演や各学校の実践事例発表等からなるセミナー、および教育関連の最新製品の展示会とを併せて行うものである。平成 20 年は第 13 回目を迎え、6 月 5 日～7 日に東京会場、6 月 18 日～19 日に大阪会場にて実施された。

本イベントにおいては、講演や展示を通して、育成プログラムの普及・広報に努めた。育成プログラムの普及に関連した講演および展示は以下の通りであった。

展示	
日時・場所	平成 20 年 6 月 5 日～7 日 東京会場 (東京ファッションタウン) 平成 20 年 6 月 18 日～19 日 大阪会場 (大阪マーチャンダイズ・マート)
概要	● 大型ポスターの掲示、体験コーナーの設置、リーフレットの配布

講演 A 「教育の情報化に向けて ～10 万教室 ICT 化支援プロジェクトほか総務省の取組みと教育現場における ICT 活用事例のご紹介～」	
日時・場所	平成 20 年 6 月 6 日 (金) 13:00～15:00 東京会場 平成 20 年 6 月 18 日 (水) 10:00～12:00 大阪会場

概要	<ul style="list-style-type: none"> • 総務省情報通信政策局情報通信利用促進課長(当時)・松川憲行氏による、本事業を含む総務省事業についての紹介 • 内田洋行教育総合研究所による、育成プログラム紹介
----	--

講演 B 「はじめよう！情報モラル教育～子どもたちにネット・ケータイどうやって教えますか？～」	
日時・場所	平成 20 年 6 月 7 日 (土) 12:50～14:50 東京会場 平成 20 年 6 月 19 日 (木) 10:00～12:00 大阪会場
概要	<ul style="list-style-type: none"> • 滋賀大学教育学部教授 教育実践総合センター所長 宮田仁氏による、情報モラル教育の最新状況等についての紹介 • 千葉県松戸市立馬橋小学校教諭 佐和伸明氏による、育成プログラムの学校での授業実践報告(東京会場のみ) • 京都市立新洞小学校教務主任 勝木清隆氏による、小学校における情報モラル教育の実践報告(大阪会場のみ) • 内田洋行教育総合研究所による、育成プログラム紹介

② 情報モラル教育セミナー

内田洋行教育総合研究所主催による本セミナーは、情報モラル教育の現状やトピックスの紹介に加え、特に都道府県レベルの教育委員会・教育センターの指導主事(主に情報担当)を対象に育成プログラムの概要や教育現場への導入手順を紹介し、平成 21 年度の夏期教員研修会のプログラムに加えていただくことにより、2 学期以降の学校現場での普及につながることを目的に開催した。

主な内容は以下の通りで、両会場とも共通であった。

日時・場所	平成 21 年 2 月 10 日(大阪会場:株式会社内田洋行 大阪支店 2F 会議室) 平成 21 年 2 月 23 日(東京会場:株式会社内田洋行 新川オフィス B1F ユビキタス協創広場 CANVAS)
概要	講 演: 「ネットワーク社会における人権ーはじめよう情報モラル教育ー」 滋賀大学教育学部教授 教育実践総合センター所長 宮田 仁 氏 実践報告: 「情報モラル育成実践ーICT シミュレーターを活用してー」 千葉県松戸市立馬橋小学校 教諭 佐和 伸明 氏 紹 介: 「総務省情報モラル教材『伸ばそう ICT メディアリテラシー つながる！わかる！伝える！これがネットだ』のご紹介」 内田洋行教育総合研究所

参加者数は、大阪会場 32 名、東京会場 34 名であり、事後に産経新聞(3 月 4 日)や、様々なブログ等で紹介される等の反響があった。

セミナー開催後に、研修参加御礼メール、個別対応のメール、都道府県および市町村教委(含センター)へメール、都道府県および市町村教委(含センター)への訪問等、参加者への事後フォローを行った。

(4) 新聞広告

平成 20 年 10 月 6 日、日本教育新聞に、育成プログラムの広告を掲載した。



(5) ウェブサイトによる広報

内田洋行教育総合研究所による教育ポータルサイト「学びの場.com」<<http://www.manabinoba.com/>>から、育成プログラムの広報を展開した。本サイトは、会員数約 50,000、月間平均ページビュー約 300,000 のウェブサイトであり、会員の半数以上を、教員はじめ教育関係者が占めているのが特徴である。

本サイトを用いての育成プログラム広報は、以下のような方法で行った。

- ① トップページにバナーを掲載し、公式サイトへの誘導を行った。以下に、その画面キャプチャーを示す。



② 育成プログラムに関連した記事を掲載し、育成プログラムの普及や利用の実態について紹介した。主要なものを以下にあげる。

- 「伸ばそう ICT メディアリテラシー 一つつながる！わかる！伝える！これがネットだー (08/07/16)」
<http://www.manabinoba.com/index.cfm/4,8751,149,32,html> (添付資料 4)
- 「New Education Expo2008 in 東京 現地ルポ ～3 つのテーマで、明日の教育の姿をイメージする～(08/07/23)」
<http://www.manabinoba.com/index.cfm/4,10187,252,html> (添付資料 5)
- 「メディアリテラシー(情報モラル)教育は小学校段階から～携帯電話の光と影を知る～(08/08/20)」
<http://www.manabinoba.com/index.cfm/4,10240,149,32,html> (添付資料 6)

③ メールニュースを 9 回配信(各 28,000 通以上発信)し、育成プログラムを紹介した。

他に、株式会社キャリア・ママと連携し、同社メールマガジン(1 度に約 45,000 通発信)にて 2 度、育成プログラムに関する広報を行った。

また、主婦層を中心とした会員を多数擁し、保護者に対する訴求効果が期待できる同社のウェブサイトのトップページ<<http://www.c-mam.co.jp/>>に、育成プログラムのバナーを、平成 20 年 10 月 6～19 日の期間掲載した。以下に、その画面キャプチャーを示す。



以上の広報活動等と、公式サイト内のインターネット補助教材のアクセス状況(数値データは表5-1-1-3参照)の関連は以下の通りであり、広報活動等を行った月に ICT シミュレーターへのアクセス数が増えることがみとれた。

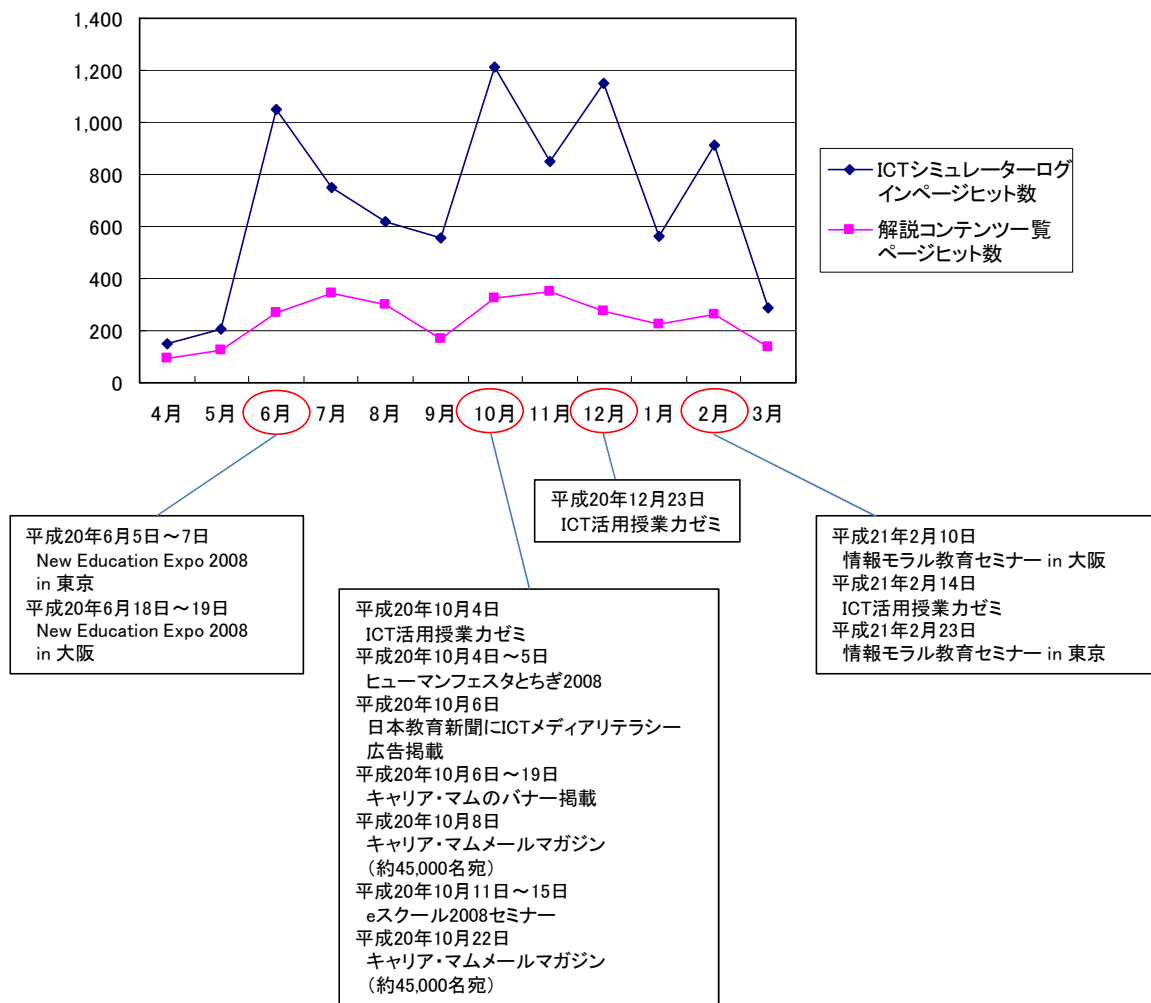


図 5-1-3-1 実施した広報活動等とインターネット補助教材アクセス状況との関連
(平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月)

(6) 公式サイトに対するリンク等の状況

最後に、ここまでの様々な広報活動の結果の一例として、公式サイトに対するリンク等の状況を紹介します。方法は、「link:http://www.ict-media.net」を検索キーワードとする infoseek 検索(公式サイト URL への逆リンク検索)、および「ICTメディアリテラシー」(引用符つき)を検索キーワードとする Google および Yahoo 検索である。前者は、公式サイトに直接リンクしているサイトの検索であり、約 70 件が見つかった。後者は「ICTメディアリテラシー」という語を含むウェブサイトの検索であり、類似ページをのぞいて約 250 件(Google)と約 360 件(Yahoo)見出された(平成 21 年 3 月現在)。

そのほとんどが本教材関連サイトへのリンクおよびその内容のコピーないし要約であるが、感想やコメント等が掲載されているものもあった。

また、直接に育成プログラムに関係するもののほか、5-1-3. (3)に述べた研修会やイベントに関するものも含まれており、研修会やイベントが普及広報活動として効果をあげているといえる。

5-1-4. ヘルプデスクの設置と運営

育成プログラムを導入および使用するにあたって想定される問合せに対しては、公式サイトに Q&A (FAQ) を掲載して対応したが、それ以外の個別の問合せに対応するため、ヘルプデスクを設置した。ヘルプデスクは、平成 20 年 4 月 1 日から 3 月 31 日まで運営し、原則メールで対応したが、問合せ内容に応じて電話や訪問対応を行った。本年度実績は、メールが約 370 件、電話や直接対応を含め全体で約 500 件(昨年度実績は全体で 310 件)であった。ヘルプデスクへの問合せ内容としては、教育委員会や学校での教員研修や教材研究のためのインストール用 CD の送付依頼、インストール用 CD からのインストールの仕方やインストール後の運用の仕方についての問合せ、授業を行う前提でのテキスト教材冊子の送付依頼、イベントでの育成プログラムの展示・紹介の依頼等であり、本格的に使用するための技術的・具体的な内容が多かった。このような問合せに対しては、ネットワーク環境等が導入現場ごとに異なっていることもあり、現場を訪問して個別に対応する場合があった。

5-1-5. 育成プログラムの利用に関する FAQ 作成

今年度のヘルプデスクへの問合せ内容を整理し、一般化した上で公式サイトに追加した事項は以下の通りである。Q18については、内容の一部追加、Q22～24については、新規追加である。

<p>Q18. 教材をこちらのサーバにインストールして使いたいのですが、どうすればよいですか？</p> <p>各地域でサーバを構築いただける教育委員会(教育センター)や NPO の方には、媒体(CD 等)にて教材プログラムを提供しています。ご希望の場合は株式会社内田洋行 教育総合研究所 ICT メディアリテラシー普及グループまでメールにてご連絡ください。</p> <p>※インストールには、教育委員会等、サーバ管理責任者の許可が必要な場合があります。</p> <p>※インストール作業はご利用者側にて行っていただきます。</p> <p>※インストールマニュアルは CD の中にありますが、こちらからもダウンロードできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • インストールマニュアル • 利用者登録マニュアル
<p>Q22. 本教材はどのように利用されていますか？</p> <p>教員/学校 331 件、保護者/家庭 186 件を対象に、本教材についての利用状況調査を行いました。結果(抜粋)は以下からダウンロードできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本教材の利用状況調査について ^(a)
<p>Q23. 本教材を簡単に紹介できるリーフレットなどはありますか？</p> <p>以下から PDF データをダウンロードしてお使いください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一般用リーフレット ^(b) • 小学校 5 年生、6 年生の教員向けリーフレット ^(c)
<p>Q24. 教育委員会や教育センターのサーバに、本教材をインストールしました。各学校にその旨を通知したいのですが、どのように紹介すればよいですか？</p> <p>各学校への通知文例を作成しました。以下からデータをダウンロードの上、加工してお使いください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「伸ばそう ICT メディアリテラシー」の導入通知見本 ^(d)

^(a) 添付資料 7 参照

^(b) 添付資料 1 参照

^(c) 平成 19 年度総務省事業「ICT メディアリテラシー育成プログラムの普及・検証に関する調査研究」報告書 添付資料(番号なし) 2) 参照

^(d) 添付資料 8 参照

5-2. 育成プログラムの利用状況に関する調査・分析

5-2-1. 調査概要

育成プログラムを、公式サイト上または研修等で体験、利用した人、あるいはサーバにインストールして利用した人(以下、総称して利用者という)に対して、育成プログラムの利用状況、効果、課題、改善項目についてアンケート調査し、育成プログラムの普及および改良に関するポイントを策定することが本調査の主な目的である。また育成プログラムには直接関係しないが、今後の ICT メディアリテラシー育成や情報モラル教育に関する要望や意見があった場合は、別途まとめを行う。

(1) 調査方法

ウェブによるアンケート(ウェブ調査)と、教員研修や保護者研修での、書面によるアンケート(質問紙調査)の 2 通りとした。

(2) 調査対象

育成プログラムの利用者を対象とした。回答者総数は 517 名。うち、教員研修主催者を含む教員(以下、「教員」とよぶ)は 331 名。保護者研修主催者を含む保護者(以下、「保護者」とよぶ)は 186 名。

(3) 調査期間

平成 20 年 6 月～12 月の間で随時実施した。詳細は、表 5-2-1-1 に示す。

(4) 調査項目

調査項目を大別すると、「教える対象」、「選択した学習テーマ」、「選定理由」、「授業の状況」、「授業後の状況」、「家庭の状況」および「要望・意見等」となる。このうち、「授業の状況」、「授業後の状況」、「家庭の状況」は、複数の設問項目からなる。

なお、アンケート回答者の属性や育成プログラムの利用状況等が異なることと、仮説を追加しながら設問を策定していくため、アンケートの実施時期や方法により、設問構成が異なっている場合がある。

表 5-2-1-2 に、アンケートの設問項目と、それぞれに対する回答者数および有効回答数を示す。複数回答が可能な設問項目については、有効回答数が回答者数より大きくなる。

アンケートの書式については、添付資料 9 を参照のこと。アンケート中では、回答者の便宜のため、インターネット補助教材を「ネット教材」、テキスト教材を「冊子」とよんでいる場合がある。また、本報告書内に例示してあるアンケート設問文は、同じ趣旨の設問でも、調査方法や調査対象の違いによって、添付資料 9 中の設問文とは表現が異なる場合がある。

表 5-2-1-1 アンケート調査実施概要

番号	アンケート調査方法	場所	区分	対象	調査期間	回答者数(人)
1	ウェブ調査	公式サイト等	教員	教員研修主催者	平成20年6月～平成20年10月	40
2	ウェブ調査	公式サイト等	教員	教員	平成20年6月～平成20年10月	72
3	ウェブ調査	公式サイト等	保護者	保護者研修主催者	平成20年6月～平成20年10月	15
4	ウェブ調査	公式サイト等	保護者	保護者	平成20年6月～平成20年10月	35
5	質問紙調査	埼玉県川口市教員研修	教員	教員	平成20年7月	4
6	質問紙調査	東京都東村山市情報担当者研修	教員	教員	平成20年8月	15
7	質問紙調査	静岡県富士市小学校情報教育研修会	教員	教員	平成20年8月	37
8	質問紙調査	静岡県長泉町夏季研修会	教員	教員 教育研修主催者	平成20年8月	23
9	質問紙調査	静岡県賀茂地区情報研修会	教員	教員	平成20年8月	20
10	質問紙調査	千葉県山武郡市視聴覚教材センター指導部研修会	教員	教員 教育研修主催者	平成20年8月	9
11	質問紙調査	埼玉県和光市ICT活用研修会	教員	教員	平成20年8月	14
12	質問紙調査	神奈川県茅ヶ崎市立鶴が台小学校教員研修会	教員	教員	平成20年8月	9
13	質問紙調査	大阪府豊中市立千成小学校教員研修会	教員	教員	平成20年8月	19
14	質問紙調査	千葉県習志野市情報担当教員研修会	教員	教員	平成20年9月	24
15	質問紙調査	千葉県山武郡市小中保護者対象教員相談後援会	保護者	保護者	平成20年11月	13
16	ウェブ調査	公式サイト等	教員	教員	平成20年11月～平成20年12月	45
17	ウェブ調査	公式サイト等	保護者	保護者	平成20年11月～平成20年12月	19
18	ウェブ調査	公式サイト等	保護者	保護者	平成20年11月～平成20年12月	104

計(人) 517

区分別小計
 教員(人) 331
 保護者(人) 186

表 5-2-1-2 アンケート調査設問状況

番号(表5-2-1-1中の番号に対応)	区分	回答者数	教える対象	学習テーマ	選択理由	授業の状況					授業後の状況					家庭の状況					(要望・意見等 自由記入)					
						実施対象	実施場所	実施方法	実施者	利用教材	他の教材の活用状況	学習効果	今後の利用	教員向け研修	保護者向け研修	利用頻度	ネット	携帯電話	所有状況	教える人		時間帯	学習の場所	利用教材	他の教材の活用状況	学習効果
1	教員	40	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
2	教員	72	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
3	保護者	15	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
4	保護者	35	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	
5~14	教員	174	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
15	保護者	13	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	
16	教員	45	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
17	保護者	19	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	保護者	104	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

回答者数	517	462	517	517	174	219	219	45	45	45	45	45	45	45	171	171	171	171	123	123	123	123	123	123	104	-
有効回答数	688	1,237	1,576	300	224	219	52	45	50	45	45	45	45	45	171	171	171	171	123	123	123	123	135	104	-	

○ 調査を行った項目 - 調査を行わなかった項目

(5)集計・分析のポイント

教員については、学校における教員の育成プログラムの利用状況、効果、課題、改善ポイント等に着目する。保護者については、家庭における保護者の育成プログラムの利用状況、効果、課題、改善ポイント等に着目する。集計の際は、教員と保護者の両方に対して行っている設問については、教員、保護者でのクロス集計を行い、教員と保護者の回答傾向の違いを探った。このほかに以下のクロス集計を行った。

なお、図中に表記される N 値は、表 5-2-1-2 に示す回答者数を指す。また、円グラフは全体の選択数に対し、当該選択肢等がどの程度の割合で選択されていたかを構成比で示している。

【教える対象別クロス集計】

「教える対象」の学年による傾向をみるために、育成プログラムの主たる対象である「小学校 5 年生、6 年生」のグループと、「小学校 4 年生以下」、「中学校 1 年生以上」の 3 つのグルーピングを行い、「選択した学習テーマ」、「選定理由」、「実施対象授業」、「学習する時間帯」、「要望・意見等(自由記入)」に関する設問に対して、クロス集計を行った。

教員研修主催者向けアンケートおよび保護者研修主催者向けアンケートでは、教える対象の学年を聞いていない(表5-2-1-2の1,3番参照)ため、教える対象のグルーピングでは、集計の対象外とした。

また、「教える対象」(複数回答可)が、上記3つのグループの2つ以上に属する場合は、重複して集計した。したがって、ある設問に対するグループ別回答者数の合計および有効回答数の合計が、それぞれ当該設問の回答者総数および有効回答総数より多くなることもある。(表5-2-2-1、表5-2-2-2、図5-2-2-8、図5-2-2-10、図5-2-2-17、図5-2-2-19、図5-2-2-24、図5-2-2-37参照)

【教える人別クロス集計】

家庭での状況について、「教える人」の違いによる回答傾向の異なりを探るために、教える人の最も主要な割合(あわせて88.8%)を占める「父親」と「母親」の2つのグループについて、「選択した学習テーマ」、「選定理由」、「学習する時間帯」に関する設問に対して、クロス集計を行った。

なお、保護者研修主催者向けアンケートでは、「教える人」について聞いていない(表5-2-1-2の3番参照)ため、本集計の対象外とした。

また、教える人は父親、母親に限らないため、ある設問に対する「父親」「母親」別回答者数の合計および有効回答数の合計が、それぞれ当該設問の回答者総数および有効回答総数より少なくなることもある。(図5-2-2-12、図5-2-2-21、図5-2-2-39参照)

【携帯電話所有状況別クロス集計】

子どもの携帯電話の所有の有無による違いをみるために、「選択した学習テーマ」、「選定理由」に関する設問に対して、クロス集計を行った。

なお、保護者研修主催者向けアンケートでは、「携帯電話所有状況」について聞いていない(表5-2-1-2の3番参照)ため、本集計の対象外とした。また、携帯電話を今後持たせる予定の回答者の回答は、現在の実態を反映させるため、携帯電話を持っていない回答者に含めた。(図5-2-2-13、図5-2-2-22参照)

5-2-2. アンケート結果

以下に、設問ごとの集計結果を記述する。また一部設問においては、回答者の属性や利用状況とのクロス集計を行い、傾向の違いがあるかどうかをみていく。

5.2.2.1. 【教える対象】

育成プログラムを使って、教える対象(子ども)の学年を聞いたところ、回答は以下の通りであった。

教員向け設問:授業を行う対象学年は？(複数選択可)

保護者向け設問:今回、主に学習するお子さんの学年は？(複数選択可)

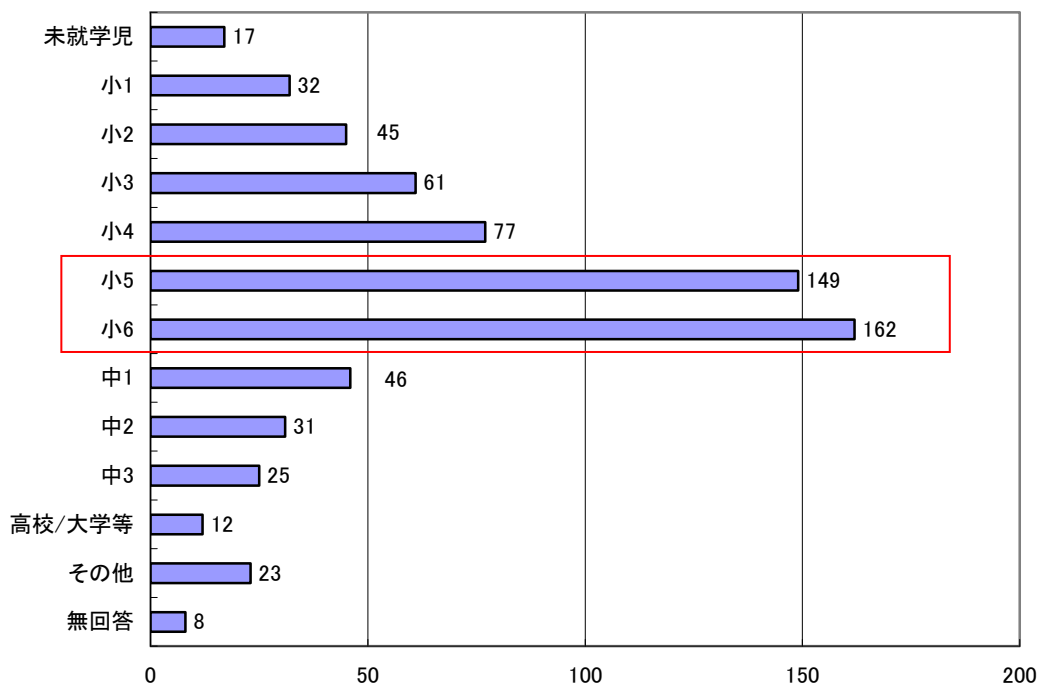


図 5-2-2-1 教える対象(N=462、有効回答数=688；
Nは該当設問の回答者数を意味する。以下同様)

これを、「小学校 4 年生以下」、「小学校 5 年生、6 年生」、「中学校 1 年生以上」の 3 つにグルーピングし、構成比率をみていくと、以下のようなかたちとなる。

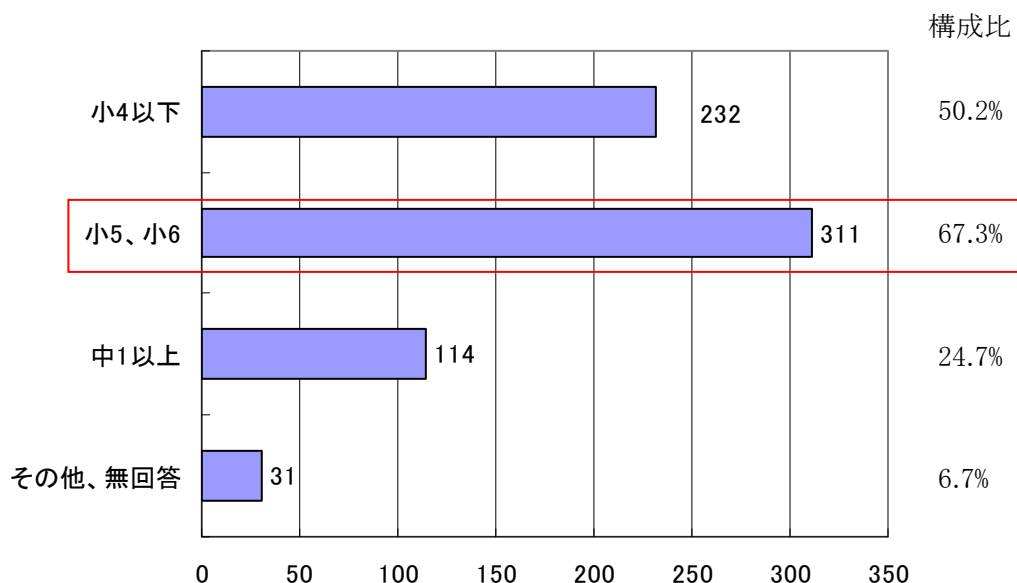
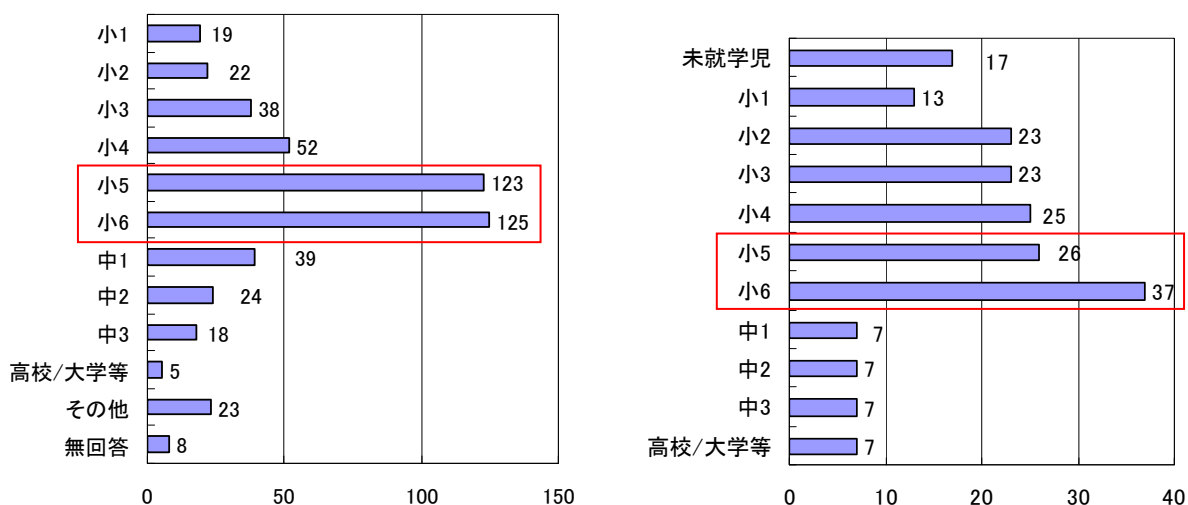


図 5-2-2-2 教える対象：グループ別構成比率

育成プログラムの主たる対象である「小学校 5 年生、6 年生」のグループの構成比率が 67.3%と最も高く、次いで「小学校 4 年生以下」の 50.2%となっている。

育成プログラムは、当初より「小学校 5 年生、6 年生」での学習を前提として設計し、公式サイトや広報リーフレット等においてもそのように案内してきたが、他学年でも利用して効果があったとの平成 19 年度成果を考慮し、本事業では、対象学年を大きく表記しないリーフレットを作成し配布するなどの工夫を行い、広報を行ったことが教える対象の広がりに影響している可能性もある。

さらに教える対象について、教員の回答と、保護者の回答に分けて見ていくと、以下の通りとなる。



教える対象:教員 (N=291、有効回答数=496)

教える対象:保護者 (N=171、有効回答数=192)

図 5-2-2-3 教える対象:「教員」、「保護者」別の回答

また、上記の結果を学年別の 3 つのグループ、および「その他」「無回答」に分けると以下の通りとなる。

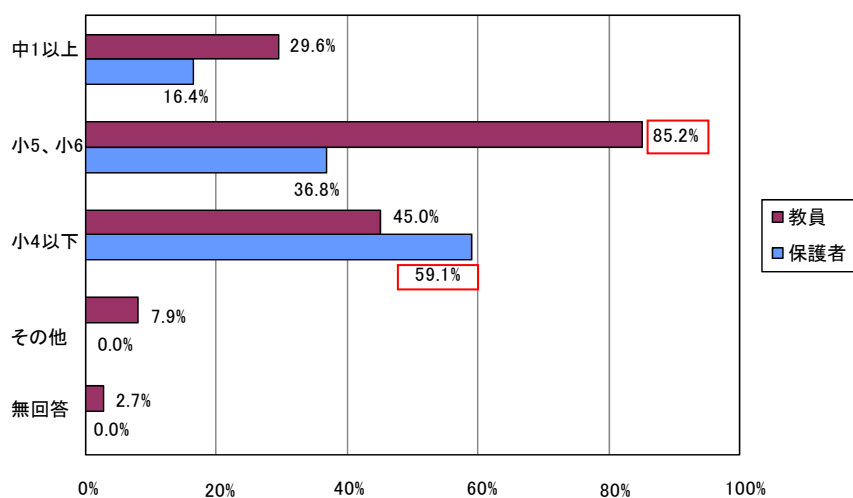


図 5-2-2-4 「教員」「保護者」別の、教える対象の選択結果

教える対象については、両者の利用状況に違いがみられた。

教員においては、85.2%が教える対象として、元々育成プログラムの主対象と想定された「小学校5年生、6年生」を選択しており、この層が利用の中心とみられた。一方、保護者において最も高い割合で選択されたのは、「小学校4年生以下」であり、59.1%であった。保護者においては、育成プログラムの元々の想定対象年齢にこだわらず、より低学年のうちから我が子に育成プログラムの学習内容を教えたいという考えが強いと思われる。

5.2.2.2. 【学習テーマの選択】

育成プログラムには、以下の 5 つの学習テーマが含まれる。

テーマ 1「インターネットで調べよう！」

コンピュータやインターネットを活用して情報を収集・編集・伝達する力を養うために、「土星の輪の正体」をテーマとした検索シミュレーターでの体験や学習用ウェブサイトを使った調べ学習を通じて、インターネットで情報を効率的に収集する方法や、正しい情報や事実を見極める方法、分かりやすい発表の仕方について学ぶ。

テーマ 2「わくわく！ハラハラ？インターネット」

インターネットを自分の生活の中で活用する力を養うために、解説コンテンツの学習や迷惑メールシミュレーターでの体験を通じて、インターネットの特性や便利なウェブサービス、インターネットを利用する上で気をつけなければいけないことなどについて学ぶ。

テーマ 3「学校のステキを伝えよう！」

自分の意見や考えを分かりやすく伝える力や、思いやりをもってコミュニケーションする力を養うために、ブログを使った情報発信やインターネットでのコミュニケーションを体験することを通じて、インターネットで情報を発信する方法や、情報を受発信するためのルールやマナーについて学ぶ。

テーマ 4「メールでけんか！どうする？」

インターネットの先にいる相手のことを考えながらメールでコミュニケーションする力を養うために、メールシミュレーターや、けんか・仲直りシミュレーターでメールによるけんかのやりとりを疑似体験することを通じて、メールの仕組みや特性、メールを気持ちよく使うためのルールやマナーについて学ぶ。

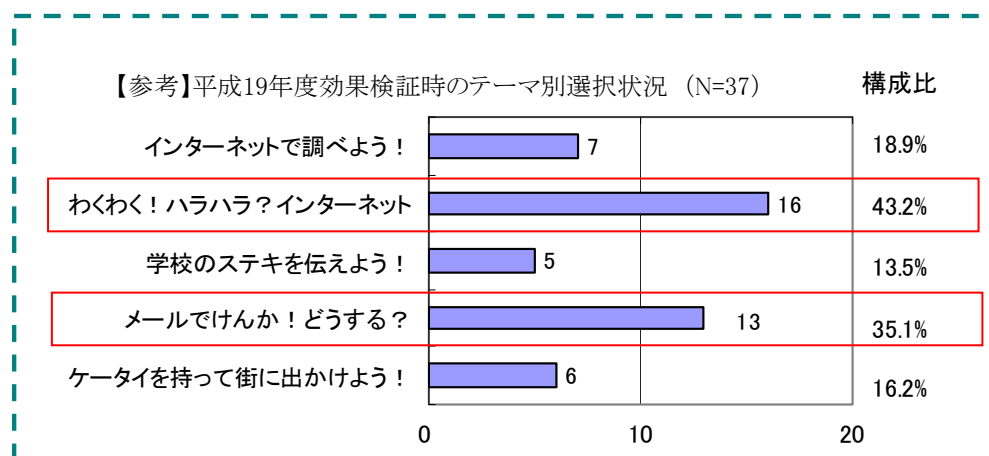
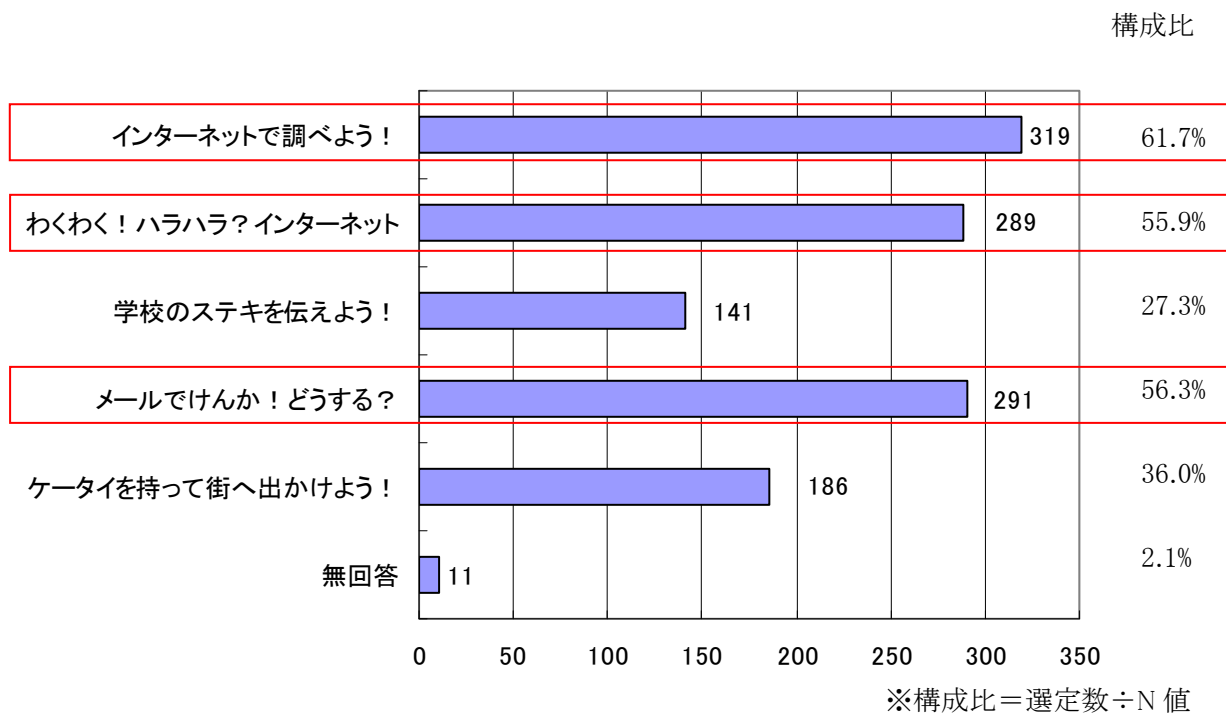
テーマ 5「ケータイを持って街へ出かけよう！」

携帯電話を安全に利用する力を養うために、お使いシミュレーターを使った携帯電話利用の疑似体験を通じて、携帯電話の機能や使い方、利用にあたってのルールやマナー、気をつけなければいけないことなどについて学ぶ。

(出典)総務省 ICT メディアリテラシー教材「伸ばそう ICT メディアリテラシー ーつながる！わかる！伝える！これがネットだー ティーチャーズガイド」

本調査項目では、上記の各学習テーマの選択状況について聞いた。結果は以下の通りである。

設問:どの学習テーマを使いますか？(複数選択可)



(平成 19 年度データ出典)平成 19 年度総務省事業「ICT メディアリテラシー育成プログラムの普及・検証に関する調査研究」報告書

図 5-2-2-5 学習テーマの選択(複数選択可/N=517、有効回答数=1,237)

インターネット検索に関する学習テーマ「インターネットで調べよう!」を選択した人の構成比が 61.7%で最も

高く、次いでメールのマナーに関する「メールでけんか！ どうする？」が 56.3%、インターネット全般の危険性に関する「わくわく！ ハラハラ？ インターネット」が 55.9%となっている。平成 19 年度の育成プログラムの効果検証時の学習テーマの選択状況と比較すると、インターネット検索の利用度が上がっている。平成 19 年度の回答サンプル数が少数なので一概に言えないが、教える対象が低年齢化してきた（ネット利用の早い段階での育成プログラムの利用が多くなった）ことも一因と考えられる。

さらに、教員の回答と、保護者の回答に分けて見ていくと、以下の通りとなる。

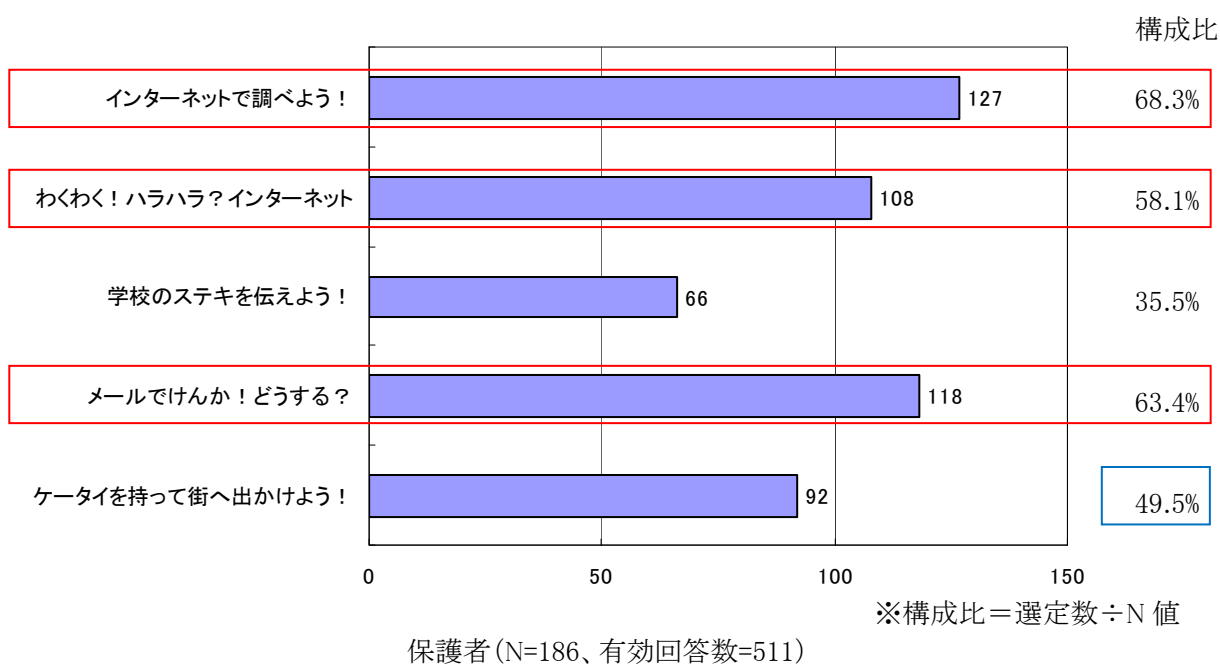
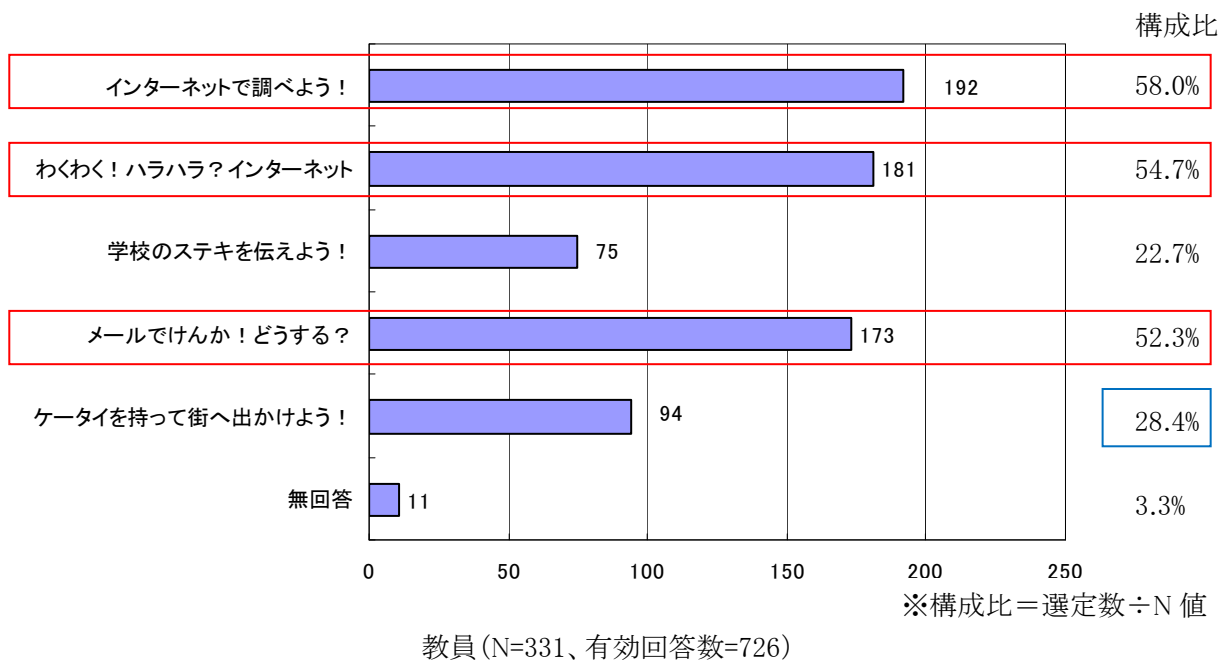


図5-2-2-6 学習テーマの選択:「教員」と「保護者」の回答傾向の比較

教員と保護者で分けて見ても、「インターネットで調べよう!」、「わくわく! ハラハラ? インターネット」、「メールでけんか! どうする?」の 3 テーマが多く選択されている傾向は変わらない。

これを構成比別で比較すると、以下の通りとなる。

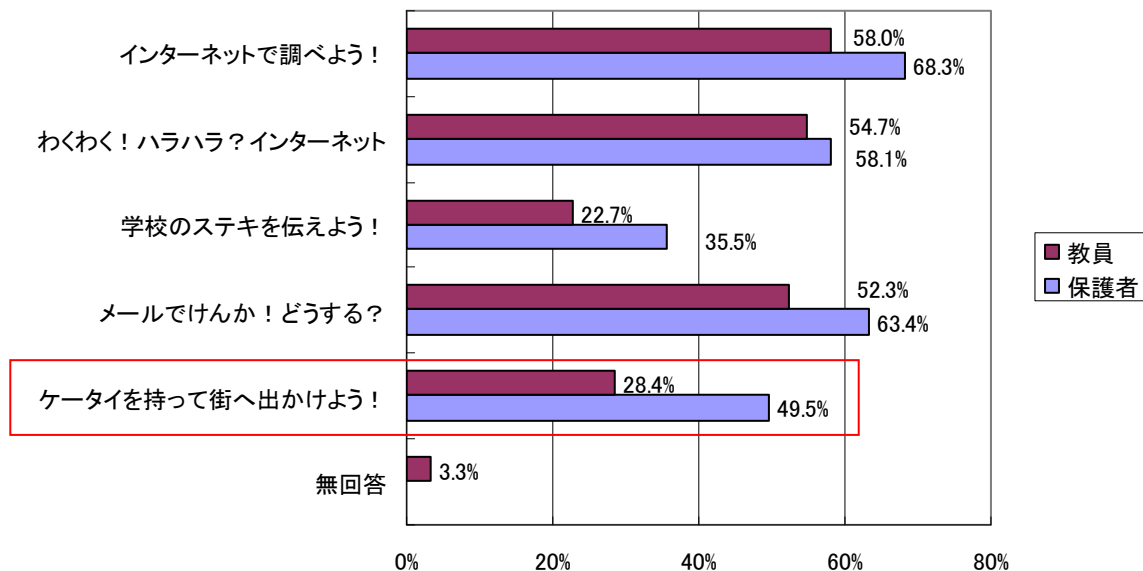
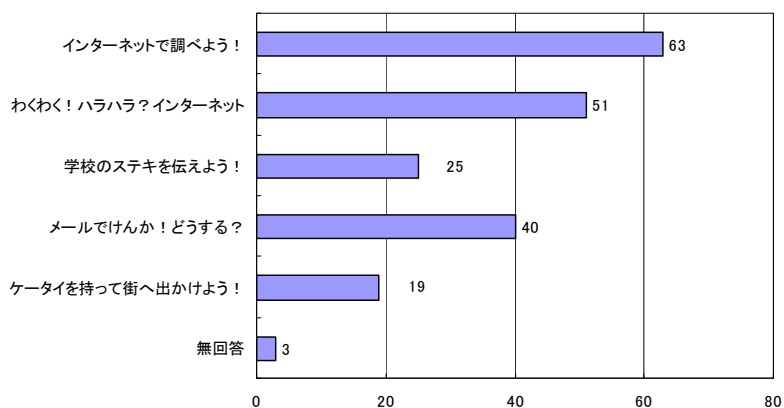


図 5-2-2-7 学習テーマの選択:「教員」と「保護者」の構成比比較

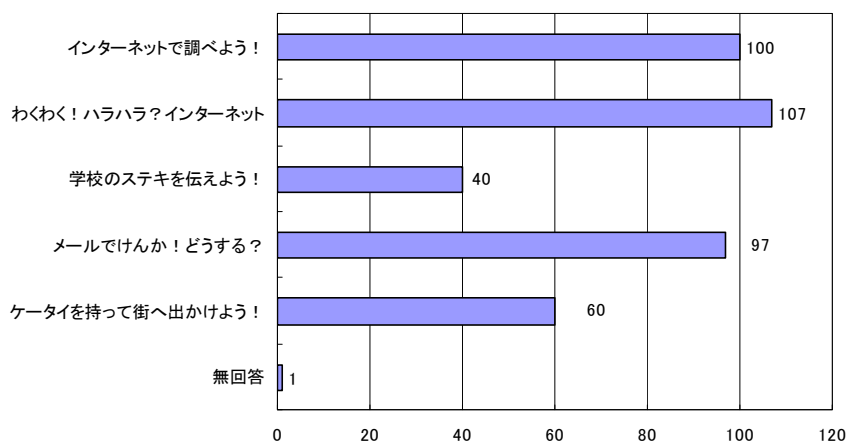
構成比で比較すると、携帯電話に関するテーマ「ケータイを持って街へ出かけよう!」は保護者の方が教員より 21.1%高い。これは学校では携帯電話の利用よりも、コンピュータとインターネットの利用に関しての優先度が高く、家庭では、携帯電話の問題をより身近なものとして捉えている傾向があるものと思われる。

次に、回答者一人当たりのテーマ選択数を見てみると、教員は、平均選択数 2.2(=715/331;無回答 11 除く)テーマ、保護者は平均選択数 2.7(=511/186)テーマであった。家庭での保護者の利用では、学校のように授業を組み立て、大勢の子どもに教える必要がない分、手軽に多くのテーマをまんべんなく教えることが可能であるためと思われる。

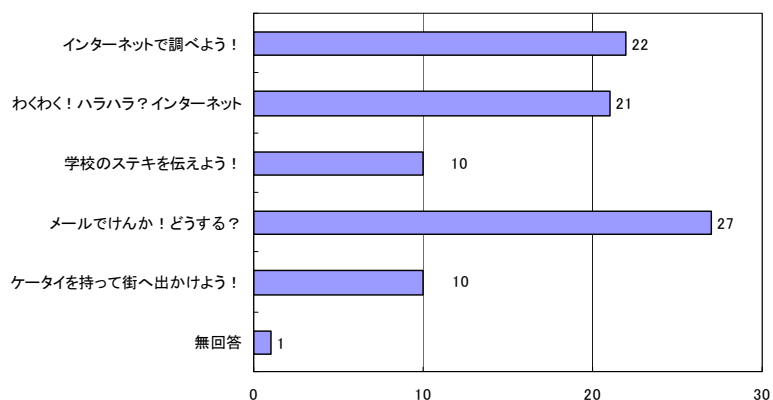
さらに教員の回答のうち、「教える対象」を回答していない 40 名を除いた 291 名の回答者の回答について、教える対象を「小学校 4 年生以下」、「小学校 5 年生、6 年生」、「中学校 1 年生以上」の 3 つのグループに分けてみていくと、次の図ようになる。



「教員」: 小学校 4 年生以下の学習テーマ選択状況 (N=92、有効回答数=201)



「教員」: 小学校 5 年生、6 年生の学習テーマ選択状況 (N=160、有効回答数=405)



「教員」: 中学校 1 年生以上の学習テーマ選択状況 (N=51、有効回答数=91)

図 5-2-2-8 「教員」による学習テーマの選択結果: 教える対象者別

上記の 3 つのグループの学習テーマの選択状況を構成比(=選定数÷N 値)で見ると以下の通りとなる。

	小4以下	小5、小6	中1以上
インターネットで調べよう！	68.5%	62.5%	43.1%
わくわく！ハラハラ？インターネット	55.4%	66.9%	41.2%
学校のステキを伝えよう！	27.2%	25.0%	19.6%
メールでけんか！どうする？	43.5%	60.6%	52.9%
ケータイを持って街へ出かけよう！	20.7%	37.5%	19.6%
無回答	3.3%	0.6%	2.0%

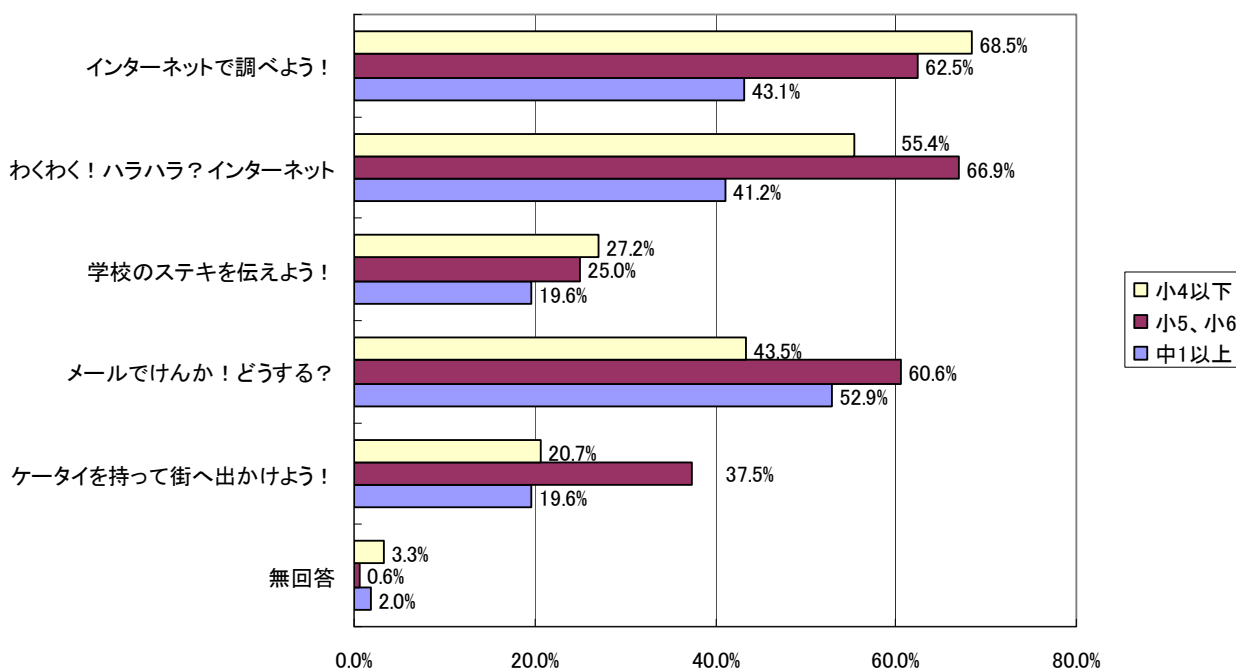


図 5-2-2-9 「教員」による学習テーマの選択結果: 教える対象者構成比比較

「小学校 4 年生以下」では、「インターネットで調べよう！」が最も選択されており、68.5%となっている。「小学校 5 年生、6 年生」では、全体の傾向同様、「インターネットで調べよう！」、「わくわく！ハラハラ？インターネット」、「メールでけんか！どうする？」の 3 つのテーマがどれもよく利用されている。「中学校 1 年生以上」では「メールでけんか！どうする？」が最も多く選択され、52.9%となっている。

高学年になるにつれ、インターネットの初歩を学ぶ「インターネットで調べよう！」のようなテーマから、「メールでけんか！どうする？」などのコミュニケーションやマナーを扱うテーマに、移行していく傾向がある。

1 回答者当たりの学習テーマの選択数を教員全体、および学年の3つのグループ別にみると平均値は以下の通りである。

**表 5-2-2-1 「教員」による学習テーマの選択結果：
教員全体、および教える対象のグループ別の平均選択テーマ数比較**

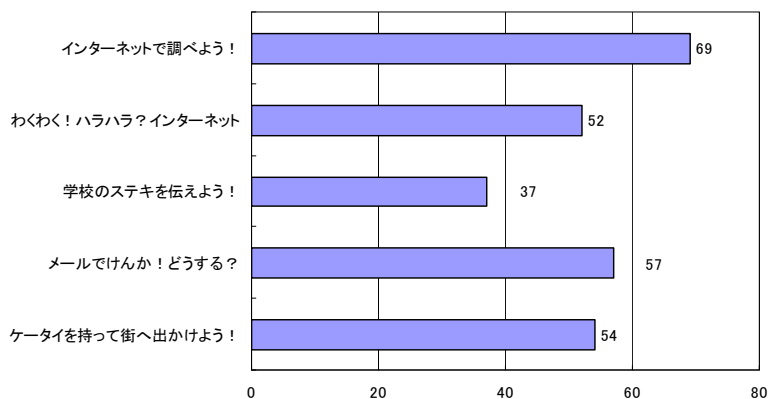
	教員全体	小4以下	小5、小6	中1以上
学習テーマの平均選択数(教員)	2.2 (=715/331)	2.2 (=198/92)	2.5 (=404/160)	1.8 (=90/51)

(※学習テーマの平均選択数 = 無回答除く有効回答数/回答者数)

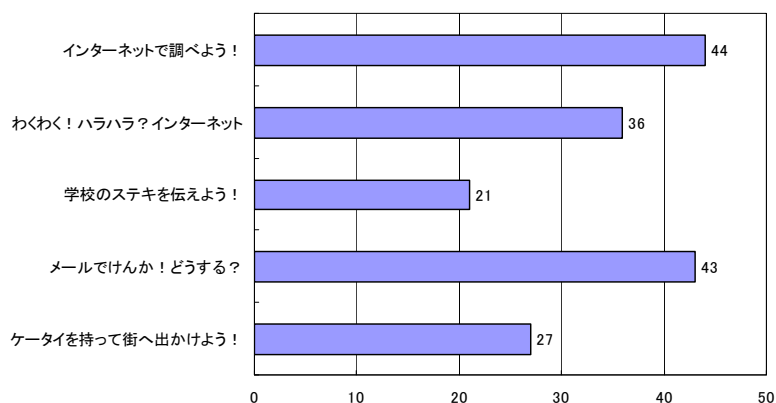
グループ別集計における回答者数の合計 303(=92+160+51)および有効回答数の合計 692(=198+404+90)が、それぞれ教員全体の回答者数 331 および無回答除く有効回答数 715と一致しないのは、「教える対象」を回答していない教員の回答をクロス集計から除外していること、および「教える対象」(複数回答可)が2つ以上のグループに属する場合、回答を重複集計していることによる。「5-2-1. (5)集計・分析のポイント」の【教える対象別クロス集計】参照。

教員における学習テーマの平均選択数は「小学校5年生、6年生」が2.5件で最も高かった。育成プログラムが、もともと「小学校5年生、6年生」での学習を前提に作られているため、各テーマにおける学習内容もこのグループでの学習に最も適しており、学習テキストもこのレベルにあわせているため、多くの学習テーマが利用される傾向にあると思われる。

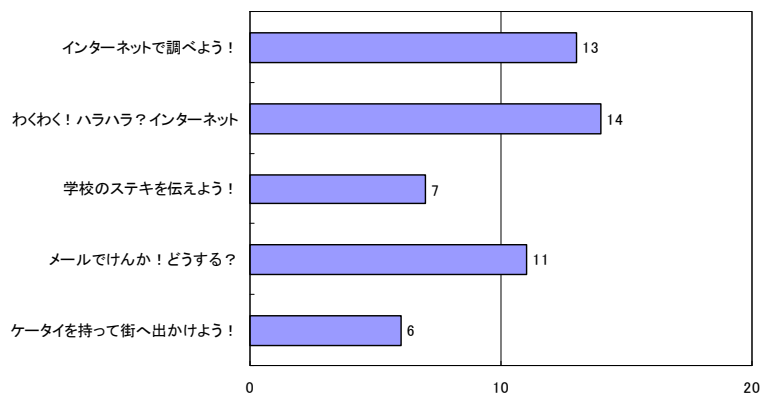
一方、保護者の回答のうち、「教える対象」を回答していない 15 名を除いた 171 名の回答者の回答について、教える対象を「小学校 4 年生以下」、「小学校 5 年生、6 年生」、「中学校 1 年生以上」の 3 つのグループに分けてみると、以下の通りとなる。



「保護者」：小学校 4 年生以下の学習テーマ選択状況 (N=93、有効回答数=269)



「保護者」：小学校 5 年生、6 年生の学習テーマ選択状況 (N=63、有効回答数=171)



「保護者」：中学校 1 年生以上の学習テーマ選択状況 (N=21、有効回答数=51)

図 5-2-2-10 「保護者」による学習テーマの選択結果：教える対象者別

上記の 3 つのグループの学習テーマの選択状況を構成比でみると以下の通りとなる。

	小 4 以下	小 5、小 6	中 1 以上
インターネットで調べよう！	74.2%	69.8%	61.9%
わくわく！ハラハラ？インターネット	55.9%	57.1%	66.7%
学校のステキを伝えよう！	39.8%	33.3%	33.3%
メールでけんか！どうする？	61.3%	68.3%	52.4%
ケータイを持って街へ出かけよう！	58.1%	42.9%	28.6%

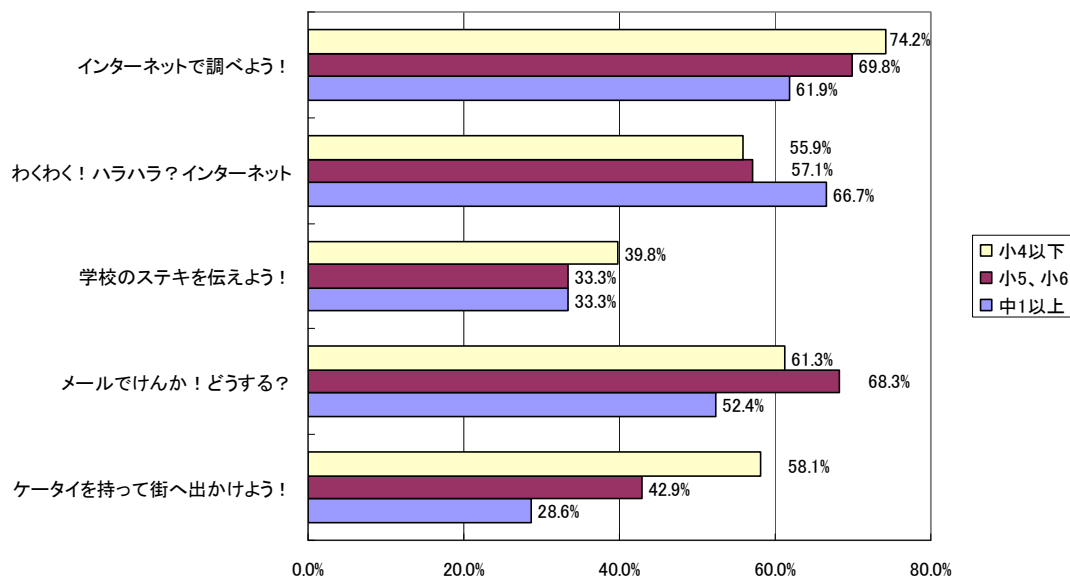


図 5-2-2-11 「保護者」による学習テーマの選択結果: 教える対象者のグループ構成比比較

「小学校 4 年生以下」では、教員と同様、「インターネットで調べよう！」の利用が最も多く、74.2%となっている。また、このグループでは、「ケータイを持って街へ出かけよう！」の比率が 58.1%で、他のグループと比較して非常に高くなっている。

「小学校 5 年生、6 年生」では、「インターネットで調べよう！」(69.8%)と「メールでけんか！どうする？」(68.3%)の利用が多い。

「中学校 1 年生以上」では「インターネットで調べよう！」(61.9%)と「わくわく！ハラハラ？インターネット」(66.7%)の利用が多い。

1 回答者当たりの学習テーマの選択数を保護者全体、および学年の3つのグループ別にみると、平均値は以下の通りである。

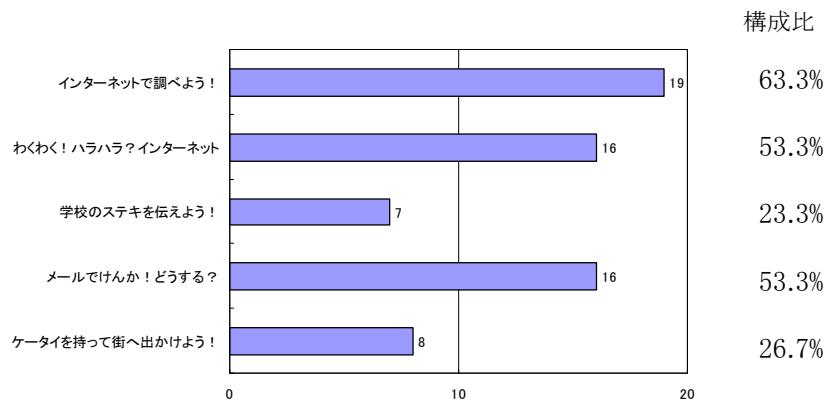
**表 5-2-2-2 「保護者」による学習テーマの選択結果：
保護者全体、および教える対象のグループ別の平均選択数比較**

	保護者全体	小 4 以下	小 5、小 6	中 1 以上
学習テーマの平均選択数(保護者)	2.7 (=511/186)	2.9 (=269/93)	2.7 (=171/63)	2.4 (=51/21)

グループ別集計における回答者数の合計 177(=93+63+21)および有効回答数の合計 491(=269+171+51)が、それぞれ保護者全体の回答者数 186 および有効回答数 511 と一致しないのは、「教える対象」を回答していない保護者の回答をクロス集計から除外していること、および「教える対象」(複数回答可)が2つ以上のグループに属する場合、回答を重複集計していることによる。「5-2-1. (5)集計・分析のポイント」の【教える対象別クロス集計】参照。

学習テーマの平均選択数(保護者)は「小学校 4 年生以下」が高かったが、「小学校 5 年生、6 年生」との大きな差は見られない。

また、保護者の回答者のうち、「教える人」を回答していない 15 名を除いた 171 名の回答者の回答について、「教える人」が「父親」か「母親」かでグルーピングして、学習テーマの選択状況を比較したところ、次のようになった。



教えるのが父親 (N=30、有効回答数=66)

構成比

63.3%

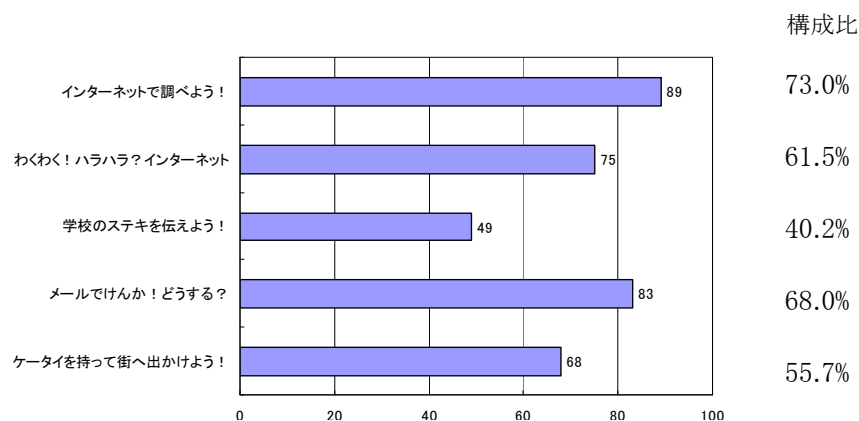
53.3%

23.3%

53.3%

26.7%

※構成比 = 選定数 ÷ N 値



教えるのが母親 (N=122、有効回答数=364)

構成比

73.0%

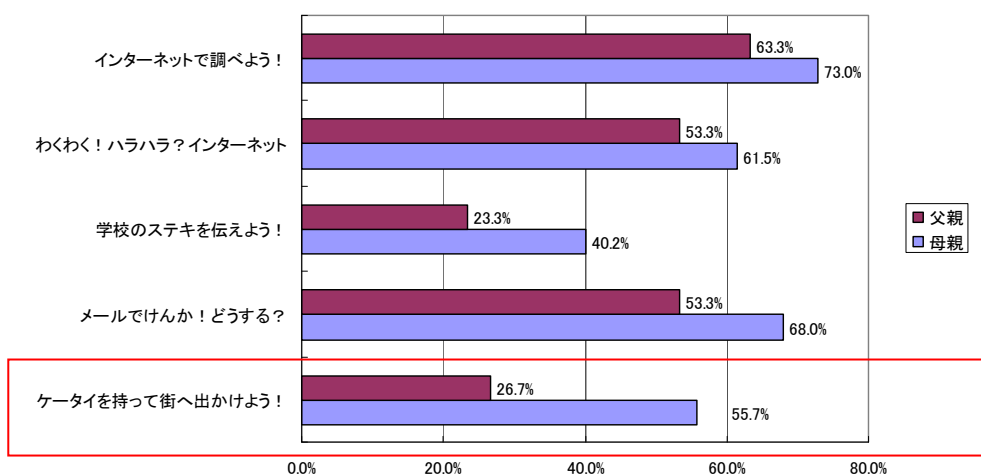
61.5%

40.2%

68.0%

55.7%

※構成比 = 選定数 ÷ N 値



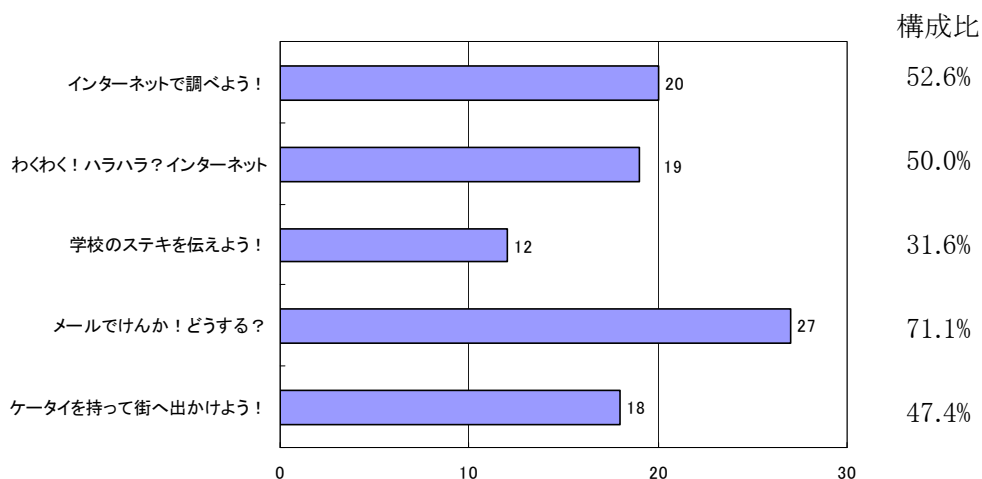
構成比比較

図 5-2-2-12 「保護者」による学習テーマの選択結果:父親が教える場合と母親が教える場合別

家庭で教えるのが母親の場合は、「ケータイを持って街へ出かけよう！」を選択するケースが、父親に比べて 29.0 ポイント高く、父親と母親の選択率の差が大きい。

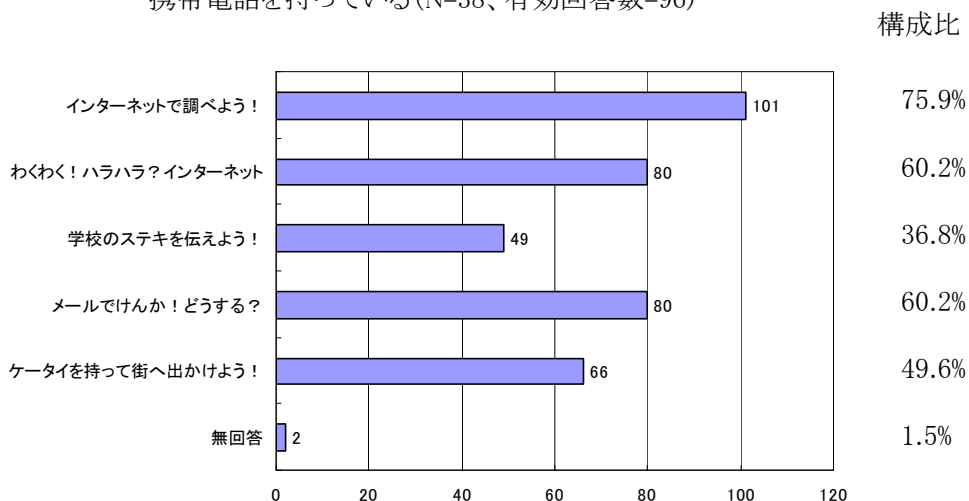
また、父親の場合、学習テーマの選択の平均が 2.2(=66/30) テーマなのに対して、母親の場合は、平均が 3.0(=364/122) テーマとなっている。このような違いは、子どもと接する時間の多さや、教えるテーマの内容、時間帯などにより自然と家庭内で教える側の役割分担がされている傾向が見られる。また、「ケータイを持って街へ出かけよう！」を選択する率が母親のほうが高い傾向にあることは、このテーマに関しては母親も一緒に学びたいという意欲が表れているという可能性も考えられる。

保護者の回答のうち、「子どもの携帯電話の所有状況」を回答していない 15 名を除いた 171 名の回答者の回答について、子どもの携帯電話の所有の有無でグルーピングして、学習テーマの選択状況を比較したところ、以下の通りとなった。



※構成比＝選定数÷N 値

携帯電話を持っている (N=38、有効回答数=96)

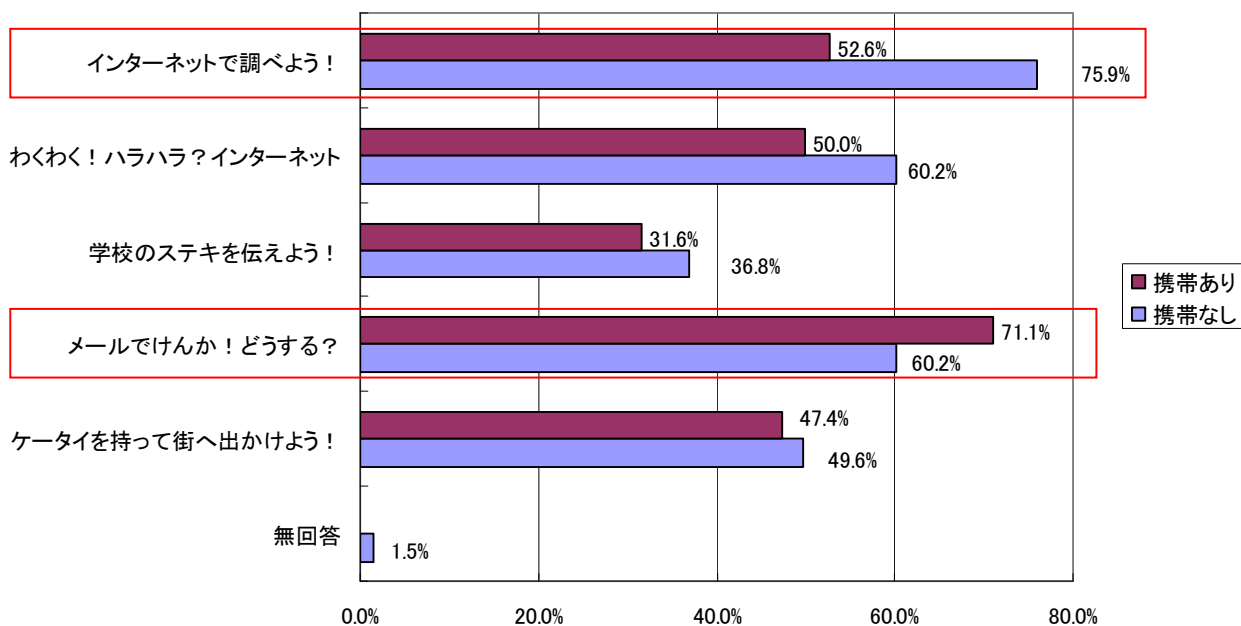


※構成比＝選定数÷N 値

携帯電話を持っていない(「近々持たせる予定」も含む)

(N=133、有効回答数=378)

(図は次ページへ続く)



構成比比較

図 5-2-2-13 「保護者」による学習テーマの選択結果: 子どもの携帯電話所有別

子どもが携帯電話を持っている場合は、「メールでけんか! どうする?」の選択比率が、持っていない場合より 10.9 ポイント高い。また、携帯電話を持っていない場合では、「インターネットで調べよう!」の選択比率が、持っている場合より 23.3 ポイント高く、携帯電話の所有の有無によって、保護者として優先して学習させたいテーマの傾向が変わってくるのがわかった。なお、「ケータイを持って街へ出かけよう!」は、携帯電話の利用に関するテーマであるにもかかわらず、その選択状況と携帯電話の所有の有無との間に有意な相関は見られない。

5.2.2.3. 【選定理由】

教材として育成プログラムを選定した理由を聞いたところ、以下のような結果となった。

教員向け設問:授業に当たってこの教材を選んだ理由をお聞かせください。(複数選択可)

保護者向け設問:家庭でこの教材を使ってみようと思った理由をお聞かせください。(複数選択可)

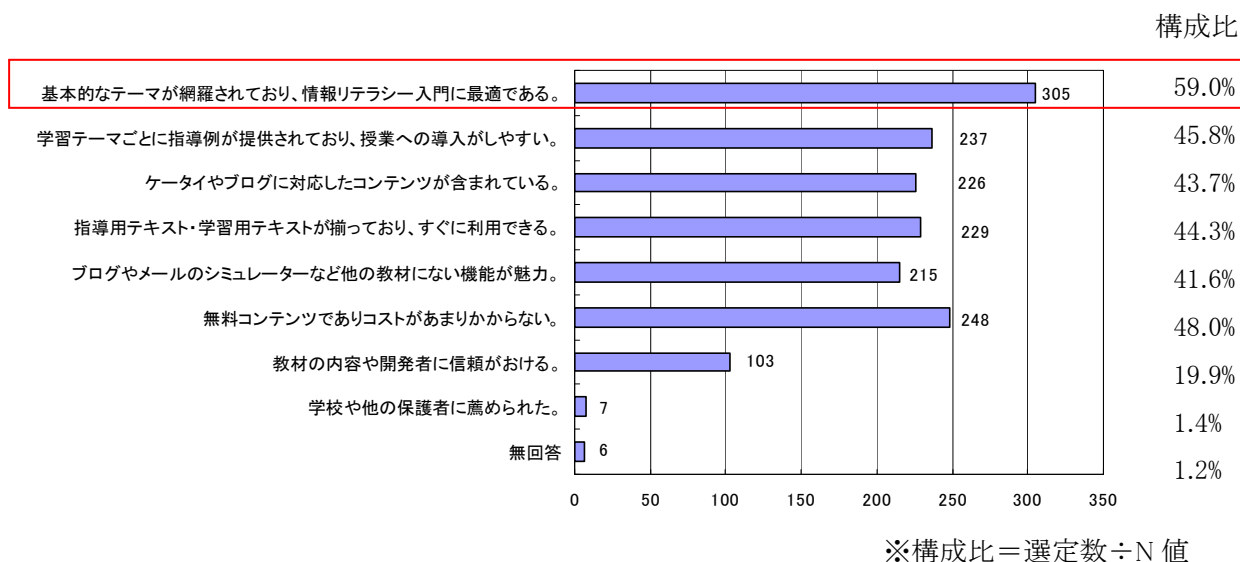


図 5-2-2-14 育成プログラムの選定理由(複数選択可/N=517、有効回答数=1,576)

選定理由としては、「基本的なテーマが網羅されており、情報リテラシー入門に最適」という理由が最も高く、59.0%の人が選定理由としてあげている。次いで、「無料コンテンツである」ことを 48.0%の人が選定理由としてあげている。

選定理由について、教員の回答と、保護者の回答に分けて見ていくと、以下の通りとなる。

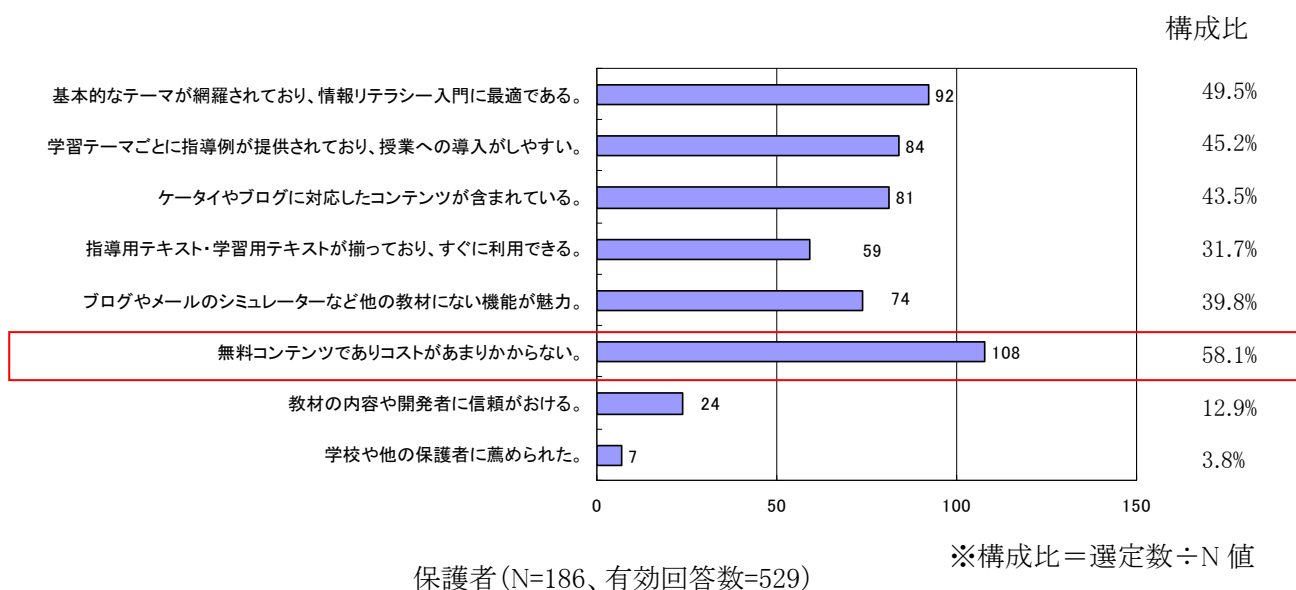
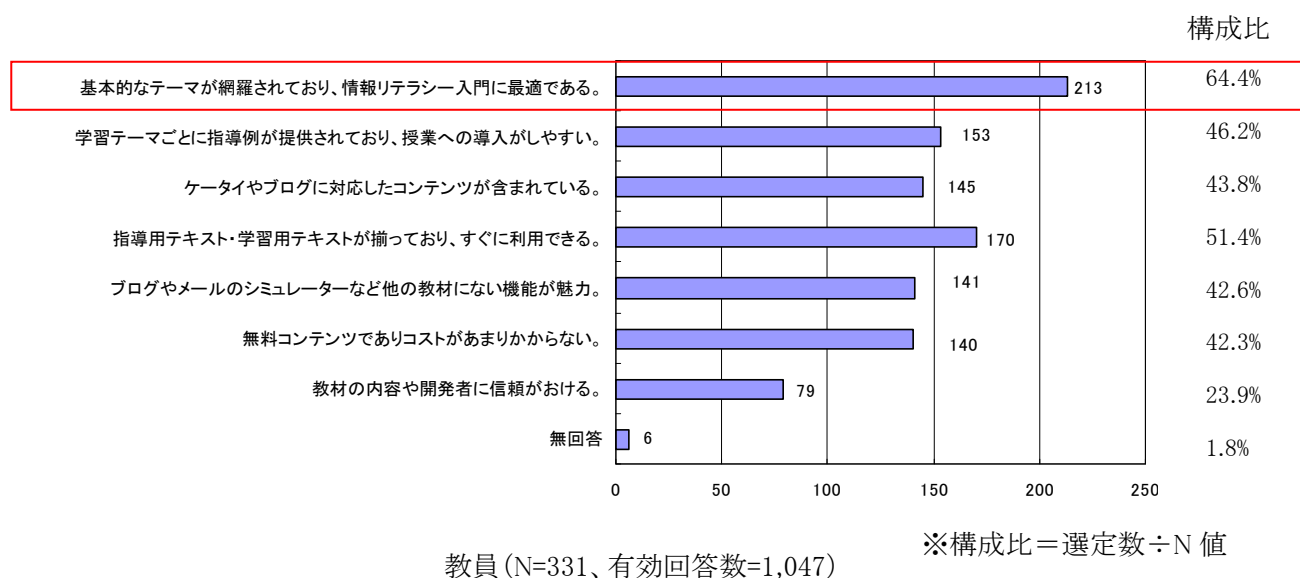


図 5-2-2-15 育成プログラムの選定理由:「教員」「保護者」別

上記の結果を構成比で比較すると、以下の通りとなる。

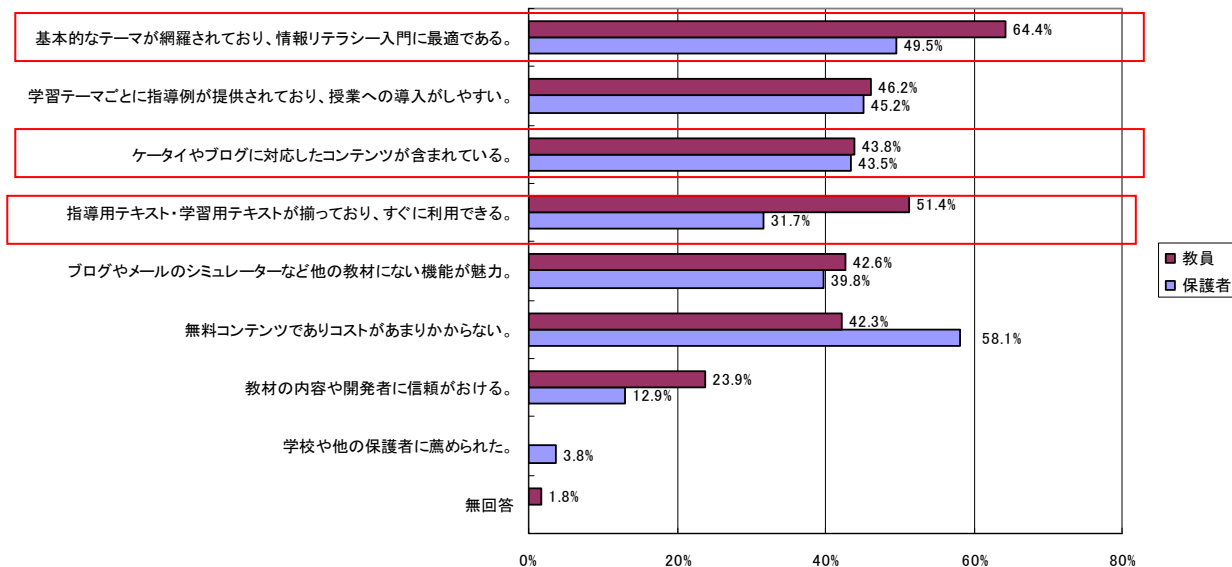
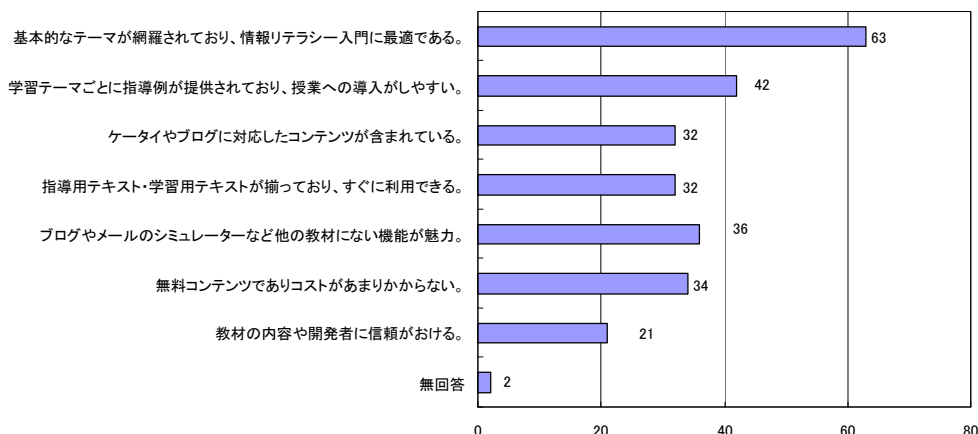


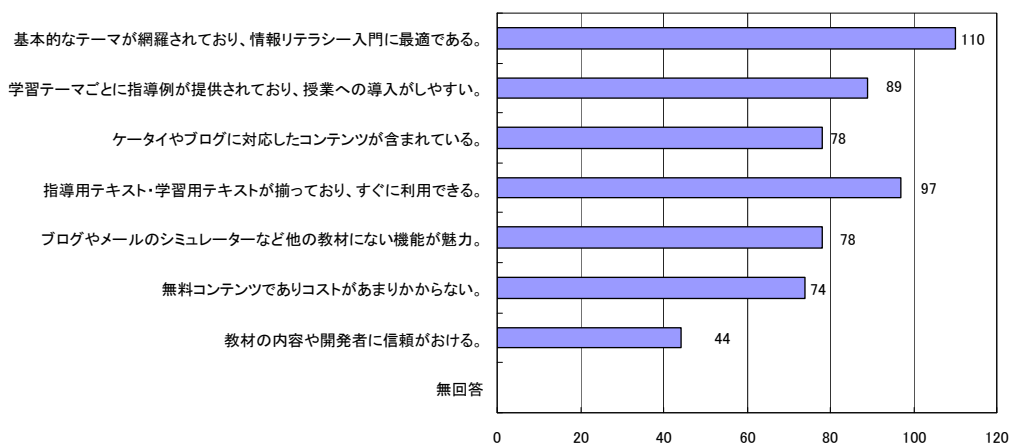
図 5-2-2-16 育成プログラムの選定理由：「教員」「保護者」構成比比較

教員は、「基本的なテーマが網羅されており、情報リテラシー入門に最適」が 64.4%で最も高く、保護者は「無料コンテンツである」ことが 58.1%で最も高い。また、教員は「指導用テキスト・学習テキストが揃っており、すぐに利用できる」という教えやすさの点も選んだ理由として多く挙げられている。(保護者よりも 19.7 ポイント高い。)教員では、入門に最適なことと、指導用、学習用テキストが揃っていることなど指導しやすさが重要な要素となっている。一方、保護者は、コストがかからないことを選択理由にあげる場合が多く、今後の普及において、何が重要視されているかを検討するうえで、参考とすべきデータといえる。

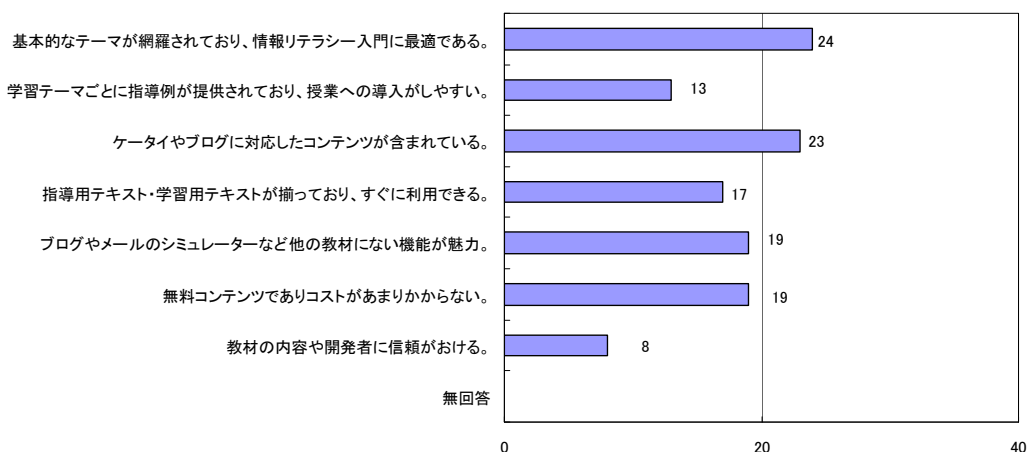
教員の回答のうち、「教える対象」を回答していない 40 名を除いた 291 名の回答者の回答について、教える対象を「小学校 4 年生以下」、「小学校 5 年生、6 年生」、「中学校 1 年生以上」の 3 つのグループに分けてみると、以下の通りとなる。



「教員」：小学校 4 年生以下の選定理由 (N=92、有効回答数=262)



「教員」：小学校 5 年生、6 年生の選定理由 (N=160、有効回答数=570)



「教員」：中学校 1 年生以上の選定理由 (N=51、有効回答数=123)

図 5-2-2-17 「教員」による育成プログラムの選定理由：教える対象者別

上記の 3 つのグループの選定理由を構成比 (構成比 = 選定数 ÷ N 値) でみると以下の通りとなる。

選定理由	小 4 以下	小 5、小 6	中 1 以上
基本的なテーマが網羅されており、情報リテラシー入門に最適である。	68.5%	68.8%	47.1%
学習テーマごとに指導例が提供されており、授業への導入がしやすい。	45.7%	55.6%	25.5%
ケータイやブログに対応したコンテンツが含まれている。	34.8%	48.8%	45.1%
指導用テキスト・学習用テキストが揃っており、すぐに利用できる。	34.8%	60.6%	33.3%
ブログやメールのシミュレーターなど他の教材にない機能が魅力。	39.1%	48.8%	37.3%
無料コンテンツでありコストがあまりかからない。	37.0%	46.3%	37.3%
教材の内容や開発者に信頼がおける。	22.8%	27.5%	15.7%
無回答	2.2%	0.0%	0.0%

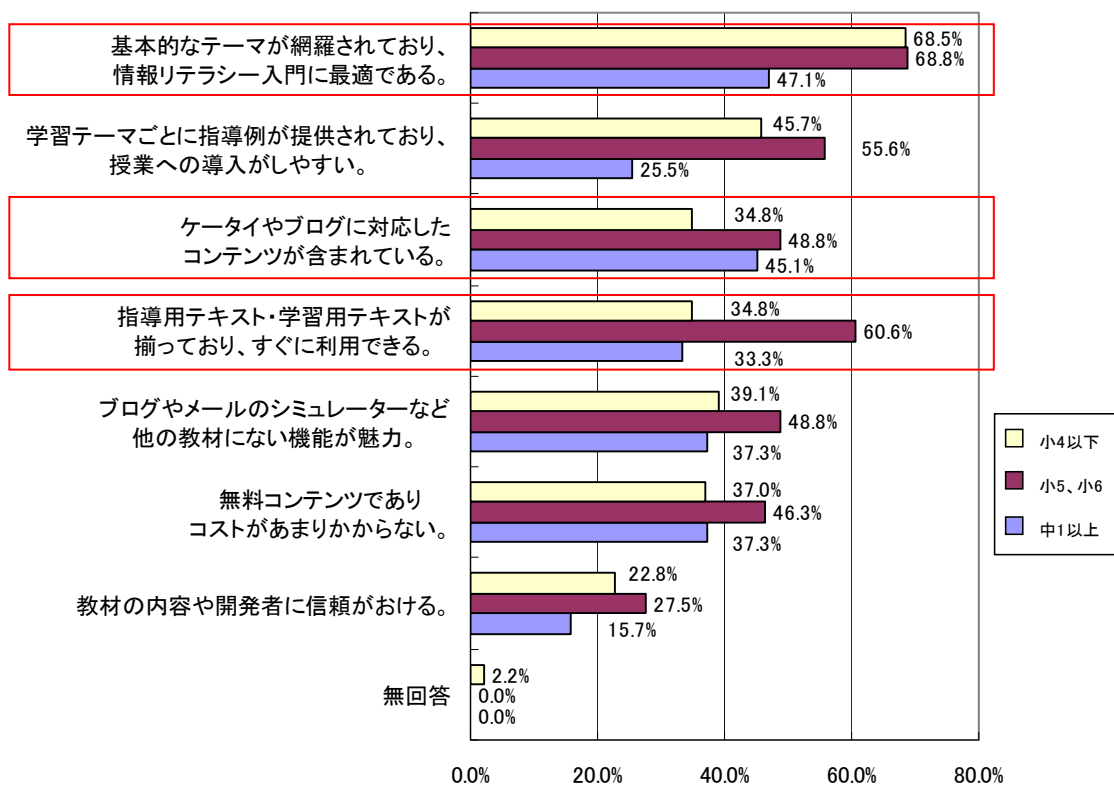
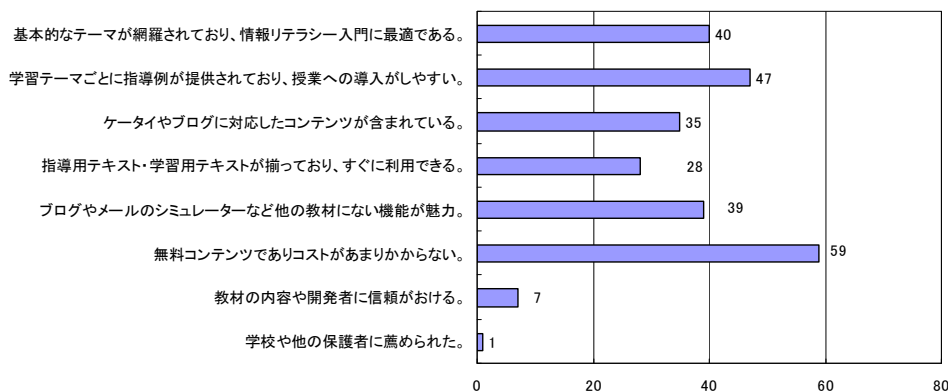


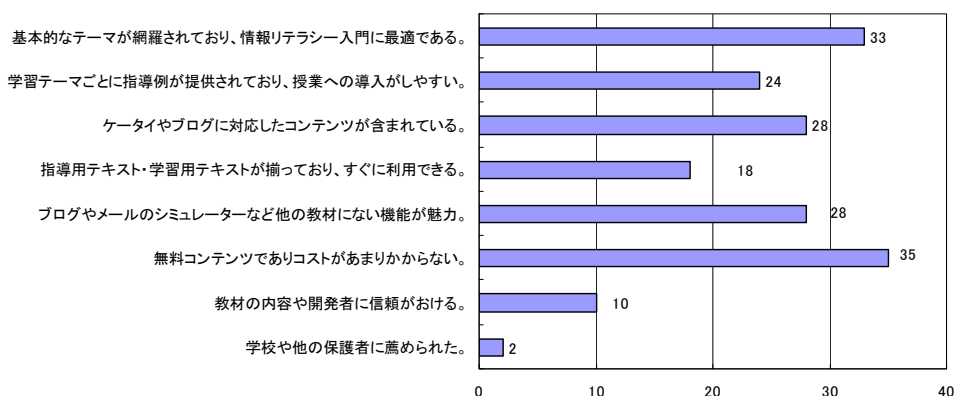
図 5-2-2-18 「教員」による育成プログラムの選定理由:教える対象者の構成比比較

3つのグループとも、基本的なテーマが網羅されていることを重要視している(小学校4年生以下:68.5%、小学校5年生、6年生;68.8%、中学校1年生以上:47.1%)。それ以外では、「小学校5年生、6年生」で、「指導用、学習用テキストが揃っている」ことが60.6%で高い値になっており、授業に導入しやすい点が評価されたと思われる。また、「中学校1年生以上」では「ケータイやブログへの対応」が45.1%と比較的高く、このテーマに関する教材や教育ノウハウ等が、他のグループに比べて中学校段階で特に求められているのではないかと推察できる。

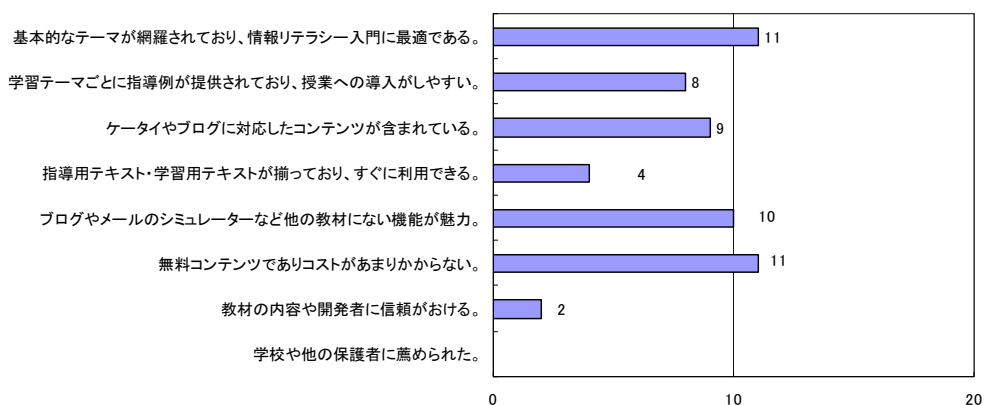
一方、保護者の回答のうち、「教える対象」を回答していない 15 名を除いた 171 名の回答者の回答について、教える対象を「小学校 4 年生以下」、「小学校 5 年生、6 年生」、「中学校 1 年生以上」の 3 つのグループに分けて見ていくと、以下の通りとなる。



「保護者」: 小学校 4 年生以下の選定理由 (N=93、有効回答数=256)



「保護者」: 小学校 5 年生、6 年生の選定理由 (N=63、有効回答数=178)



「保護者」: 中学校 1 年生以上の選定理由 (N=21、有効回答数=55)

図 5-2-2-19 「保護者」による育成プログラムの選定理由: 教える対象者別

上記の 3 つのグループの選定理由を構成比 (構成比 = 選定数 ÷ N 値) でみると以下の通りとなる。

選定理由	小 4 以下	小 5、小 6	中 1 以上
基本的なテーマが網羅されており、情報リテラシー入門に最適である。	43.0%	52.4%	52.4%
学習テーマごとに指導例が提供されており、授業への導入がしやすい。	50.5%	38.1%	38.1%
ケータイやブログに対応したコンテンツが含まれている。	37.6%	44.4%	42.9%
指導用テキスト・学習用テキストが揃っており、すぐに利用できる。	30.1%	28.6%	19.0%
ブログやメールのシミュレーターなど他の教材にない機能が魅力。	41.9%	44.4%	47.6%
無料コンテンツでありコストがあまりかからない。	63.4%	55.6%	52.4%
教材の内容や開発者に信頼がおける。	7.5%	15.9%	9.5%
無回答	1.1%	3.2%	0.0%

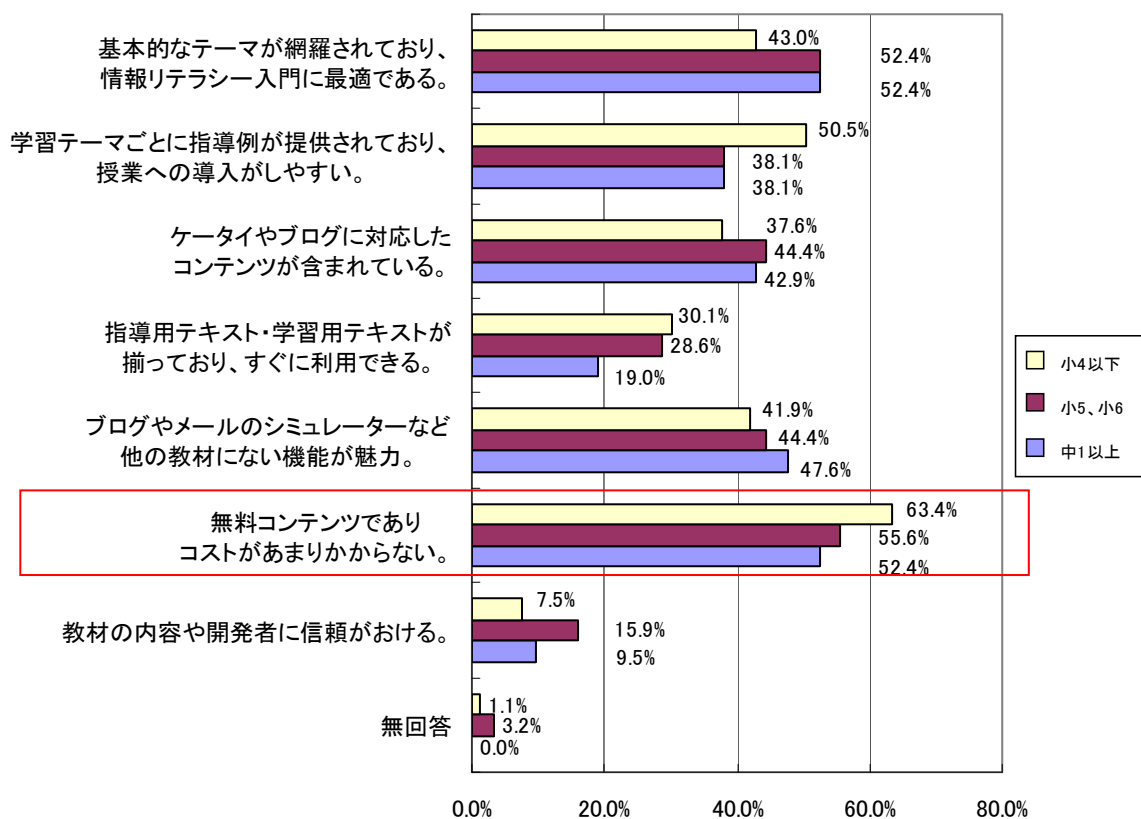
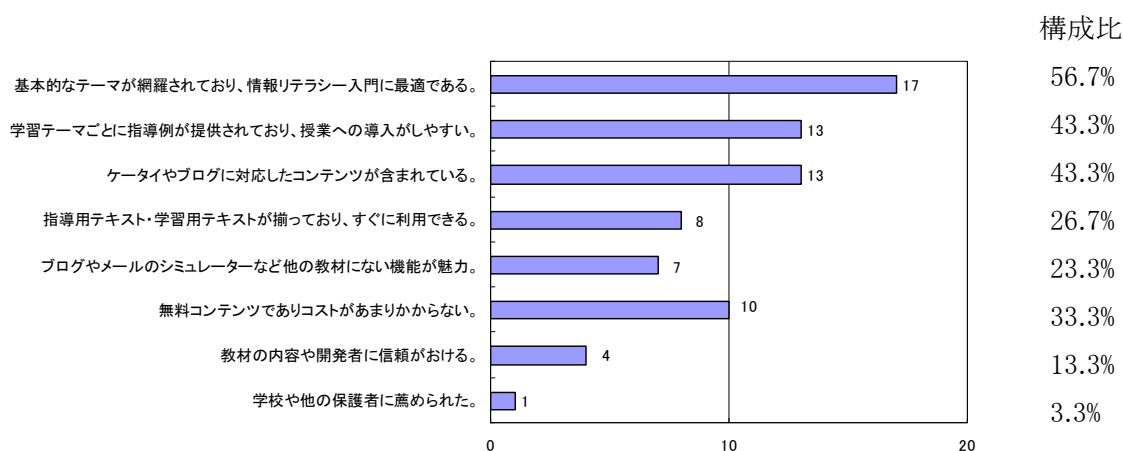


図 5-2-2-20 「保護者」による育成プログラムの選定理由：教える対象者構成比比較

3 つのグループに共通して、無料コンテンツであることが、選定理由として構成比が高い。それ以外では「小学校 4 年生以下」で学習テーマ毎の指導例の提供が 50.5%であることと、「小学校 5 年生、6 年生」で、基本的なテーマが網羅されていることが重要視されている。

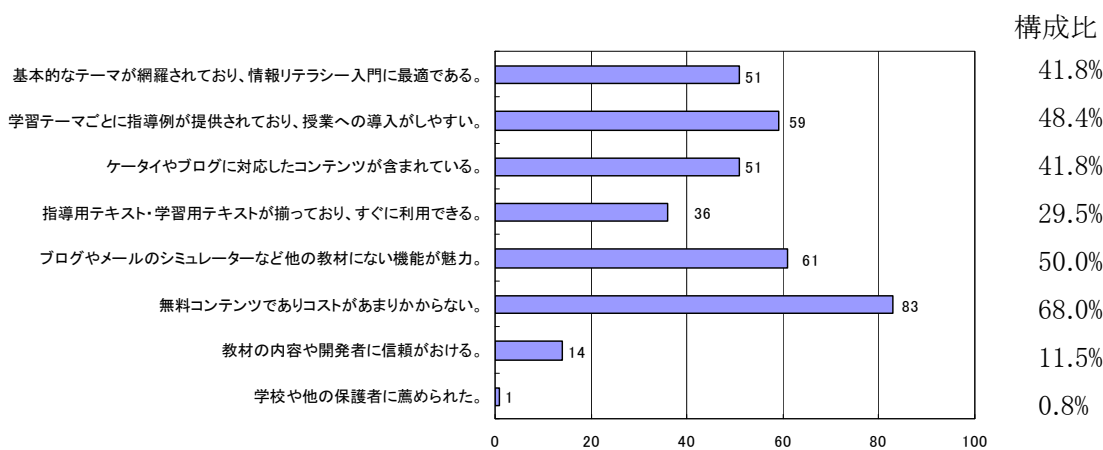
教員で重要視されていた、「指導用、学習用テキストが揃っている」ことが、保護者側ではあまり重要度が高くない傾向となっている。

また、保護者の回答のうち、「教える人」を回答していない 15 名を除いた 171 名の回答者の回答について、教える人が「父親」か「母親」かでグルーピングして、選定理由の状況を比較したところ、以下の通りとなった。



※構成比 = 選定数 ÷ N 値

教えるのが父親 (N=30、有効回答数=73)



※構成比 = 選定数 ÷ N 値

教えるのが母親 (N=122、有効回答数 356)

(図は次ページへ続く)

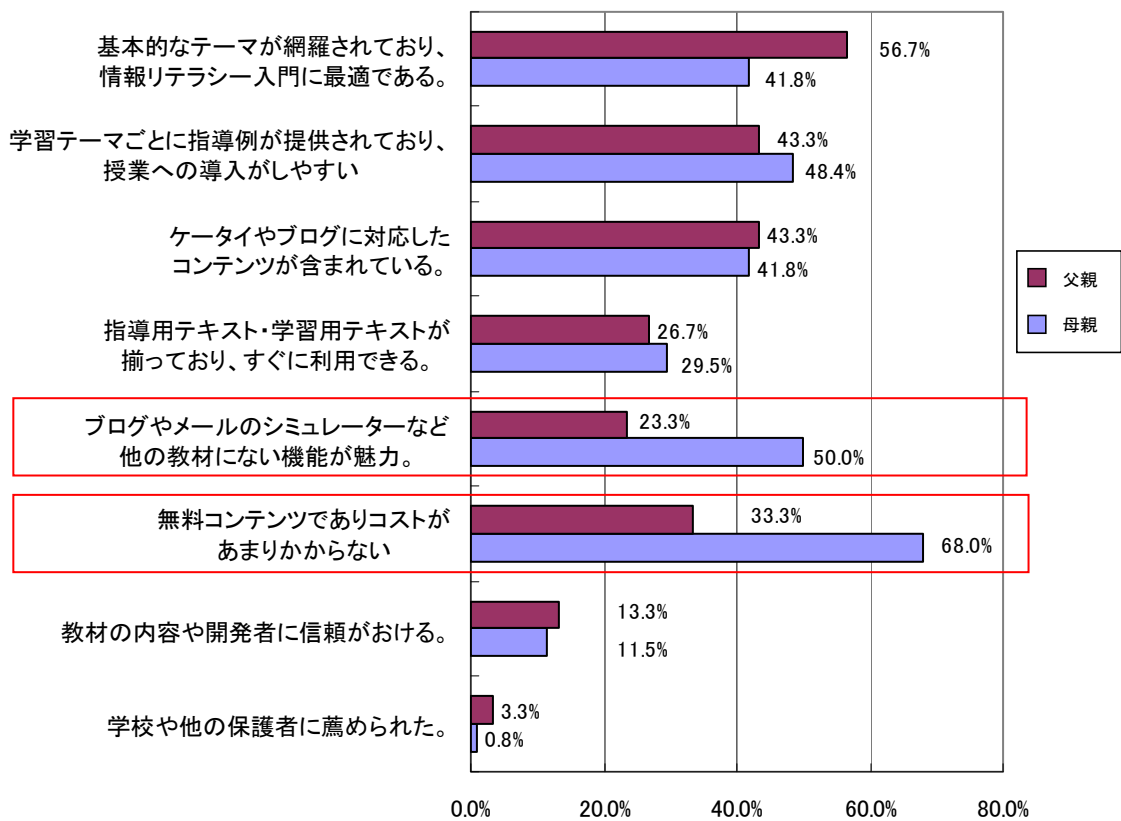
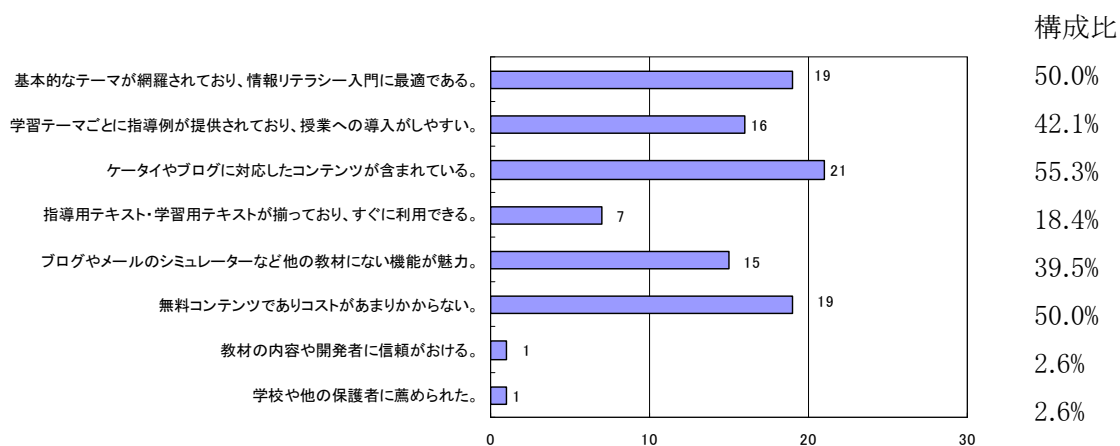


図 5-2-2-21 「保護者」による育成プログラムの選定理由：
父親が教える場合と母親が教える場合別

父親の場合は、「基本的なテーマが網羅されており、情報リテラシー入門に最適である」が選択理由のトップで 56.7%となっている。母親の場合は、「無料コンテンツでありコストがあまりかからない」がトップで 68.0%となっている。

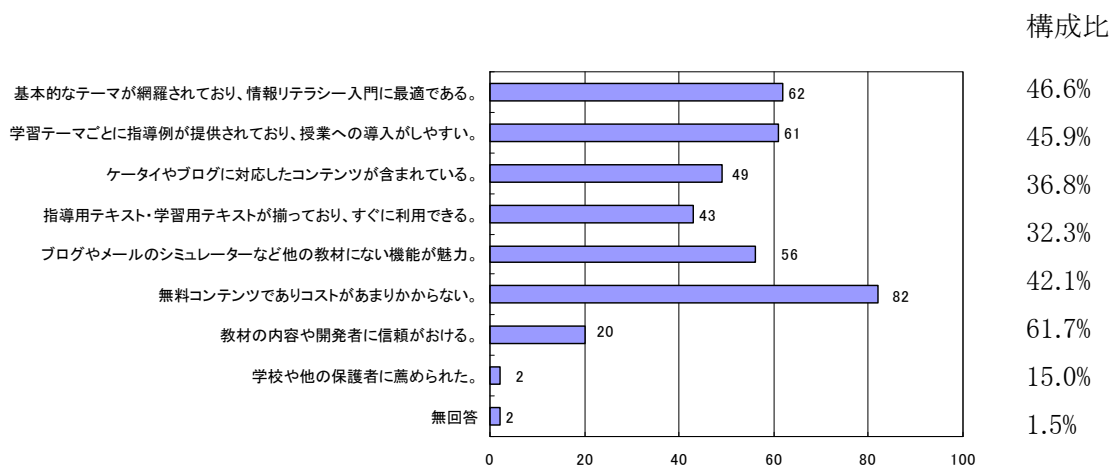
父親と母親の選択理由の違いをしてみると、「無料コンテンツでありコストがあまりかからない」及び「ブログやメールのシミュレーターなど他の教材にない機能が魅力」については母親が高く、それぞれ父親と 34.7 ポイント、26.7 ポイント差となっている。一方、「基本的なテーマが網羅されており、情報リテラシー入門に最適である」は父親が母親より 14.9 ポイント高い。このように、父親と母親とで教材の選定の観点に違いがあることがうかがえる。

保護者の回答のうち、「子どもの携帯電話の保有状況」を回答していない 15 名を除いた 171 名の回答者の回答について、子どもの携帯電話の所有の有無でグルーピングして、選定理由の状況を比較したところ、以下の通りとなった。



※構成比＝選定数÷N 値

携帯電話を持っている (N=38、有効回答数=99)



※構成比＝選定数÷N 値

携帯電話を持っていない(「近々持たせる予定」も含む)

(N=133、有効回答数=377)

(図は次ページへ続く)

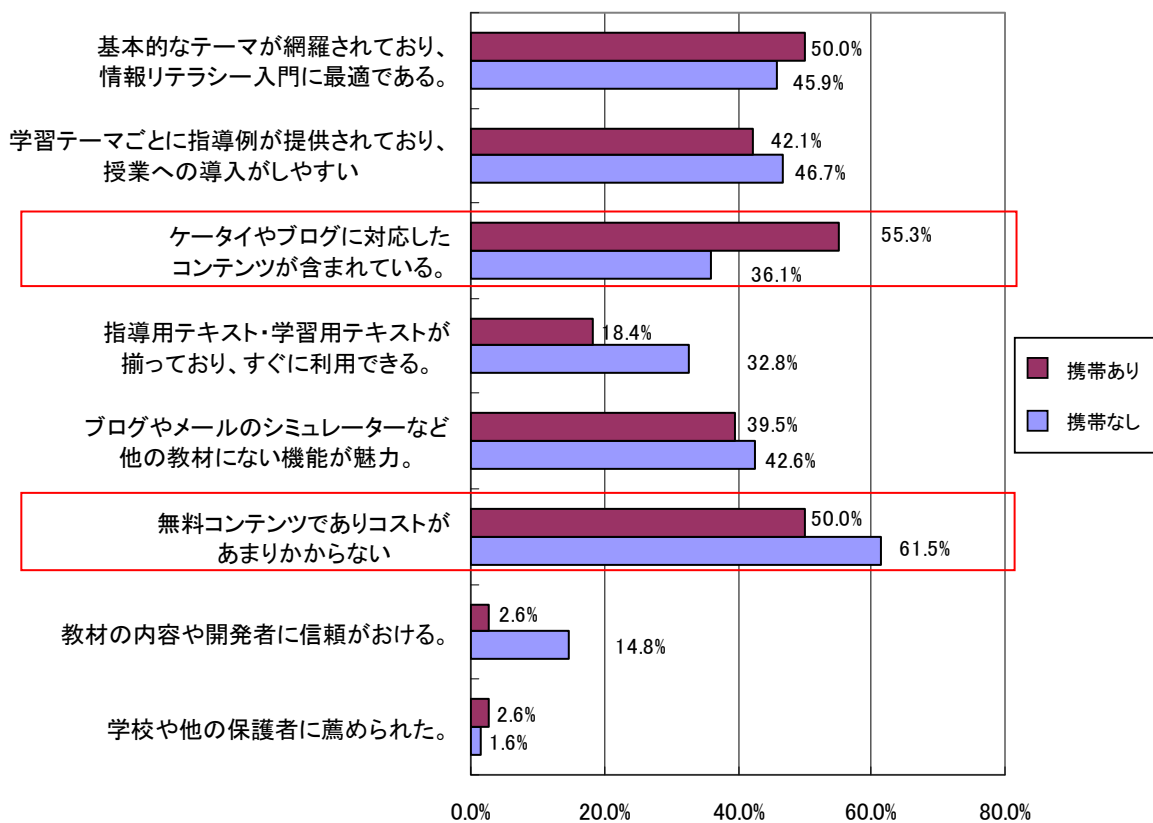


図 5-2-2-22 「保護者」による育成プログラムの選定理由：子どもの携帯電話所有別構成比比較

「ケータイやブログに対応したコンテンツ」であることについては、子どもが携帯電話を持っているグループと、持っていないグループで差が 18.5 ポイントと最も大きかった。

また、携帯電話を持っていないグループは、保護者全体の傾向と同様、「無料コンテンツである」が選択理由のトップである。

5.2.2.4. 【学校での授業の状況:実施対象授業】

教員に対して、学校のどの教科で育成プログラムを実施予定か聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:どの教科/時間の中で、授業を行いますか？(複数選択可)

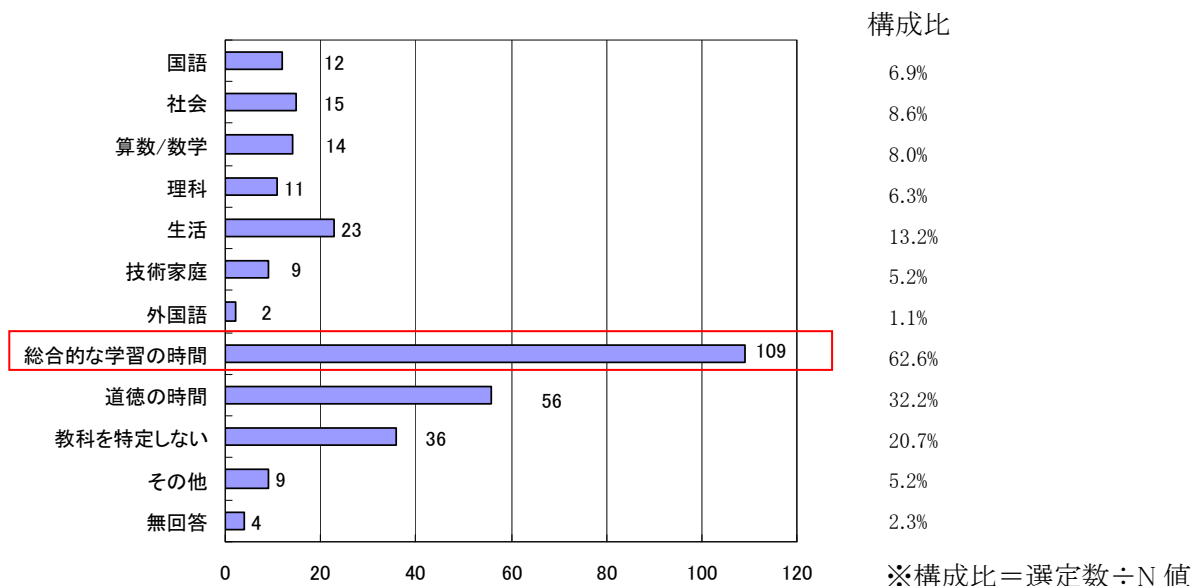
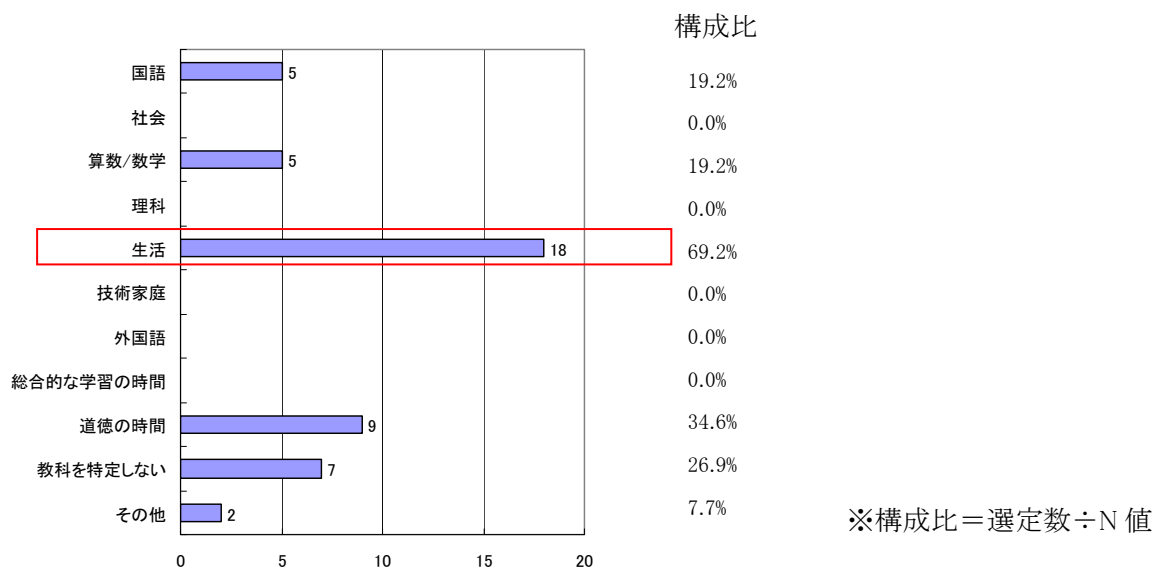


図 5-2-2-23 実施対象授業(複数選択可/N=174、有効回答数=300)

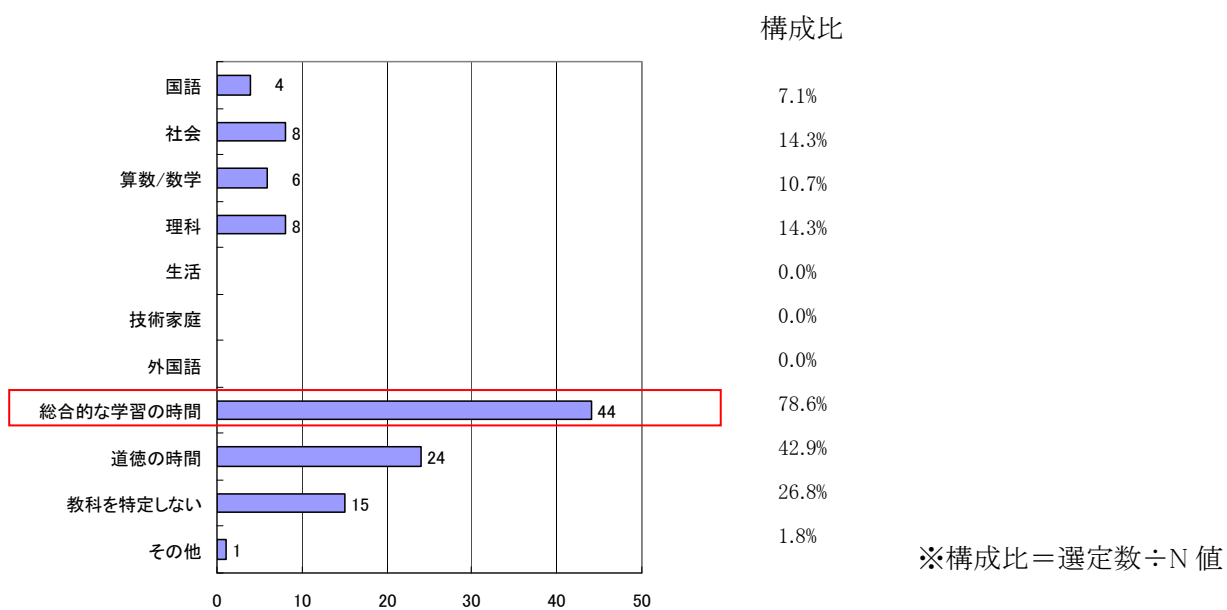
回答者の 62.6%が「総合的な学習の時間」を利用して、育成プログラムを利用した授業をすると回答している。次いで、「道徳の時間」が 32.2%となっている。道徳に関しては、学習指導要領(平成 23 年度より実施)で、「情報モラル」を扱うことが定められているため、既にこの時間を利用した運用が開始され始めているとみてとれる。

教科に関しては、学年ごとに変化する。小学校 1 年生、2 年生では「生活」があり、小学校 3 年生以降で「総合的な学習の時間」、「理科」、「社会」が始まり、中学校 1 年生以降で「外国語」、「技術家庭」が始まる。そのため、教える対象を「小学校 1 年生、2 年生」、「小学校 3 年生、4 年生」、「小学校 5 年生、6 年生」、「中学校 1 年生以上」の 4 つのグループに分けてみていくと、以下の通りとなる。

なお、育成プログラムの実施対象となる教科(複数回答可)が、これら 4 つのグループの 2 つ以上に属する場合は、重複して集計した。したがって、ある設問に対するグループ別回答者数の合計 192(=26+56+78+32)は、本設問の回答者総数 174 より多くなっている。

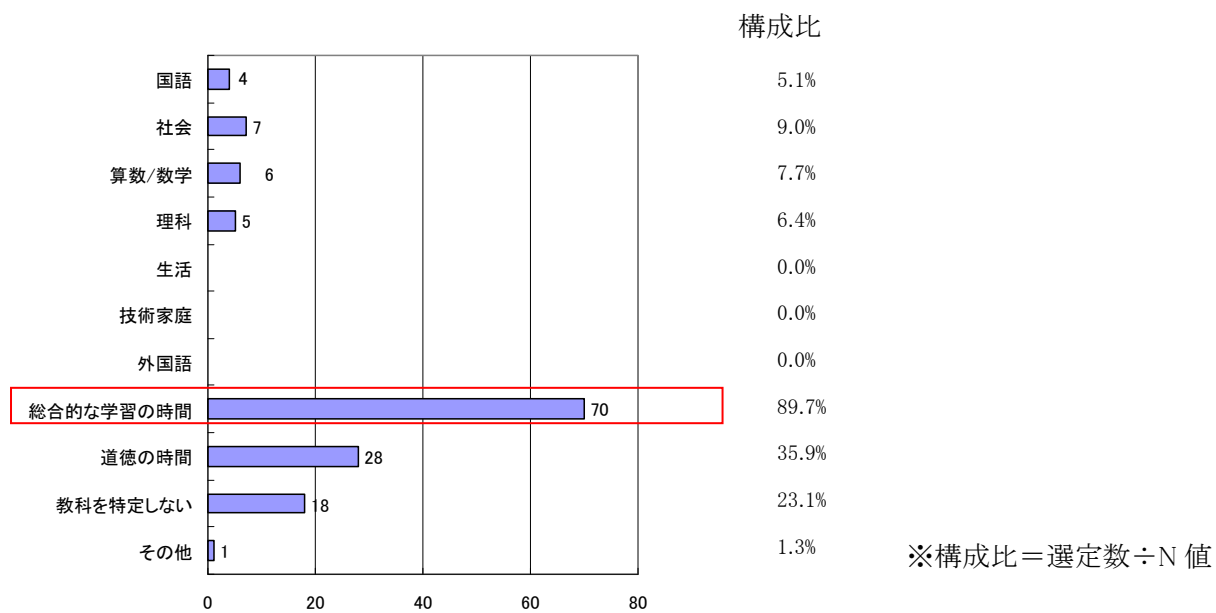


「教員」: 小学校 1 年生、2 年生の実施対象授業 (N=26、有効回答数=46)

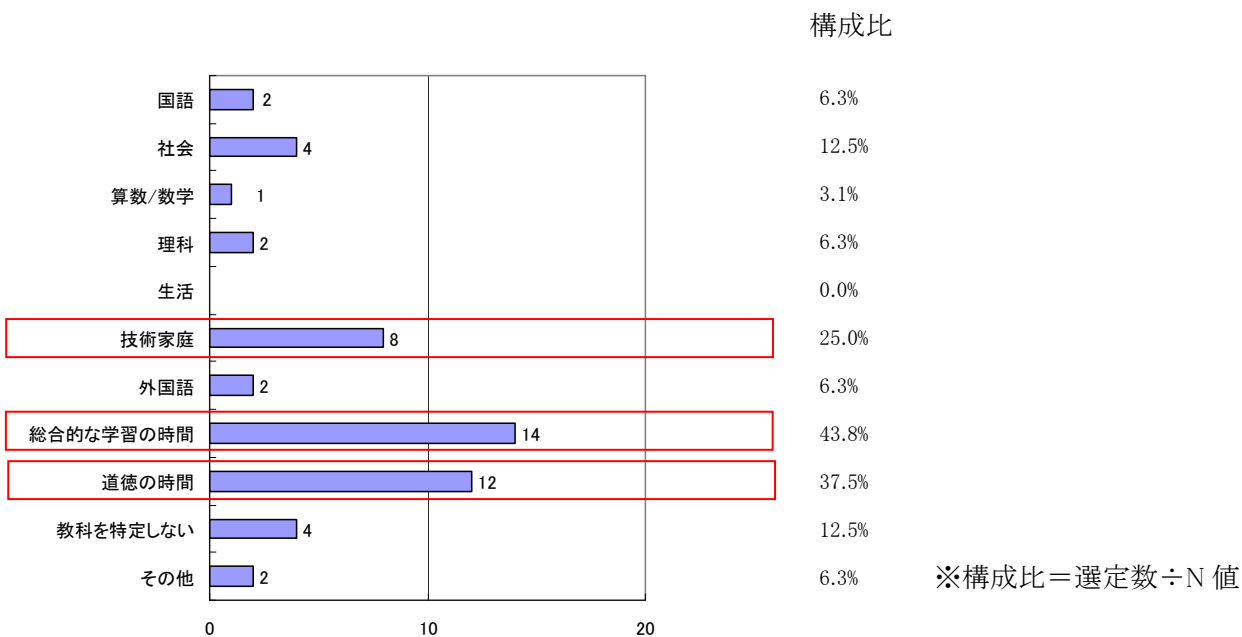


「教員」: 小学校 3 年生、4 年生の実施対象授業 (N=56、有効回答数=110)

(図は次ページへ続く)



「教員」: 小学校 5 年生、6 年生の実施対象授業 (N=78、有効回答数=139)



「教員」: 中学校 1 年生以上の実施対象授業 (N=32、有効回答数=51)

(図は次ページへ続く)

授業	小1、小2	小3、小4	小5、小6	中1以上
国語	19.2%	7.1%	5.1%	6.3%
社会		14.3%	9.0%	12.5%
算数/数学	19.2%	10.7%	7.7%	3.1%
理科		14.3%	6.4%	6.3%
生活	69.2%			
技術家庭				25.0%
外国語				6.3%
総合的な学習の時間		78.6%	89.7%	43.8%
道徳の時間	34.6%	42.9%	35.9%	37.5%
教科を特定しない	26.9%	26.8%	23.1%	12.5%
その他	7.7%	1.8%	1.3%	6.3%

※上記グレーの欄は当該学年で実施されていない科目

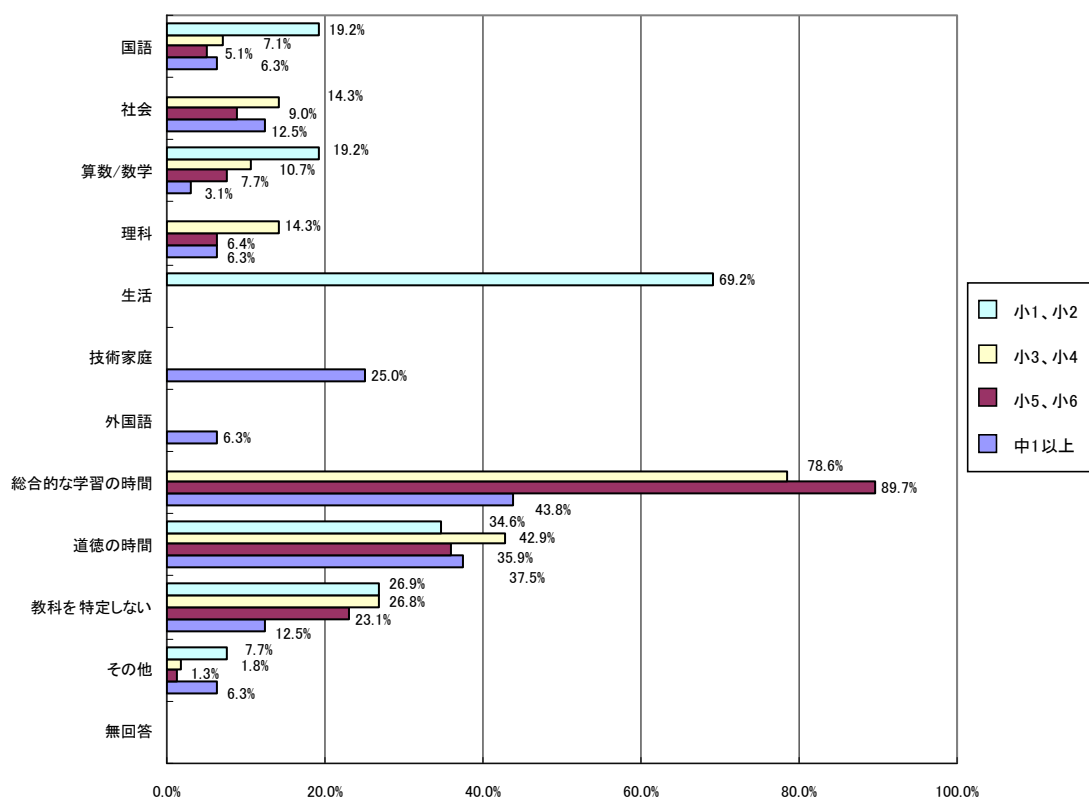


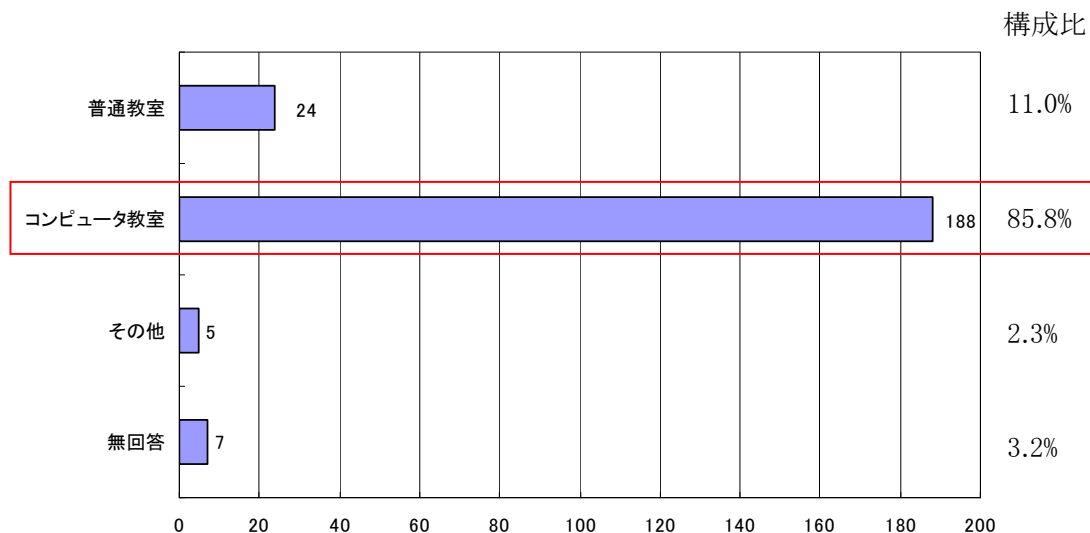
図 5-2-2-24 「教員」による実施対象授業:教える対象者別

「小学校1年生、2年生」では「生活」の時間に実施するという回答が最も多く、「小学校3年生、4年生」および「小学校5年生、6年生」では「総合的な学習の時間」で実施するという回答が最も多い。「中学校1年生以上」になると、「総合的な学習の時間」、「道徳の時間」、「技術家庭」の3つのパターンに分かれる。いずれの場合も授業でのコンピュータやネットワーク環境の利用や、指導要領や単元学習との連動などを考慮して育成プログラムの利用場面を設定しているものと思われる。

5.2.2.5. 【学校での授業の状況:実施場所】

育成プログラムの授業をどの場所で実施したかを聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:当教材を使って授業を実施された場所を教えてください。(複数選択可)



※構成比=選定数÷N 値

図 5-2-2-25 学校での授業の状況:実施場所 (N=219、有効回答数=224)

回答者の 85.8%が育成プログラムの授業の実施場所を「コンピュータ教室」としており、圧倒的に子どもが自身でコンピュータを使って学習できる環境で授業が行われている。

5.2.2.6. 【学校での授業の状況:利用方法・環境】

育成プログラムの利用方法・環境について聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:ネット教材の利用方法を教えてください。

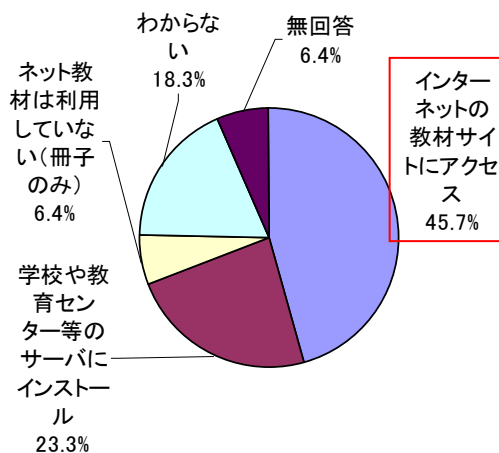


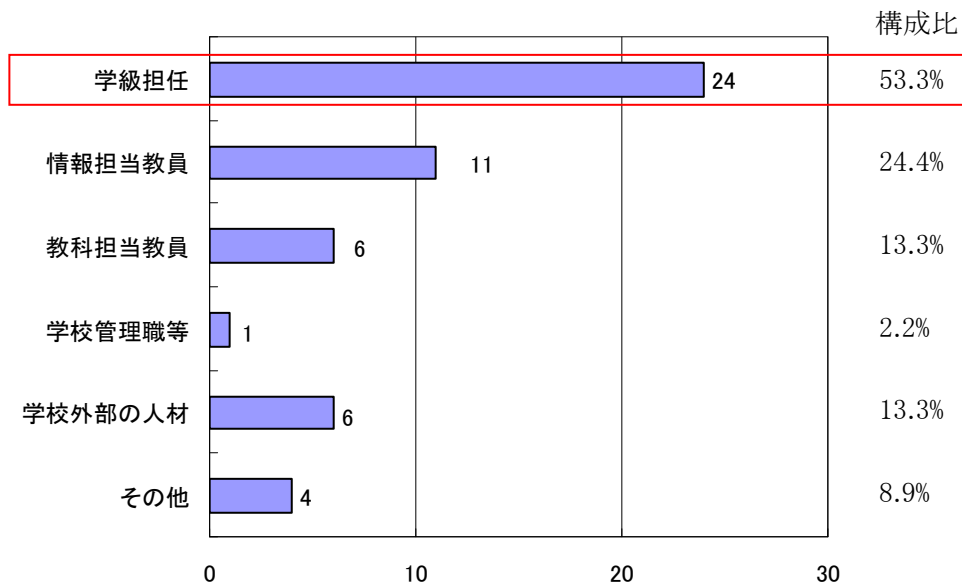
図 5-2-2-26 学校での授業の状況:利用方法・環境 (N=219、有効回答数=219)

育成プログラムは学校内や教育委員会、教育センター等のサーバにインストールして使用する前提で製作されており、学習テキストに添って5つの学習テーマを学習するためには、インストールが必須であるものの、公式サイト上でも、簡易的にすべての学習テーマを利用し学習を進めることが可能になっている。実際に学校においても公式サイトでの ICT シミュレーターを利用するケースが 45.7%と半数近くを占めた。また、23.3%がサーバにインストールして使用している。

5.2.2.7. 【学校での授業の状況:実施者】

育成プログラムによる授業実施者について聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:授業(指導)を行ったのは、どなたですか？(複数選択可)



※構成比=選定数÷N 値

図 5-2-2-27 学校での授業の状況:授業実施者 (N=45、有効回答数=52)

育成プログラムを使った授業は、小学校で行う場合が多いため、「学級担任」が行う割合が 53.3%で最も多く、「情報担当教員」が 24.4%でそれに次ぐ。

5.2.2.8. 【学校での授業の状況:利用教材】

育成プログラムはテキスト教材とインターネット補助教材を併用するかたちで授業ができるよう設計されているが、それぞれの教材の利用状況について聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:当教材のうち今回の授業で使ったものは何ですか？

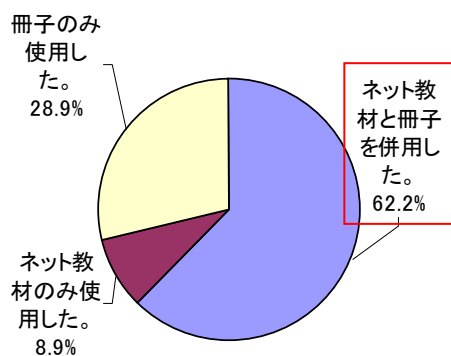


図 5-2-2-28 学校での授業の状況:利用教材 (N=45、有効回答数=45)

テキスト教材とインターネット補助教材との併用は、62.2%であった。「ネット教材のみを使用した」と回答した8.9%の回答者を抽出し、インターネット補助教材の利用方法の設問を見てみると、全員が公式サイト of ICT シミュレーターを使用していた。

5.2.2.9. 【学校での授業の状況:他の教材の利用状況】

育成プログラムを使った授業を実施する際の育成プログラム以外の教材の使用状況について聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:当教材以外で、今回の授業で使ったものは何ですか？(複数選択可)

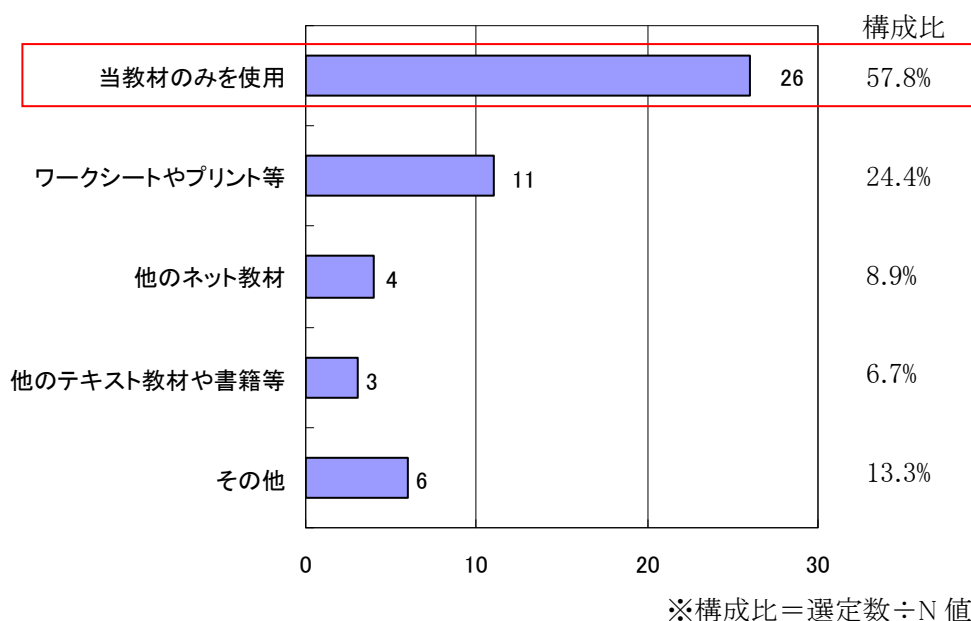


図 5-2-2-29 学校での授業の状況:他の教材の利用状況 (N=45、有効回答数=50)

教材として育成プログラムのみを利用するケースは 57.8%であり、それ以外は、独自にワークシートやプリントを作成したり、他のネット教材、冊子等を併用したりして授業を行っていることがわかる。それぞれの学校で子どもたちの状況にあわせていろいろなツールを使いながら授業が展開されている様子が見てとれる。

5.2.2.10. 【授業後の状況:学習効果】

育成プログラムの授業の学習効果について聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:当教材は情報モラル (ICT メディアリテラシー) 育成に効果があると思いますか？

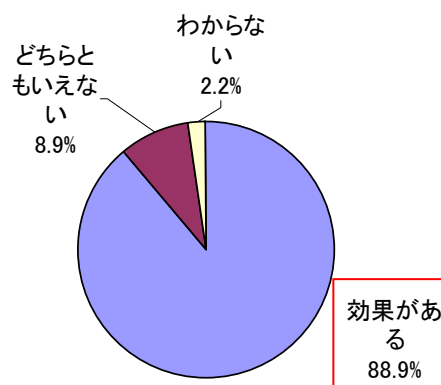


図 5-2-2-30 学校での授業後の状況:学習効果 (N=45、有効回答数=45)

88.9%の教員は学習効果があると回答している。一方、「どちらともいえない」、「わからない」をあわせると11.1%となっていることから、後述の自由記述などから育成プログラムに対する課題を探る。

5.2.2.11. 【授業後の状況:今後の利用】

育成プログラムを今後も利用したいと考えているかを聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:今後も情報モラル教育に、当教材を使いたいですか？

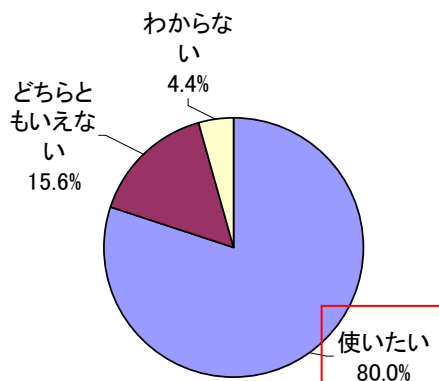


図 5-2-2-31 学校での授業後の状況:今後の利用 (N=45、有効回答数=45)

80.0%の教員が育成プログラムを今後も利用したいと考えており、継続的な利用が期待できる。ただし 20.0%が継続利用について態度を保留していることから、後述の自由記述などから育成プログラムに対する課題を探る。

5.2.2.12. 【授業後の状況:教員向け研修】

育成プログラムの教員向け研修の実施または実施予定の有無を聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:当教材に関して他の教員、他の学校に紹介や研修会等を行いましたか?あるいは行う予定ですか?

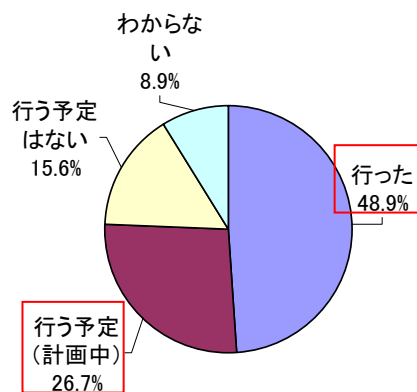


図 5-2-2-32 学校での授業後の状況:教員向け研修 (N=45、有効回答数=45)

教員向け研修の実施済みおよび予定をあわせると、75.6%となり、この分野における教員同士でのノウハウの共有や横展開については非常に積極的であるといえる。

5.2.2.13. 【授業後の状況:保護者向け研修】

育成プログラムの保護者向け研修の実施または実施予定の有無を聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:当教材に関して保護者に紹介や研修会等を行いましたか?あるいは行う予定ですか?

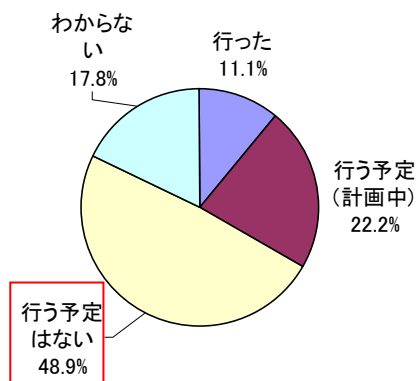


図 5-2-2-33 学校での授業後の状況:保護者向け研修 (N=45、有効回答数=45)

保護者向け研修は実施済みおよび予定をあわせて 33.3%となる。教員間の情報やノウハウの共有に比べると教員と保護者間での情報共有はやや低調である。「行う予定はない」が 48.9%と半数近くを占めており、この分野に関して、学校と家庭での連携が十分であるとはいえない。

5.2.2.14. 【家庭の状況:インターネットの利用頻度】

保護者に対して、家庭での子どものインターネットの利用頻度について聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:お子さんは家でインターネットを使っていますか？

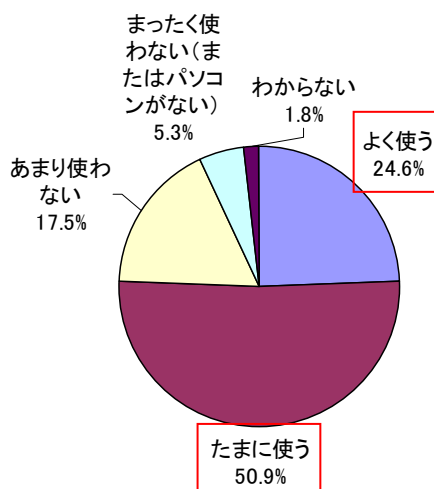


図 5-2-2-34 家庭の状況:インターネットの利用頻度 (N=171、有効回答数=171)

インターネットをよく使うと、たまに使うをあわせると、75.5%となり、育成プログラムの利用者のうち、多くの家庭で子どもがインターネットを使っている。

5.2.2.15. 【家庭の状況:携帯電話の所有状況】

子どもの携帯電話の所有状況について聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:お子さんは自分用の携帯電話を持っていますか？

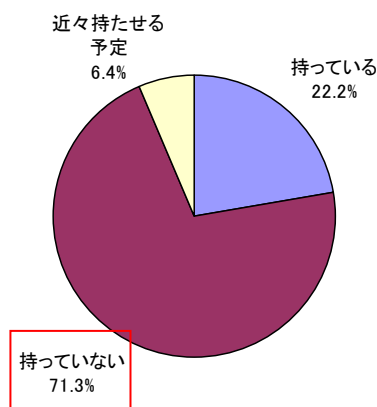


図 5-2-2-35 家庭の状況:子どもの携帯電話の所有状況(N=171、有効回答数=171)

子ども用の携帯電話を持っていないと答えた家庭は 71.3%となっている。子ども用の携帯電話を持っていると回答した人は 22.2%である。対象となる子どもの年齢層が広いため、また子どもの年齢(学年)が比較的低いため、一概には言えないが、今回の回答者の家庭が、特に子どもの携帯電話所持率が高いとは言えない。参考までに、文部科学省の「子どもの携帯電話等の利用に関する調査(平成 21 年 2 月)」によると、小学校 6 年生の携帯電話の所有率は 24.7%であった。

5.2.2.16. 【家庭の状況:教える人】

家庭の中で育成プログラムを教える人について聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:今回どなたが、この教材を使ってお子さんに教えましたか？

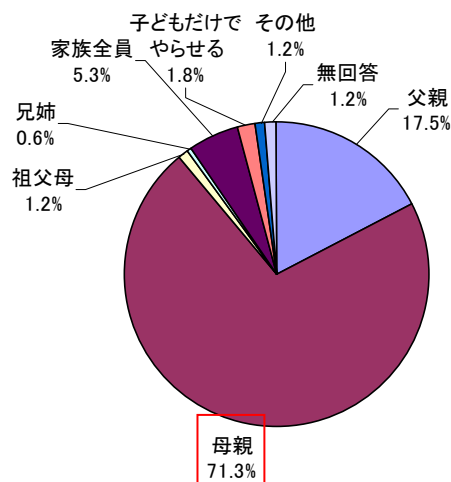


図 5-2-2-36 家庭の状況:家庭で教える人(N=171、有効回答数=171)

家庭で教える人は「母親」が 71.3%で大半を占め、次いで「父親」の 17.5%となっている。「家族全員」は 5.3%であった。

5.2.2.17. 【家庭の状況:学習する時間帯】

育成プログラムを実施した時間帯について聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:主に学習を行った日や時間帯は？

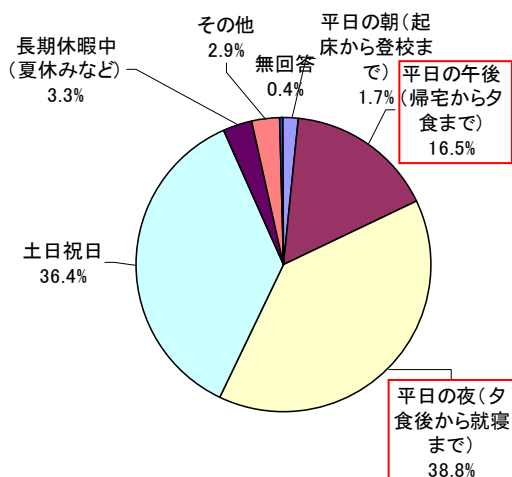
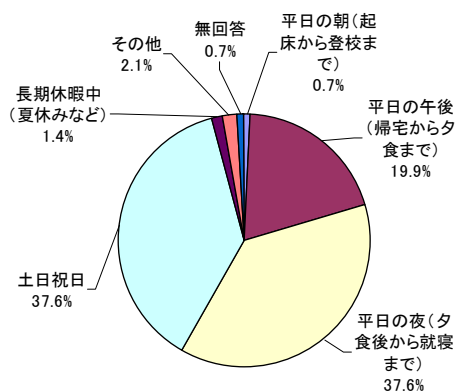


図 5-2-2-37 家庭の状況:学習する時間帯(N=171、有効回答数=171)

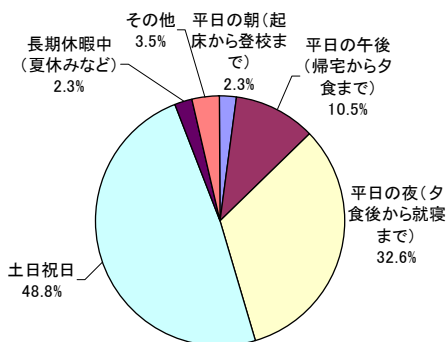
学習する時間帯は、平日の午後と夜をあわせて 55.3%となっている。

学習する時間帯について、教える対象を「小学校 4 年生以下」、「小学校 5 年生、6 年生」、「中学校 1 年生以上」の 3 つのグループに分けて見ていくと、以下の通りとなる。

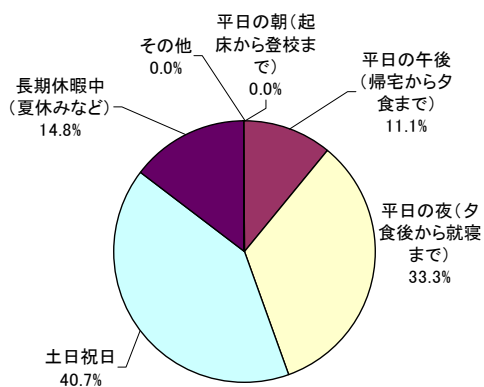


学習する時間帯:小学校 4 年生以下(N=93)

(図は次ページへ続く)



学習する時間帯:小学校 5 年生、6 年生 (N=63)



学習する時間帯:中学校 1 年生以上 (N=21)

(図は次ページへ続く)

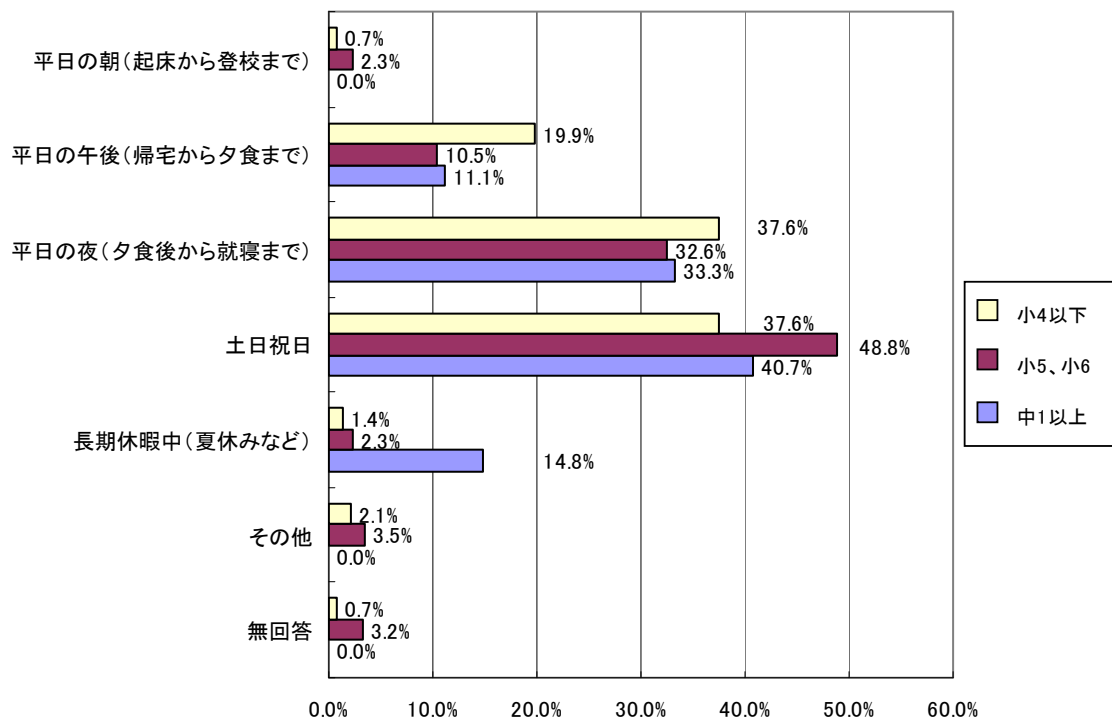
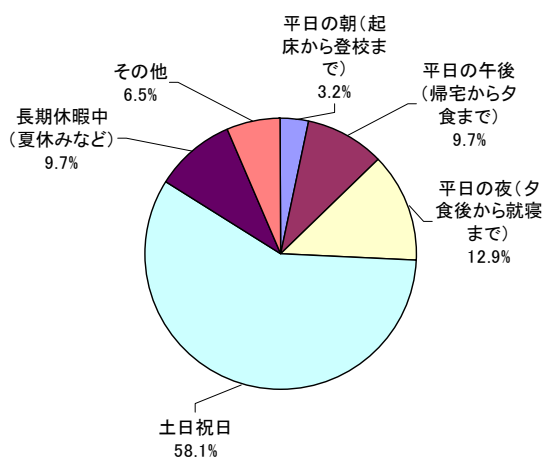


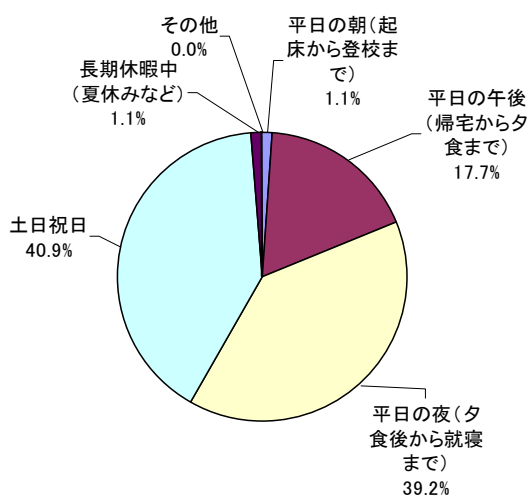
図 5-2-2-38 家庭の状況:学習する時間帯:教える対象者別

「小学校 4 年生以下」では平日の夜と土日祝日の比率が 37.6%で最も高い。「小学校 5 年生、6 年生」では土日祝日が 48.8%で最も高くなる。「中学校 1 年生以上」では、土日祝日が 40.7%で最も高いが、他のグループに比べて長期休暇の比率も高い。年齢が高くなるのに伴い、学習する時間帯が、平日の午後や夜から、休日や長期休暇に移行していく傾向が見られる。これは、子どもの帰宅時間や親をはなれて単独で行動する時間が年齢にしたがって変化することによる違いと見られる。

さらに学習する時間帯について、教える人が「父親」と「母親」で比較してみると、以下の通りとなる。



学習する時間帯:教える人が父親(N=30)



学習する時間帯:教える人が母親(N=122)

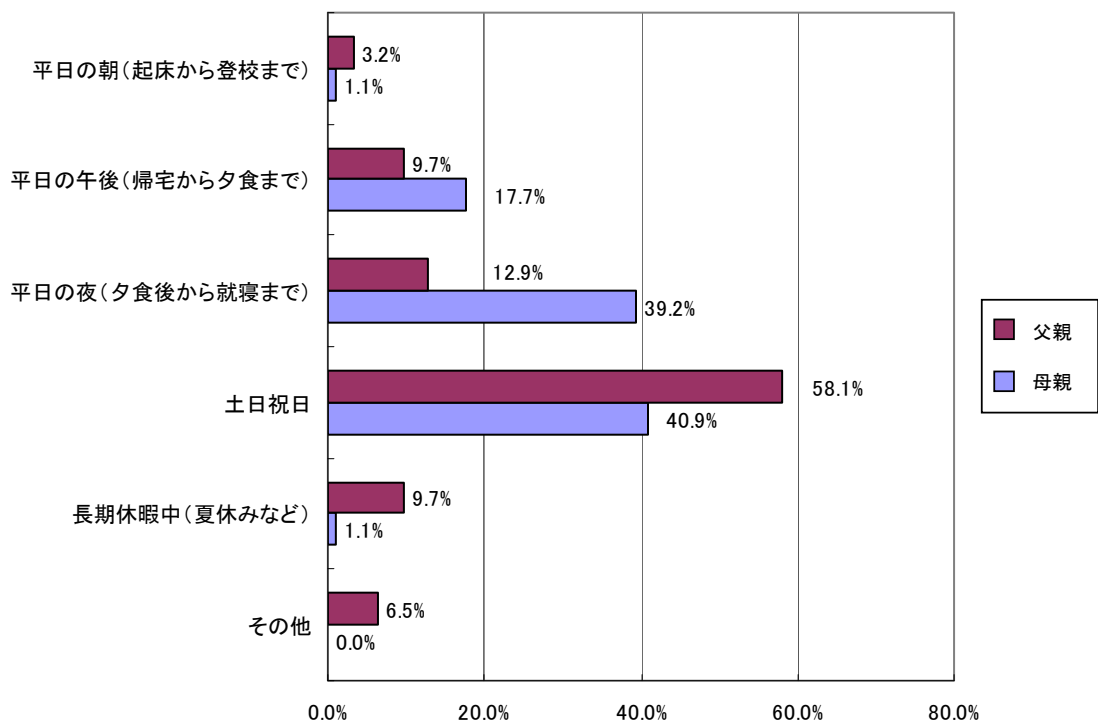


図 5-2-2-39 家庭の状況:学習する時間帯:父親/母親別比較

父親が教える場合は、土日祝日、長期休暇の構成比が増加する傾向にある。これは父親の仕事などに影響を受けているものと思われる。

5.2.2.18. 【家庭の状況:学習場所】

育成プログラムを学習した場所(部屋)を聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:主に学習を行った場所はどこですか？

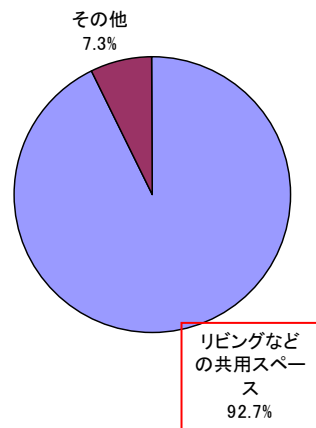


図 5-2-2-40 家庭の状況:学習場所(N=123、有効回答数=123)

「リビングなどの共有スペース」が 92.7%で大半を占めている。家庭内でのコンピュータ等の利用環境としては、共有スペースを使うということが既に一般化しているものと思われる。

5.2.2.19. 【家庭の状況:利用教材】

育成プログラムのネット教材と学習テキストの利用状況について聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:当教材のうち今回の学習で使ったものは何ですか？

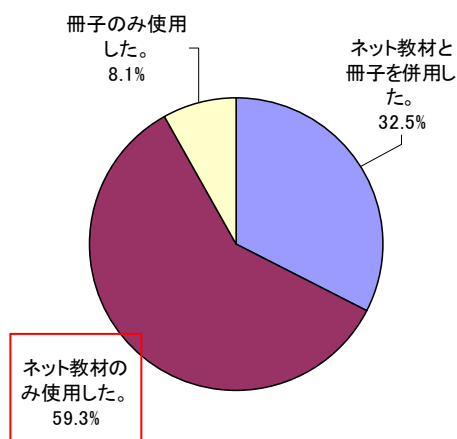


図 5-2-2-41 家庭の状況:利用教材 (N=123、有効回答数=123)

家庭では学校と違い、インターネット補助教材をサーバへインストールして使うということがないため、ネット教材のみ使用した割合が 59.3%と非常に高い。テキスト教材との併用は、32.5%に留まり、テキストを使わずに子どもとコンピュータの画面を見ながら学習を進めて行くという利用方法が主流のようである。

5.2.2.20. 【家庭の状況:他の教材の利用状況】

育成プログラムの学習を実施する際の、本教材以外の使用状況について聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:当教材以外で今回の学習で使ったものは何ですか？(複数選択可)

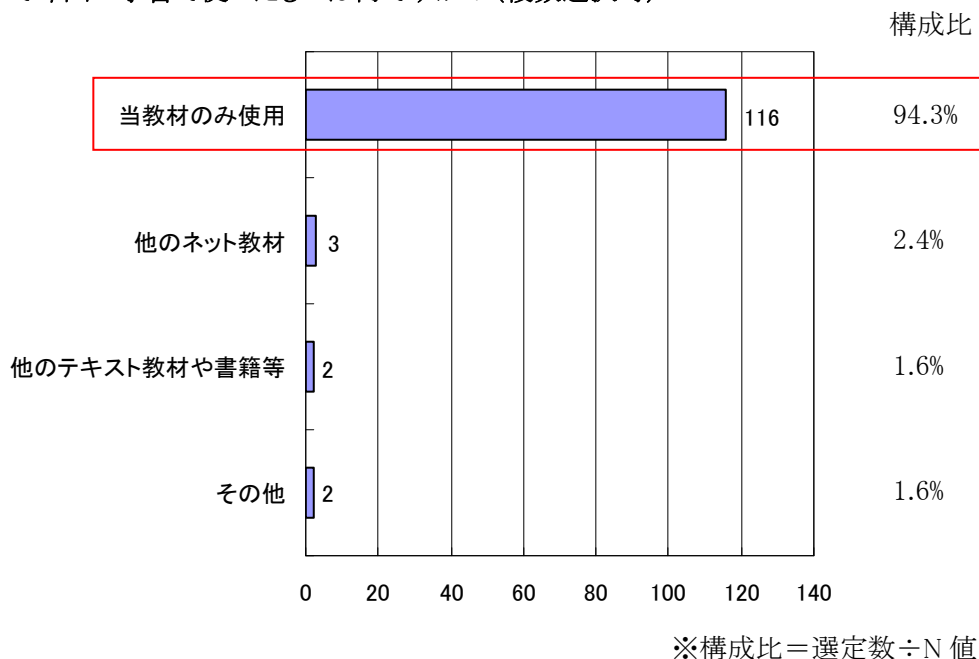


図 5-2-2-42 家庭の状況:他の教材の利用状況(N=123、有効回答数=123)

保護者の回答は、育成プログラムの教材のみ使用した割合が 94.3%で大半を占めた。この分野の教育に関して保護者が家庭で使えるツールや情報が不足しているか、積極的に求められる段階まで至っていない可能性がある。

5.2.2.21. 【家庭の状況:学習効果】

育成プログラムの学習効果について聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:当教材は情報モラル(ICT メディアリテラシー) 育成に効果があると思いますか？

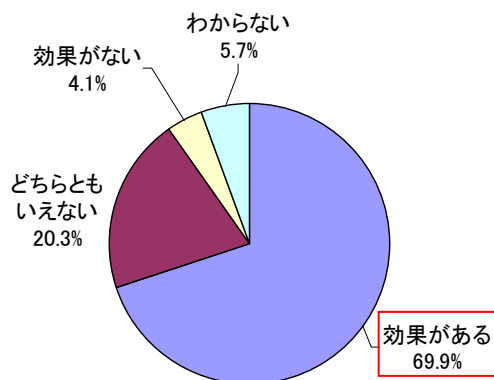


図 5-2-2-43 家庭の状況:学習効果(N=123、有効回答数=123)

効果があるとした保護者は 69.9%で、教員(88.9%、図5-2-2-30参照)よりも低い。テキスト教材との併用が少ないことで、教材をうまく使えていない可能性も否定できない。自由記述などから課題を探る。

5.2.2.22. 【家庭の状況:今後の利用】

育成プログラムを今後も利用したいと考えているかを聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:今後も情報モラル教育に、当教材を使いたいですか？

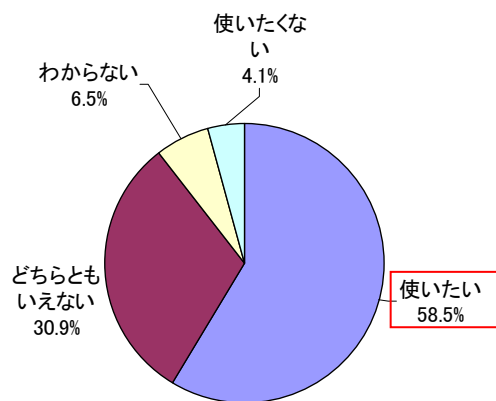


図 5-2-2-44 家庭の状況:今後の利用 (N=123、有効回答数=123)

今後も利用したいとした保護者は 58.5%と過半数を占めたものの、教員 (80.0%、図5-2-2-31参照)より低い数値となっている。これは、保護者は教員と違い、教える対象は自分の子どもだけとなるため、一度学習すれば十分という意味もあるものと推察する。

5.2.2.23. 【家庭の状況:他の人への紹介】

育成プログラムを他の人へ紹介したか、または紹介したいと思うかについて聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:当教材を他のかたに紹介しましたか?または紹介したいですか?(複数回答可)

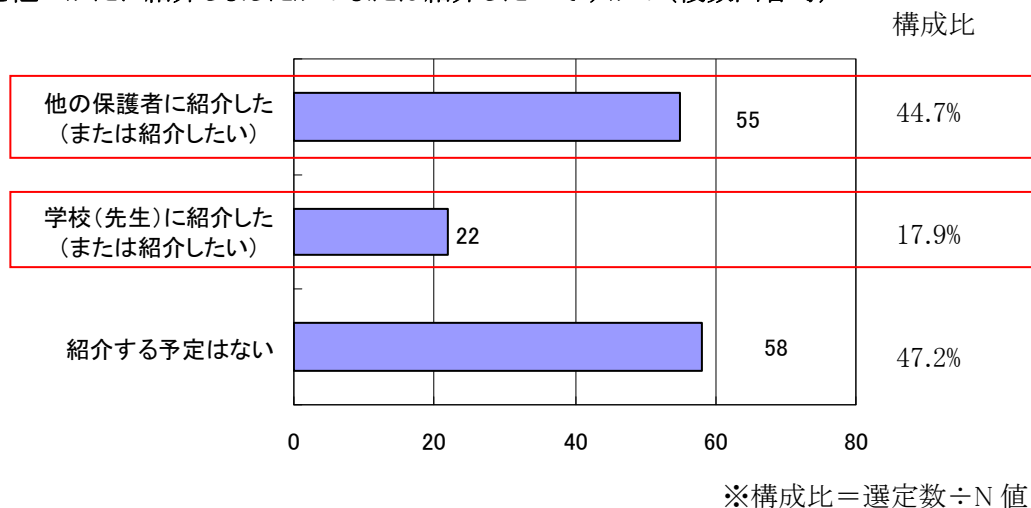


図 5-2-2-45 家庭の状況:他の人への紹介 (N=123、有効回答数=135)

回答者のうち 44.7%が他の保護者に当教材を紹介した、またはしたいと考えており、学校(先生)に紹介した、またはしたいと考えている割合(17.9%)よりも 26.8 ポイント高い。また、学習効果で「どちらともいえない」と回答した人(図 5-2-2-43参照)は、基本的に本設問で「紹介する予定はない」と回答している。

5.2.2.24. 【家庭の状況:子どもの反応】

育成プログラムを利用した時の子どもの反応について聞いたところ、回答は以下の通りであった。

設問:学習しているときのお子さんの反応はいかがでしたか？

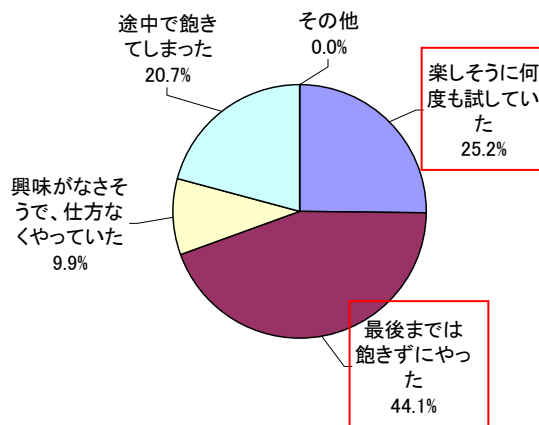


図 5-2-2-46 家庭の状況:子どもの反応(N=104、有効回答数=104)

「楽しそうに何度も試していた」と、「最後まで飽きずにやった」をあわせると 69.3%となり、ある程度は子どもを引きつけて学習させることができている。ただし、最後まで関心が続かない場合も 3 割程度存在する。要因としては、家庭では教える対象として小学校 4 年生以下が約半数を占めていること、テキスト教材との併用率が低いこと、指導側にも興味を持続させるスキルが求められていること、などが考えられる。

5.2.2.25. 【要望・意見(自由記入)】

育成プログラムへの要望、改良点、意見等を自由記入で聞いた。

設問:当教材に関するご要望や改善点(教材内容、利用手順、使い勝手など)ご自由にお書きください。

自由記入から得られた回答総数は、159 件(うち教員:51 件、保護者:108 件)であった。
これを、内容ごとに以下の 4 つの区分に分類した。

- ① 育成プログラムの内容やインターフェースの改良
- ② 育成プログラムの実施場所や形態、サーバ等の環境面
- ③ 育成プログラム研修や授業のカリキュラム化などの制度面
- ④ 新規学習テーマ、他の学年に向けた新しい育成プログラムの要求

この分類をもとに、教員と保護者の要望・意見をそれぞれまとめる。教える対象の学年別に意見や要望が異なる可能性があるため、教える対象別に「小学校 4 年生以下」、「小学校 5 年生、6 年生」、「中学校 1 年生以上」で分類した。

以下に、教員の要望・意見をまとめる。各項目の数字は、グループ内での該当キーワードに関する記述のあったコメント数を表す。

表 5-2-2-3 教員の要望・意見:教える対象者別

区分	項目	小4以下	小5、小6	中1以上
育成プログラムの 内容やインターフ ェースの改良	音声、BGM の付加	1	2	1
	実際のトラブルや事件の例を増やして欲しい		3	1
	ケータイの危険性をもっと伝える	1	3	
	検索内容を増やして欲しい			
	子ども同士のやりとりを確認できるようにして欲しい	1		
	フリガナをつけて欲しい	1		
	携帯電話の教材で一部おかしいと思うところがあった	1		
	メールでけんか等の内容をもう少し深くして欲しい		4	
	シミュレーターでコメントが反映されないときがあった		1	
	シミュレーターに戻るボタンがほしい		1	
	スクロールホイール対応(一部使用不可部分があったため)		1	
	著作権や肖像権の部分の充実		1	
	テーマが大きいため、部分的に行えるようにしてほしい		1	
	被害者や加害者にならないための指導の実践例がほしい		1	
	ワークシートのページを増やして欲しい		1	
保護者に関心もってもらう手法を提示して欲しい			1	
育成プログラムの 実施場所や形態、 サーバ等の環境面	インターネットではシミュレーターの負荷が大きい	1		
	サーバのインストールの簡便化		2	1
	インストールのサポート体制を作って欲しい			1
育成プログラム研 修や授業のカリキ ュラム化などの制 度面	教員用研修をもっと実施して欲しい	2		1
	テキストが継続的に提供され、授業で使えるとよい		2	
	保護者への啓蒙活動につなげる		1	
	もっとPRをして欲しい		1	
	全学年児童分の教材を配布して欲しい		1	
新規学習テーマ、 他の学年に向けた 新しい育成プログ ラムの要求	低学年用の教材が欲しい	1		
	保護者自身が学習できる教材がもっと欲しい	1		
	学年別に教材を整備してほしい		1	1
	学校用で子どもと保護者と学べる教材が欲しい		1	1
	プロフや学校裏サイトなどのテーマの教材が欲しい		2	1
	中高生向けの教材が欲しい			2

次に保護者の要望・意見をまとめると以下の通りとなる。

表 5-2-2-4 保護者の要望・意見:教える対象者別

区分	項目	小4以下	小5、小6	中1以上
育成プログラムの内容やインターフェースの改良	音声、BGM の付加	2	1	
	実際のトラブルや事件の例を増やして欲しい	1	4	
	イラストの充実や漫画風にしてもっと文字も大きく	1		
	キャラクターを利用したストーリーにして欲しい	1	1	
	ゲーム性がほしい	1		
	RPG 的にもっと分岐が多い方がよい	1	2	1
	画面上での説明、ヘルプが欲しい	5		
	タイマー機能がほしい	2		
	検索シミュレーターがわかりにくい	5		
	検索内容を増やして欲しい	1		
	自由に検索できるようにして欲しい	4	2	
	シミュレーターのクリック場所がわかりにくい、もっと目立たせて欲しい	4	2	
	大切な部分はもっと目立たせて欲しい		1	
	フリガナをつけて欲しい	8		
	字が小さい		1	
	ブログが使いにくいまたはわかりにくい	2	2	
	掲示板の使い方がよくわからない	1		
	もっと現実味がほしい	1		
	有害サイト対策の説明がほしい	1		
	保護者向けの教材でわからない言葉があった	1		
説明文が長い	1	2		
携帯電話の教材で一部おかしいと思うところがあった	1			
けんか・仲直りシミュレーターでは、選択肢によってけんかか仲直りになるようにして、最後に振り返られるようにして欲しい			1	
けんか、仲直りシミュレーターが使いにくい		1	1	
自分で動かすのか、自動的に動くのかわからない		1		
迷惑メールシミュレーターで最初、何をすればよいかわからなかった			1	
育成プログラムの実施場所や形態、サーバ等の環境面	インターネットではシミュレーターの負荷が大きい、反応が遅い	3	1	
	子ども一人ではできない	1		
	ネットを必要としない CD-ROM 教材もほしい	1		
育成プログラム研修や授業のカリキュラム化などの制度面	地域のコンピュータ講座等でもおこなってほしい	1		
	学校との連携の視点がほしい		1	
新規学習テーマ、他の学年に向けた	低学年用の教材が欲しい	13		
	学年別に教材を整備してほしい	2	2	

新しい育成プログラムの要求	プロフや学校裏サイトなどのテーマの教材が欲しい	3	2	
	ネットの進化にあわせた教材の整備	2	4	
	通販の教材がほしい	1		
	メールの利用時間帯や料金についての教材がほしい	1		
	中高生向け教材が欲しい			2

以上が、教員、保護者それぞれから出たすべてのコメントを内容に沿って項目分けしたものであるが、この中から、各項目について 2 件以上コメントがあったものをさらに抽出し、4 つの区分ごとに以下にまとめる。

①育成プログラムの内容やインターフェースの改良

当区分はさらに、「内容」と「インターフェース、機能」という小区分に分けて項目を分類した。

表 5-2-2-5 育成プログラムの内容やインターフェースの改良

小区分	項目	教員			保護者		
		小4以下	小5、小6	中1以上	小4以下	小5、小6	中1以上
内容	実際のトラブルや事例の例を増やして欲しい		3	1	1	4	
	ケータイの危険性をもっと伝える	1	3				
	メールでけんか等の内容をもう少し深くして欲しい		4				
	RPG 的にもっと分岐が多い方がよい				1	2	1
インターフェース、機能	音声、BGM の付加	1	2	1	2	1	
	画面上での説明、ヘルプが欲しい				5		
	タイマー機能がほしい				2		
	検索シミュレーターがわかりにくい				5		
	自由に検索できるようにして欲しい				4	2	
	シミュレーターのクリック場所がわかりにくい、もっと目立たせて欲しい				4	2	
	フリガナをつけて欲しい				8		
	ブログが使いにくい又はわかりにくい				2	2	
	説明文が長い				1	2	

②育成プログラムの実施場所や形態、サーバ等の環境面

教員、保護者で複数の人から要望・意見がでたものについてまとめると以下の通りである。

表 5-2-2-6 育成プログラムの実施場所や形態、サーバ等の環境面

項目	教員			保護者		
	小4以下	小5、小6	中1以上	小4以下	小5、小6	中1以上
サーバのインストールの簡便化		2	1			
インターネットではシミュレーターの負荷が大きい、反応が遅い				3	1	

③育成プログラム研修や授業のカリキュラム化などの制度面

教員、保護者で複数の人から要望・意見がでたものについてまとめると以下の通りである。

表 5-2-2-7 育成プログラム研修や授業のカリキュラム化などの制度面

項目	教員			保護者		
	小4以下	小5、小6	中1以上	小4以下	小5、小6	中1以上
教員用研修をもっと実施して欲しい	2		1			
テキストが継続的に提供され、授業で使えるとよい		2				

④新規学習テーマ、他の学年に向けた新しい育成プログラムの要求

教員、保護者で複数の人から要望・意見がでたものについてまとめると以下の通りである。

表 5-2-2-8 新規学習テーマ、他の学年に向けた新しい育成プログラムの要求

項目	教員			保護者		
	小4以下	小5、小6	中1以上	小4以下	小5、小6	中1以上
プロフや学校裏サイトなどのテーマの教材が欲しい		2	1	3	2	
低学年向けの教材が欲しい	1			13		
中高生用の教材が欲しい			2			2
学年別に教材を整備してほしい		1	1	2	2	
ネットの進化にあわせた教材の整備				2	4	

5-2-3. 利用状況に関する考察

前項では、育成プログラムの利用者に対して実施したアンケート調査により、育成プログラムの利用状況についての傾向をみた。本項では、育成プログラムの利用状況調査のまとめと考察を行なう。

育成プログラムの利用傾向は、学校と家庭で異なる部分が多いため、分けて利用状況を整理する。

5.2.3.1. 【学校での利用】

学校での育成プログラムの利用状況の傾向をまとめると以下の通りである。

表 5-2-3-1 学校での育成プログラムの利用状況

項目	傾向
教える対象	育成プログラムのターゲットが小学校 5 年生、6 年生であるため、教員の約 85%が 5 年生、6 年生を教える対象としていた。(図5-2-2-4参照)
学習テーマの選択傾向	学習テーマの選択では「インターネットで調べよう!」、「わくわく! ハラハラ? インターネット」、「メールでけんか! どうする?」の 3 テーマが多く選択されていた。携帯電話に関するテーマ「ケータイを持って街へ出かけよう!」は、学校としては携帯電話持ち込み禁止の所も多いためか、選択数が少なかった。「学校のステキを伝えよう!」も少なかった。小学校 4 年生以下は、「インターネットで調べよう!」が最も選択され、高学年になるにつれ、インターネットの初歩を学ぶ「インターネットで調べよう!」のようなテーマから、「メールでけんか! どうする?」などのコミュニケーションやマナーを扱うテーマに、移行していく傾向がある。(図5-2-2-9参照)
学習テーマの選択数	教員一人当たりの学習テーマの平均選択数は 2.2 で、教える対象が「小学校 5 年生、6 年生」の場合、最も高く 2.5 となった。育成プログラムが、もともと「小学校 5 年生、6 年生」での学習を前提に作られているため、各テーマにおける学習内容もこのグループでの学習に適しており、学習テキストもこのレベルにあわせているため、多くの学習テーマが利用される傾向にあると思われる。(表5-2-2-1参照)
選定理由	学校においては、基本的なテーマの網羅を選定理由にあげている場合が多く、特に小学校ではその傾向が顕著である。それ以外では、「小学校 5 年生、6 年生」で、「指導用、学習用テキストが揃っている」ことが高い値になっており、授業に導入しやすい点が評価されたと思われる。また、「中学校 1 年生以上」では「ケータイやブログへの対応」が比較的高く、このテーマに関する教材や教育ノウハウ等が、他のグループに比べて中学校段階で特に求められているのではないかと推察できる。(図5-2-2-18参照)
実施授業/時間帯	「小学校 1 年生、2 年生」では「生活」の時間に実施するという回答が最も多く、「小学校 3 年生、4 年生」および「小学校 5 年生、6 年生」では「総合的な学習の時間」で実施するという回答が最も多い。「中学校 1 年生以上」になると、「総合的な学習の時間」、「道徳の時間」、「技術家庭」の3つのパターンに分かれる。(図5-2-2-24参照)

実施場所	回答者の約 86%が実施場所を「コンピュータ教室」としており、子どもが自身でコンピュータを使って学習できる環境で利用されている。(図5-2-2-25参照)
インターネット補助教材の利用形態	インターネット補助教材の利用形態は、サーバへのインストールではなく、公式サイトでの体験プログラムを利用しているケースが半数近くある。(図5-2-2-26参照) ヘルプデスクへのインストールに関する問合せが少なくないことや表5-2-2-3の分析から、サーバ導入に対するハードルが存在すると思われる。
教える人	教える人は学級担任が最も多く、次いで情報担当教員となっており、外部人材の活用は 13%程度である。(図5-2-2-27参照)
インターネット補助教材とテキスト教材	インターネット補助教材と学習テキストの併用が約 62%で、多くの場合、本来推奨する使用方法で授業が行われている。一方で、インターネット補助教材のみを利用して授業を行うケースは約 9%である。(図5-2-2-28参照)
他の教材の利用状況	教材として育成プログラムのみを利用するケースは約 58%であり、それ以外は、独自にワークシートやプリントを作成したり、他のネット教材、冊子等を併用したりして授業を行っていることがわかる。(図5-2-2-29参照)それぞれの学校で子どもたちの状況にあわせていろいろなツールを使いながら授業が展開されている様子が見てとれる。
学習効果／継続利用	学習効果は約 89%が認めており、継続利用も約 80%が前向きで、満足度は高い。(図5-2-2-30 図5-2-2-31参照)
研修／紹介	教員向け研修といった横展開は約 76%が前向きだが、保護者向け研修は半数近くが予定をしないと回答しており、学校と家庭の連携の難しさを物語っている。(図5-2-2-32 図5-2-2-33参照)

傾向を見ていくと、学校での典型的な育成プログラムの利用パターンは以下の通りである。

学級担任が、総合的な学習の時間を利用して、コンピュータ教室で、「インターネットで調べよう!」、「わくわく! ハラハラ? インターネット」、「メールでけんか! どうする?」の 3 テーマを中心に、学習テキストとインターネット補助教材を併用して進めている。

育成プログラムの選定理由に「指導用、学習用テキストが揃っている」ことをあげている教員が多いこと、インターネット補助教材とテキスト教材の利用状況をみると、6割以上の教員は、授業の際に、テキスト教材を利用していることから、学校、とくに小学校では、授業を組み立てる際に、ティーチャーズガイドを利用し、そこに記述されている「学習の流れ」にしたがって、子ども用の「学習テキスト」も活用していると推察される。

育成プログラムを使った授業が行われる場所としては、インターネット補助教材の動作条件が整備されており、子ども自身が育成プログラムを直接操作できる環境として、学校内のコンピュータ教室での利用が最も多かった。

つぎに、授業の中で「インターネットで調べよう!」、「わくわく! ハラハラ? インターネット」、「メールでけんか! どうする?」の 3 テーマがよく使われていることから、以下のことが推察される。

「インターネットで調べよう！」は、小学校 4 年生以下で、最も選択されているが、小学校 5 年生 6 年生でも多く選択されている。本テーマは、インターネットを活用して情報を収集する方法や知識を身につけることが目標であることから、学校でインターネットを使い始める初期の段階での利用が多くなったのではないかと推察される。

「わくわく！ハラハラ？インターネット」は、小学校 5 年生、6 年生で、最も多く選択されている。これは、インターネットを利用しているうちに遭遇するであろう危険な側面を体験できることから、「インターネットで調べよう！」の次の学習段階として選択されているとも考えられる。

「メールでけんか！どうする？」は、小学校 5 年生、6 年生および中学校 1 年生以上で多く選択されている。コンピュータや携帯電話でのメールの利用に伴い、本テーマのような文字でのコミュニケーションについて教える機会を持ちたいという教員の思いの現れとも受け取れる。

一方、「学校のステキを伝えよう！」は、ティーチャーズガイドのとおり授業を展開しようとするれば、セッション 1「デジタルカメラで写真を撮ろう！」、セッション 2「ブログを使って伝えよう」、セッション 3「ブログでコミュニケーションしよう」の 3 セッションが 1 セットとなっており、合計 135 分という時数が必要になる。このため、時間割のやりくり面やデジタルカメラ等の機材の準備、ブログ制作のための子ども用 ID の発行といった教員の工数負担が他の学習テーマを行う場合より大きくなることが避けられず、これが影響して、他の学習テーマと比較して実施されにくい傾向があるのではないかと推察される。

また、「ケータイを持って街に出かけよう！」は、携帯電話を所有していない子どもがいることや学校への持込を禁止しているということから選択されにくい可能性がある。

5.2.3.2. 【家庭での利用】

家庭での育成プログラムの実施状況の傾向をまとめると以下の通りである。

表 5-2-3-2 家庭での育成プログラムの利用状況

項目	傾向
教える対象	家庭では「小学校 4 年生以下」が半数を超えており、メインのターゲットである 5 年生、6 年生よりも比率が高かったことを考えると、家庭では、低学年から ICT メディアリテラシーを教えたいというニーズは高いと思われる。(図5-2-2-4参照)
インターネット利用状況	子どものインターネット利用は 75.5%で(図5-2-2-34参照)、一般よりやや高め傾向と思われる。これは、回答している保護者が育成プログラムの利用者に限られており、家庭における情報モラル教育等が必要と考えている保護者層が回答者のベースになっているからと考えられる。参考までに、「平成 20 年度情報通信白書」によると、6～12 歳のインターネット利用率は平成 19 年末で 68.7%である。
携帯利用状況	子どもの携帯電話の所有に関しては、22.2%である。(図5-2-2-35参照) 対象となる子どもの年齢層が広いため、また子どもの年齢(学年)が比較的低い場合、一概には言えないが、今回の回答者の家庭が、特に子どもの携帯電話所持率が高いとは言えない。参考までに、文部科学省の「子どもの携帯電話等の利用に関する調査(平成 21 年 2 月)」によると、小学校 6 年生の携帯電話の所有率は 24.7%であった。
学習テーマの選択傾向	学習テーマの選択では、学校と同様、「インターネットで調べよう！」の人気の高いが、「ケータイを持って街へ出かけよう！」も半数近く選択されており、この点は学校と異なる。(図5-2-2-6参照) 特に母親が教える場合は、父親に比べ、「ケータイを持って街へ出かけよう！」を選択する割合が高い。(図5-2-2-12参照) 子ども用の携帯電話を既に持っている家庭では、「ケータイを持って街へ出かけよう！」よりも「メールでけんか！どうする？」を選択する傾向にある。(図5-2-2-13参照)
学習テーマの選択数	保護者一人当たりの学習テーマの平均選択数は 2.7 で、教員の場合より 0.5 テーマ高い。また、教える対象者が「小学校 4 年生以下」の場合、最も高く 2.9 となった。(表5-2-2-2参照)
選定理由	育成プログラムの選定理由として最も多かった理由は無料コンテンツであることで、特に母親が教えている場合は、重要なポイントとしてあげられる。(図5-2-2-21参照) 一方、学校で重要視されていた、指導用テキスト・学習用テキストがそろっていることについては、あまり重要視されない傾向が見られる。(図5-2-2-16参照)
学習する時間帯	学習する時間帯は、小学校 4 年生以下は平日の午後や夜が半数を占めるが、学年があがると、休みの日にシフトしていく傾向がある。また、父親が教える場合は、休日の方が多(土日祝日と長期休暇をあわせると約 70%程度)。(図5-2-2-38、および図5-2-2-39参照)
実施場所	リビング等の共用スペースで教える場合が大半を占めている。(図5-2-2-40参照)
教える人	教える人は母親が中心である。(図5-2-2-36参照)
インターネット補助教材とテキスト教材	家庭では学校と違い、インターネット補助教材をサーバへインストールして使うということがないため、ネット教材のみを使用した割合が 59.3%と非常に高い。テキスト教材と

	の併用は、32.5%に留まり、テキストを使わずに子どもとコンピュータの画面を見ながら学習を進めて行くという利用方法が主流のようである。(図5-2-2-41参照)
他の教材の利用状況	家庭では、育成プログラムの教材のみを利用するケースが 94.3%を占めた。この分野の教育に関して保護者が家庭で使えるツールや情報が不足しているか、積極的に求められる段階まで至っていない可能性がある。(図5-2-2-42参照)
学習効果／継続利用	効果があったとした保護者は69.9%で、教員(88.9%)よりも20ポイントほど低い。(図5-2-2-43参照) 教える対象年齢が学校より低めであることや、テキスト教材との併用が少ないことから、教材を効果的に使えていない可能性も否定できない。また、今後も利用したいとした保護者は 58.5%と半数以上を占めた(図5-2-2-44参照)ものの、教員より低い数値である。これは、保護者が教える対象は自分の子どもに限られるため、一度学習すれば十分という意味もあるものと推察する。
紹介	保護者のうち、44.7%が他の保護者に、17.9%が学校(教員)に紹介した、または紹介したいと考えている。(図5-2-2-45参照)
子どもの取り組む様子	「楽しそうに何度も試していた」と、「最後まで飽きずにやった」をあわせると 69.3%となり、ある程度は子どもを引きつけて学習させることができている。(図5-2-2-46参照)ただし、最後まで関心が続かない場合も3割程度存在する。要因としては、家庭では教える対象として小学校 4 年生以下が約半数を占めていること、テキスト教材との併用率が低いこと、指導側にも興味を持続させるスキルが求められること、などが考えられる。

今回の調査では、直接、保護者側に育成プログラムを利用してもらい、その利用状況を調査している。従って、回答者は、ICT メディアリテラシー育成に対して意識の高い人が対象となっている可能性が高い。それらを考慮しつつ、保護者の利用状況をみていく。

家庭での典型的な利用パターンは以下の通りである。

- ・リビングで親が教え、インターネット補助教材のみを使って教えている。
- ・学校と同様に、「インターネットで調べよう!」、「わくわく! ハラハラ? インターネット」、「メールでけんか! どうする?」の3テーマが多く選択されているが、学校と異なって「ケータイを持って街へ出かけよう!」も、かなり多く選択されている。
- ・低学年は平日の午後や夜に教え、学年があがるのに伴い、土日の比率が上がってくる。

学習テーマの選択数は、学校よりも 0.5 テーマ多いが、これは集団に対して教える学校と異なり、家庭では、基本的に自分の子どもだけが対象となるため、比較的複数のテーマに取り組みやすいものと思われる。また、家庭では、インターネット補助教材のみを利用して教えることが多いが、これは、テキスト教材を印刷することに負担感があるとも推察される。

学習テーマの選択としては、学校と異なって「ケータイを持って街へ出かけよう!」が半数近く選択されている。特に母親が教える場合は、「ケータイを持って街へ出かけよう!」を選択するケースが父親が教えるケースに比

べると多いことから、携帯電話のマナーやルールに関して、特に子どもに教えたいと思っていることが推察される。また、本テーマは、ストーリー形式で携帯電話の利用に関する事例を体験できることから、比較的扱いやすい教材であることも利用が多かった一つの理由と考えられる。

子ども用の携帯電話を既に持っている家庭では、「ケータイを持って街へ出かけよう！」よりも「メールでけんか！どうする？」を選択する傾向にある。携帯電話の一般的なマナーやルールに関してはすでに教えてあり、メールでのコミュニケーションについて教える際に、本テーマが活用されたと推察される。

教える時間帯として、平日の午後から夜にかけての時間帯に着目すると、小学校 4 年生以下では半数を超えるが、小学校 5 年生、6 年生、中学校 1 年生以上と学年があがるにつれて、半数を下回っている。高学年では、学校での授業時数が増えたり、塾に通ったりすることで帰宅時間が遅くなり、平日の午後から夜にかけて教えることが減ったのではないかと考えられる。

育成プログラムはパソコンで利用するものとしているが、特に家庭においては、携帯電話に対する意識が高く携帯電話で利用できる教材のニーズが高まる可能性がある。例えば、子どもが携帯電話を初めて使うときは、携帯電話のコンテンツとして育成プログラムのような入門用の情報モラル・リテラシー学習機能が自動的に起動することを義務付けるなど、官民一体となった取り組みがあれば効果的であろう。

今回の調査結果を見ると、育成プログラムについて、多くの保護者も学習効果を認めており、子どもの ICT メディアリテラシー育成には、一定の学習成果が出ているものと評価されている。ただし、今回は ICT メディアリテラシー育成に意識の高い保護者が利用している可能性が高いため、今後、それ以外の一般的な保護者にいかに育成プログラムを使ってもらうかが課題になるとと思われる。

5-3. 育成プログラムの課題等の整理と対策等のまとめ

5-3-1. 育成プログラムの課題等の分類・整理

育成プログラムの利用状況調査の結果から、育成プログラムに対する課題について、前項でも記述したように、以下の4つに分類する。

- (1) 育成プログラムの内容やインターフェースの改良
- (2) 育成プログラムの実施場所や形態、サーバ等の環境面
- (3) 育成プログラム研修や授業のカリキュラム化などの制度面
- (4) 新規学習テーマ、他の学年に向けた新しい育成プログラムの要求

(1) 育成プログラムの内容やインターフェースの改良

育成プログラムの内容やインターフェースの改良については、「内容」と「インターフェース、機能」の2つの観点から論じる。

内容についての要望・意見は教員によるものが多い、使い勝手を左右するインターフェースや機能についての要望・意見は保護者によるものが多い。内容をみていくと、教員・保護者ともに「実際のトラブルや事件の例を増やして欲しい」という意見がある。また、教員の方では、携帯電話やメール等の内容についてさらに深掘りして欲しいという意見もでており、レベルに応じた教材の整備も検討課題として考えられる。保護者では、選択肢や分岐をふやして、子どもが飽きないような工夫をもとめている声もある。

インターフェースや機能に関する意見については、教員・保護者ともに「音声、BGM の付加」があげられており、音声での解説や効果音、BGM 等で、子どもをよりひきつける仕組みへの要望が高い。保護者では、「小学校4年生以下」のグループを中心に、「画面上でのヘルプ機能」、「ふりがな」、「検索の自由度」、「クリック場所の明確化」、「タイマー機能」等、インターネット補助教材の使い勝手の向上がポイントとなっている要求が高い。特に、「画面上のヘルプ機能」や「クリック場所の明確化」については、保護者の約 60%がテキスト教材を使わずにインターネット補助教材のみで育成プログラムを実施していることから、保護者向けには、ある程度、ネットで完結する視点も改良時に必要になると思われる。ただし、これらの要望の多くが、「小学校4年生以下」のグループであがっているため、低学年向けの教材を製作する場合に特に考慮すべき点と考える。

(2) 育成プログラムの実施場所や形態、サーバ等の環境面

教員では、サーバへのインストールを行ったのは約 23.3%であった(5.2.2.6参照)。アンケートの自由記述で聞いた育成プログラムへの要望・意見で、インストールの困難さに言及したものがいくつかあったこと、また、ヘルプデスクに対しても、インストールの仕方に関する教員からの問合せが多かったこともあわせて考えると、今後、インストール・セットアップの簡便化が、学校への育成プログラムの普及のための重要な要素になると思われる。

保護者では、育成プログラムのインストールは行わず、大半が公式サイト上の ICT シミュレーターを利用している。家庭ではサーバを用意することは困難になるため、家庭への育成プログラムの普及を進めるためには、インターネット補助教材をダウンロードして各家庭のコンピュータ(ローカル環境)で利用できる仕組みか、公式サイト上の設備増強(複数のインターネットサーバ等への負荷分散など)を検討する必要があると思われる。

(3) 育成プログラム研修や授業のカリキュラム化などの制度面

制度面では、教員研修のさらなる強化や、テキスト教材の継続的な提供の要望が多く、アンケートの要望・意見として記述されていたほか、普及活動の段階で、テキスト教材の配布希望が多かった。教員研修や他の教員への紹介については、多くの教員が前向きであることから、ICT メディアリテラシー育成に関して、教員間での授業スキルと意識の共有が必要と考えられていると思われる。また、育成プログラムを今後も使いたいという教員が多いことから、テキスト教材が継続的に供給されることも、学校で安心して ICT メディアリテラシー育成に取り組むためのベースになると考えられる。

(4) 新規学習テーマ、他の学年に向けた新しい育成プログラムの要求

今後はプロフや学校裏サイトなど、インターネット利用の進化により登場し、さらにいじめ問題とも関係しているメディアを学習テーマとして取り上げてほしいとの要望・意見が多い。

今回の育成プログラムは小学校 5 年生、6 年生を主たる対象としているが、より低学年向け、およびより高学年(中高生)向けの教材の整備が求められている。つまり、ICT メディアリテラシー育成に向けて、学年に応じたレベルやテーマを選定できるよう、教材に広がりを持たせられるよう検討する必要があると考えられる。

5-3-2. 課題等のまとめと対策

今回の利用状況調査、特に「要望・意見」のまとめと、それから導かれる育成プログラムの課題や今後のポイントは、図 5-3-2-1 のようにまとめられる。

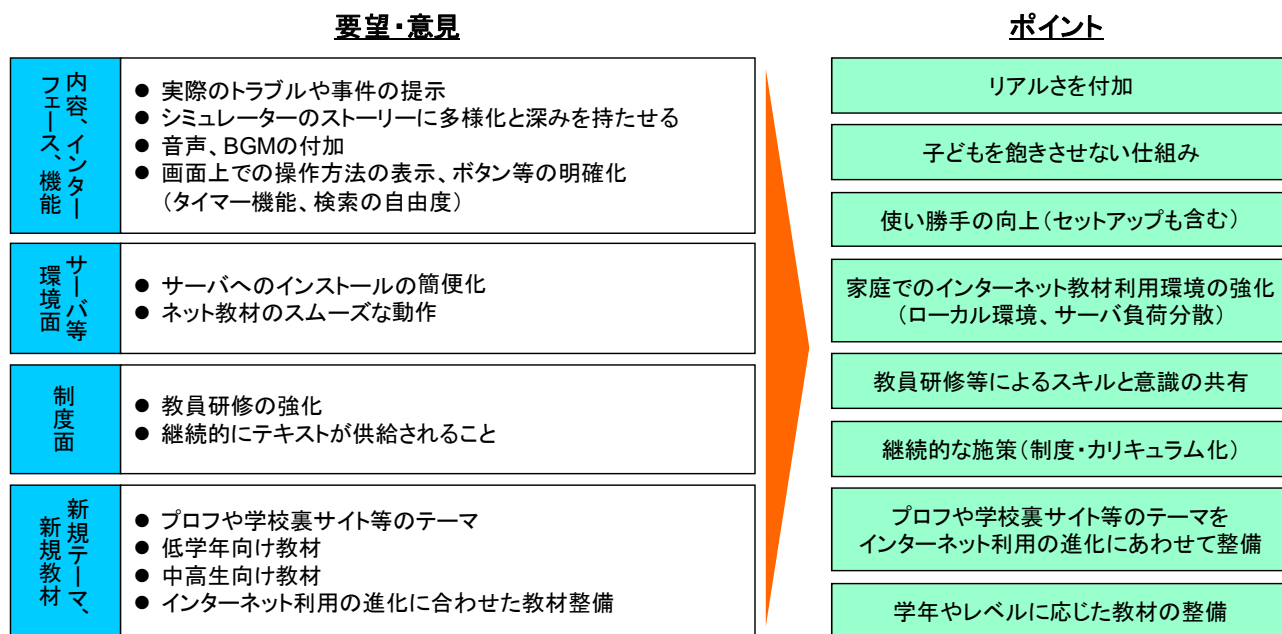


図 5-3-2-1 要望・意見のまとめと今後のポイント

図中の「ポイント」は、さらに以下のように整理される。

(1) 育成プログラムの改良に関わるポイント

- リアルさの付加： 具体的なトラブルや事件等の例示の増加等
- 子どもを飽きさせない仕組み： 音声・BGM 等の付加等
- 使い勝手の向上(セットアップも含む)： サーバへのインストールの簡便化等
- プロフや学校裏サイト等のテーマをインターネット利用の進化にあわせて整備： 特に子どもたちと関係の深い新規テーマの取り扱い等
- 学年やレベルに応じた教材の整備： 低学年向け、中高生向けといった学年別のバリエーションのある教材開発や、画面上でのわかりやすさなど対象のレベルに応じた使い勝手の追求等

(2) 育成プログラムの改良にとどまらない、より一般的なポイント

- 家庭でのインターネット教材利用環境の強化(ローカル環境、サーバ負荷分散)： 家庭のインターネット環境の高速化等
- 教員研修等による教員のスキルと意識の共有： 教員への研修強化等
- 継続的な施策(制度・カリキュラム化)： 育成プログラムの継続的な提供の仕組みづくり等

上記の様々な課題・ポイントを普及・改良事業実施委員会で検討した結果、普及促進に役立つ改良を最優先することとし、上記(1)のうち、「使い勝手の向上(セットアップも含む)」の観点から育成プログラムを改良した。5-4. にてその詳細を述べる。(1)の残り、および(2)については、ここに課題として抽出し提示するにとどめるが、これらの課題を念頭に置いた提案を6. にて述べる。

5-4. 育成プログラム等の改良

5-4-1. 育成プログラムの改良方針と課題

平成 19 年度事業にあたっては、育成プログラムの全テーマにわたっての教育効果検証が行われ、それに基づく育成プログラムの改修がなされている。平成 20 年度の育成プログラムの改良にあたっては、利用状況調査および普及支援活動から得られた知見をもとに、普及・改良事業実施委員会で検討した。その結果、特に「普及促進に役立つ改良」という観点を最優先し、より利用者にとって導入しやすい、使い勝手の良い教材にするための改良を目指した。これは、5-3. における「使い勝手の向上(セットアップも含む)」というポイントに沿う、以下の課題への対応となる。

(1) 公式サイトでのユーザーID およびパスワード入力の手間

平成 19 年度事業にて公式サイトを公開して以来、ユーザーID とパスワードの入力の手間により、ICT シミュレーターへのアクセス数が伸び悩んでいることが報告されていた。そのため、ユーザーID とパスワード入力の手間を軽減するためのプログラム改良が必要と判断した。

この課題への対策について、5-4-2. で述べる。

(2) ローカルサーバ構築における育成プログラムインストールの困難さ

育成プログラムは、公式サイトにおいて体験することが可能であるが、本来は育成を行う団体、教育委員会や学校のサーバにインストールしてイントラネットの中で使用する仕様になっており、特にブログ・メール・掲示板シミュレーターのように、学習者が個々にユーザーID とパスワードを持ち、コミュニケーションするシミュレーターについては、サーバへのインストールが必須である。しかしながら、実際の普及の過程では、インストールは事務局より提供されたインストール用 CD を用いて利用者が行うこととなっていたこともあり、その困難さが指摘されていた。このことより、プログラムのインストールの負担を軽減するためのプログラム改良が必要と判断した。

この課題への対策について、5-4-3. で述べる。

(3) 教えるのに時間がかかりすぎるテーマ

育成プログラムのテーマ 1「インターネットで調べよう！」およびテーマ 3「学校のステキを伝えよう！」は、それぞれ授業を行うのに 3 セッション(計 135 分)が必要である。これだけの授業時間を確保するのは困難な場合も多く、例えば小学校では、平成 23 年度より実施される学習指導要領の下で、外国語活動が始まったり、育成プログラムが現在最も利用されている総合的な学習の時間枠が減少したりすると、時間確保はますます困難になると予想される。したがって、テーマ 1 および 3 それぞれを 1 セッション(45 分)で完結するためのプログラム改良が必要と判断した。

この課題への対策について、5-4-4. で述べる。

(4) 解説コンテンツの不足

インターネット補助教材の「解説コンテンツ」は、指導者が子どもたちに大型画面で提示しながら授業を進めるためのものであるが、この中に、各時間の「まとめ」、および、3 セッションからなるテーマについては、セッション

間の「区切り」にあたるようなコンテンツが欠如しているとの指摘があった。そのため、授業のまとめや区切りとなるコンテンツの製作が必要であると判断した。

この課題への対策について、5-4-4. で述べる。

5-4-2. 公式サイトの改良

ここでは、公式サイトの改良について記述する。

まず、公式サイトの ICT シミュレーターのログイン画面を、図 5-4-2-1 のように改良した。

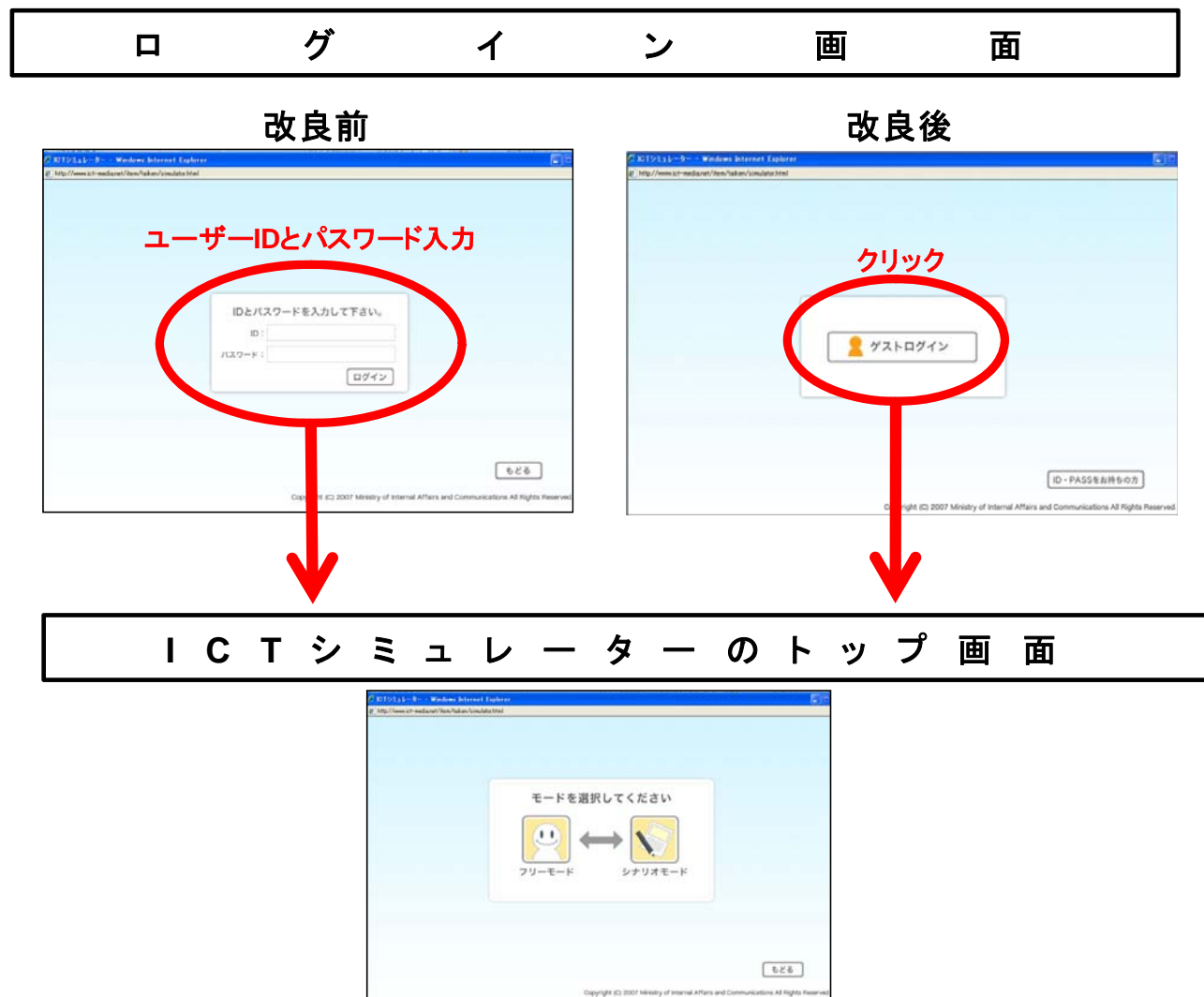


図 5-4-2-1 公式サイトの ICT シミュレーターのログイン画面 (左上が改良前、右上が改良後) と ICT シミュレーターのトップ画面 (改良前後で共通)

改良前のユーザーIDとパスワードの入力かわりに、「ゲストログイン」ボタンをクリックするだけで ICT シミュレーターのトップ画面に移動できるように改良した。これにより、ユーザーID とパスワード入力の手間を省くことができた。また、ユーザーID やパスワードの入力を体験したい(あるいは子どもたちにさせたい)利用者に対しては、従来と同様のログイン画面にも誘導できるよう、改良したログイン画面の右下隅に「ID・PASS をお持ちの方」ボタンを準備し、改良前のログイン画面にも移動できるようにした。

また、これまでは、ログインしなければ ICT シミュレーターを見ることができなかったので、公式サイトトップページを訪れるだけで ICT シミュレーターを含め育成プログラムの全体イメージがわかるように、公式サイトトップページに、Flash による育成プログラムの概要を紹介するための動画を製作・公開した(図 5-4-2-2)。



図 5-4-2-2 公式サイトトップページの育成プログラム紹介動画の画面遷移イメージ

5-4-3. インストール用 CD の改良

インターネット補助教材をサーバにインストールするには、インストール用 CD を用いるが、そのインストールの困難さを解決するため、KNOPPIX をもとに、育成プログラムを CD から起動可能(ブータブル;bootable)なシステム(以下、「ブータブル CD」とよぶ)を製作した。これによって、簡単にインターネット補助教材利用環境を構築することが可能になる。KNOPPIX とは、1 枚の CD-ROM または DVD-ROM から起動することができるシステムであり、これを使えば、ハードディスクに OS をインストールする必要がなく、ハードディスクに変更を加えずに様々なコマンドやアプリケーションを使うことができるという特徴がある。なお、インストール用 CD も、従来通り利用することが可能である。

5-4-4. インターネット補助教材およびテキスト教材の改良

テキスト教材に新しい指導案を追加し、インターネット補助教材にも新たなコンテンツを追加した。

これらの新しい指導案や解説コンテンツについては、「教材改良協力グループ」(「3. 実施体制」参照)の協力を受けて製作した。本グループのメンバーは全員、ICT メディアリテラシーに関する様々な調査・研究活動を行った実績を持ち、特に平成 18 年度総務省事業「ユビキタスネット時代における新たな ICT メディアリテラシー育成手法の調査・開発」において、育成プログラムのテーマ設定から指導案作成、シナリオ作成にまで関わっており、教材の改良を行うのに最も適したグループである。

(1) テキスト教材に新しい指導案を追加

本来 3 セッション(135 分)で指導することになっていた 2 つのテーマ「インターネットで調べよう！」(テーマ1)と「学校のステキを伝えよう！」(テーマ3)について、それぞれ 1 セッション(45 分)で指導するための指導案(ショートバージョン)を製作し、追加した(添付資料 10 参照)。

(2) インターネット補助教材に新しい解説コンテンツを追加

ショートバージョンの指導案に対応し、テーマ 1 と 3 とをそれぞれ 1 セッションで指導するための解説コンテンツを 4 種類、並びに既存の指導案によるセッション毎の区切りおよびまとめに相当する解説コンテンツを 10 種類を新たに製作し、追加した。表 5-4-4-1 に、新たに製作した解説コンテンツの一覧、図 5-4-4-1 にサンプル画面の一例をそれぞれ示す。画面の一覧は添付資料 11 に掲載した。

表 5-4-4-1 新たに製作した解説コンテンツ一覧

テーマ	解説コンテンツタイトル
指導案(ショートバージョン)に対応する解説コンテンツ	
1「インターネットで調べよう！」	「情報を上手に見つけるコツ」
3「学校のステキを伝えよう！」	「相手がいることを意識して」
	「他の人が撮(と)った写真には・・・」
	「他の人が撮(と)った写真を使いたいときは・・・」

セッションのまとめや区切りになる解説コンテンツ	
1「インターネットで調べよう！」	「インターネットで検索(けんさく)してみよう！」
	「土星の輪について調べてまとめよう！」
	「まとめたことを伝えよう！」
2「わくわく！ハラハラ？インターネット」	「インターネットは便利なもの！」
	「インターネットには危険もいっぱい。」
3「学校のステキを伝えよう！」	「デジタルカメラで写真を撮(と)ろう！」
	「ブログを使って伝えよう！」
	「ブログでコミュニケーションしよう！」
4「メールでけんか！どうする？」	「メールの落とし穴」
5「ケータイを持って街へ出かけよう！」	「何気なくつかっているケータイの使い方をふり返ろう」



Copyright (C) 2009 Ministry of Internal Affairs and Communications All Rights Reserved.

図 5-4-4-1 新たに製作した解説コンテンツのサンプル 1 例
(「インターネットで調べよう！ショートバージョン◆情報を上手に見つけるコツ」)

6. 総括および今後への提案

5. まいで述べてきた本年度事業内容について、平成 18 年度からの流れもあわせてまとめると、以下のようになる。

平成 18 年度事業においては、小学校 5 年生、6 年生の ICT メディアリテラシー育成手法の調査研究が行われた。その結果、小学校 5 年生、6 年生に必要な ICT メディアリテラシー学習項目が策定され、それに基づく育成プログラムが開発された。その教育効果の検証と、普及促進の仕掛けづくりが次年度事業へ引き継がれた（平成 18 年度総務省事業「ユビキタスネット時代における新たな ICT メディアリテラシー育成手法の調査・開発」報告書参照）。

平成 19 年度事業では、学校現場での授業実践等を通じた育成プログラムの教育効果の検証とともに、公式サイト構築をはじめとして普及活動が開始された。その結果、育成プログラムが、小学校 5 年生、6 年生を対象とした授業で利用することによって ICT メディアリテラシーの育成に高い効果をあげることが検証されたが、さらなる普及促進のための育成プログラムの利用状況調査、およびウェブ上での利用を念頭に置いたプログラムの改良（例えば公式サイト上の ICT シミュレータートップページの ID およびパスワード入力を省略すること）が課題となった（平成 19 年度総務省事業「ICT メディアリテラシー育成プログラムの普及・検証に関する調査研究」報告書参照）。

本年度事業は、それらの課題を考慮しながら、効果的な育成プログラムの普及支援を行い、その過程で得た成果を育成プログラムに反映させることを目的とするものであった。

育成プログラムの普及支援として、平成 19 年度から継続して公式サイトを運営し、テキスト教材を 10,000 部以上配布した。また、研修会やイベントの開催、リーフレットやダイレクトメールの送付、新聞記事掲載、ウェブサイトを用いた広報を行った。その結果、公式サイトへのヒット数や訪問者数は昨年度に比べて大きく伸び、多くの人に育成プログラムを体験してもらえた結果となった。体験者によると思われる様々な他のウェブサイトへの公式サイトへのリンクや、コメント掲載も多数なされている。また、このような普及活動の過程や結果から得られた知見をもとに、Q&A の更新を行った。

また、利用者からの総数 517 件のアンケートデータを取得し、それらを分析した。その結果、学校では、学級担任が、小学校 5 年生、6 年生を対象に、コンピュータ教室等で「インターネットで調べよう！」「わくわく！ハラハラ？インターネット」「メールでけんか！どうする？」の 3 つのテーマを中心に、テキスト教材とインターネット補助教材を併用して授業を行っていることがわかった。家庭では、リビングで親が教え、ネット教材のみを使って教えている、携帯電話に関しても教えたいという意識を持っている、低学年に対しては平日の午後や夜に教え、学年があがるにつれて土日の比率が上がってくる、ということがわかった。

利用者の要望・意見から、育成プログラムの改良について、課題等を整理した。セットアップを含んだ使い勝手の向上といった、本年度の改良に直接関係するものや、インターネットの利用の進化にあわせた教材の追加といったもの、また、教員のスキルと意識の向上といった、教材の枠組みを超えた課題等を抽出することができた。

上記事業の成果をもとに、育成プログラムのさらなる普及に資するよう改良ポイントを絞り込み、改良を行った。まず、公式サイトでは、ログインの簡便化を図ると同時に、教材の全体イメージを伝えるための動画を掲載した。

また、従来のインストール用 CD に加えて、育成プログラムを CD-ROM から起動可能なブータブル CD を開発した。さらに、インターネット補助教材では、各セッションのまとめに相当する解説コンテンツを 10 種類追加した。加えて、限られた時間の中で指導しやすいようテキスト教材(ティーチャーズガイド)に、ショートバージョンの指導案 2 種類を追加し、これに対応する解説コンテンツ 4 種類を製作した。

以上のように、効果的な育成プログラムの普及支援と、その過程で得た成果の育成プログラムへの反映について、本事業の目的に沿って実施した。

最後に、本年度事業の実施により得られた育成プログラムの課題や、その他 ICT メディアリテラシーに関わる様々な社会状況等に鑑み、子どもの ICT メディアリテラシー育成のための諸施策について提案し、本報告書を閉じることとする。

(1) ICT メディアリテラシーの現状把握に関するもの

● ICT メディアリテラシー・情報モラル教材総合サイト

本事業の実施過程で、ICT メディアリテラシーに関連する様々なコンテンツの調査を行い、関連コンテンツ、ツールやノウハウが散在している状況であることが判明した。これらを広く有効に活用するためには、有償・無償に関わらずあらゆる関連コンテンツ等の総合(ポータル)サイトを作成することが有効と考えられる。そのためには、総合(ポータル)サイトの運営母体がコンテンツ等の内容を吟味し、用途、対象別等に利用しやすくグルーピングし、常時情報更新を行うことのできる仕組みを構築することが不可欠である。

● 子ども向け携帯電話コンテンツ、サービスに関する規制に関する調査研究

ICT メディアの中でも、特に急速に利用が進展しているのが携帯電話である。その急速な利用の進展に教育現場での対応が追い付いていない面があり、「学校現場への携帯電話持ち込み禁止」などの対応もとられている。本事業による育成プログラムには、携帯電話の利用に関するテーマとして「ケータイを持って街へ出かけよう！」があるが、学習に使用する機器はパーソナルコンピュータである。したがって、子どもの ICT メディアリテラシー育成に関する新たな教材の開発などの事業を計画するに当たっては、携帯電話の子ども向けコンテンツやサービスについての調査は必須である。

そのため、特にその分野に特化し、

- ・海外事例調査
- ・都道府県事例調査
- ・教育関係者・保護者・キャリア各社の参加によるルール作りの事例調査など

を行い、携帯電話の子ども向けのコンテンツやサービスの現状を把握し、今後、どのようなものが求められていくのかを明らかにする必要があると考えられる。

(2) 新しい教材開発に関するもの

● 育成プログラム以外の対象者・テーマに関する ICT メディアリテラシー・情報モラル育成教材の調査・開発

事業実施の過程において得られた育成プログラムについての要望・意見について、「より低学年向け(あるいは高学年向け)の教材を作ってほしい」、「プロフなど、最近子どもたちの間で特にはやっており、かつ問題にな

っているICTメディアについての教材を作してほしい」といったものが多くみられ、育成プログラムとは異なった対象者・テーマの教材に対するニーズがあることが判明した。この点については、5-3-2. に「学年やレベルに応じた教材整備」「プロフや学校裏サイト等のテーマをインターネット利用の進化にあわせて整備」というポイントとしてまとめており、このポイントに沿うものとして、新しい教材開発は検討に値するテーマと考えられる。

一方、例えば財団法人コンピュータ教育開発センターによる「ネット社会の歩き方」<http://www.cec.or.jp/net-walk/>など、ICT メディアリテラシー・情報モラルに関係する教材には既に様々な種類のものが存在する。したがって、新しい教材開発にあたっては、まず、既存の教材にどのようなものがあり、それぞれがどのような特徴があるかを調査し、最適な方法・対象・内容等を抽出した上で開発することが必須となる。

● 携帯型ゲーム機用学習ツールの開発

本事業による育成プログラムは、「一人の指導者が学校の 1 クラス程度の規模の子どもたちに対して、テキスト教材とインターネット補助教材を用いて行うセミナー学習と、その後、個々の家庭で親子で学習を行う」というモデルにのっとり製作されたものである。これに対して、子どもたちが自学自習するための教材製作もまた検討する価値がある。そのための工夫として必須なのは、いわゆる「勉強」「学習」色を消し去って、5-3-2. にも挙げたように「子どもを飽きさせない仕組み」をつくることである。携帯型ゲーム機を使ったゲーム形式の教材は、そのねらいを達するのに適している。事実、学校現場では、携帯型ゲーム機を学習に利用している例がある。また、5-3-2. では「家庭でのインターネット教材利用環境の強化(ローカル環境、サーバ負荷分散)」というポイントを挙げたが、携帯型ゲーム機を用いた教材なら、インターネット教材の利用環境についてそもそも考慮する必要がないという利点もある。

開発する教材の内容としては、

- ・「モラル・マナー編」： 安心・安全にインターネットを使いこなすにはどうするか
- ・「インターネット犯罪編」： インターネット関連の犯罪にはどのようなものがあり、誰が加害者・被害者になっているか等
- ・「インターネット知識編」： 上記のほか、インターネットの利用に関する様々な知識

などが考えられる。

● インターネット犯罪、事故等疑似体験教材

ネットワークを利用した犯罪が増加している。警察庁が発表した「平成 20 年中のサイバー犯罪の検挙状況等について(平成 21 年 2 月)」<http://www.npa.go.jp/cyber/statics/h20/pdf46.pdf>によると、平成 16 年から平成 20 年までの 5 年間で、ネットワーク利用犯罪の検挙件数は、1,884→2,811→3,593→3,918→4,334 件と年々増加している。また、その内訳を見ても、「児童買春及び条例違反」と「出会いサイト規制法違反」の増加率が目立って高い。これらはいずれも子どもたちと関連する可能性の高い項目であり、子どもを取り巻くネットワーク環境は、年々危険性が増しているといえる。実際に、内閣府の「第 5 回情報社会と青少年に関する意識調査について」<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/jouhou5/g.pdf>の中では、たとえば小学校女子では 11.6%の子どもたちがチェーンメールを受け取った経験があるとなっているなど、実際の被害も報告されている。本事業における利用状況調査でも、このような現状を憂慮したと見られる要望・意見は多く、その点は5-3-2. に「リアルさの

付加」というポイントとしてまとめている。

このような状況に鑑み、ネットワーク利用犯罪や事故などの様々なリスクについて、育成プログラムより、さらにリアルさのある内容の教材が必要とされている。そのため、ネットワーク利用犯罪について、利用者の安全を確保しつつ疑似的に体験でき、さらにそれらを解決する手段について試行錯誤できるプログラムをネット上に開設して、個々の判断の過程を簡易診断し、本人や指導者に自動的にフィードバックできる仕組みなどを持った教材の製作を検討してもよい。

- 子どもたちのコミュニケーション訓練の場としての掲示板シミュレーター

外部から匿名の侵入者が入ってこられない「掲示板(BBS)シミュレーター」を作り、子どもたちが安全に、自由な意見交換・コミュニケーションができるような場を設定する。現在の育成プログラムのフリーモードにある「掲示板シミュレーター」機能を拡大し、学級単位くらいで運営できるようにする。ここに教員、保護者やボランティア(中高大生も)が参加し、監視や指導のできる空間をつくるような取組も検討に値する。

(3) その他

- ICT メディアリテラシー関連イベントやコンテスト実施

携帯電話やインターネットなどについては、様々なプロバイダーから各種サービスが提供されているが、実際にそのサービスを様々な応用・発展させて利用しているのは中高生であるとも言われている。たとえば、今の 10 代、特に女子中高生を中心に、独自の携帯電話文化を作っており、「ケータイ小説」や、プロフィールページ「プロフ」、個人サイト「ホームペ」、「リアル」とよばれる「リアルタイム日記」「リアルタイムブログ」などがその例として挙げられる。一方、大人の側は、様々なサービスを提供する立場にある者も含め、その多様さ・意外さに驚かされているというのが現状である。

中高生にはこのような創造力が潜在的に備わっているのだとすれば、そのような力を具現化して集め、イベントやコンテスト(「ケータイ小説コンテスト(仮称)」など)で体系的に評価することを通して、中高生の ICT メディアを活用する能力を育むことは、将来の ICT メディアの発展に寄与するものと考えられる。

- ICT メディアリテラシー検定の実施

教育に関連する資格検定としては、「実用英語技能検定(英検)」や「日本漢字能力検定(漢検)」を筆頭に、様々なものが存在し、得られる資格によっては学校への入学や単位認定、あるいは就職や昇進に有利に働くこともあり、根強い支持を受けている。

このように「資格検定」は日本人になじみのあるものであり、同様のシステムを ICT メディアリテラシーの育成に活かすことは検討に値すると考えられる。例えば、小中高生を対象としたネットマナーや ICT についての知識等に関する資格検定を実施し、合格ランクに応じた等級を設定して「ウェブ検1級(仮称)」「こどもICTはかせ(仮称)」などの認定証を発行したり、ネットで使えるアイテムや認定マークを賦与したりすることなどが挙げられる。さらに高等教育のカリキュラムと連動させることができれば、社会的な仕組みとして認知されるようになり、将来の ICT メディアに関わるリーダーの育成から、国民全体の ICT メディアリテラシーの底上げまでの効果が期待される。

- 子ども向けホスピタリティ育成プログラム(教育シナリオ)の開発

ICTメディアリテラシーにおいては、単にICT機器を操作する能力にとどまらず、インターネットの向こうにいる相手に対する思いやりや気遣いをする能力(ホスピタリティ)が大切である。このような「ホスピタリティ」を身につけるためには、相手の視点・立場で考えてみる事が重要であることから、ロールプレイングを伴う教育プログラム(カリキュラムと教材(テキストやワークシート)、講師向けマニュアル)を開発することは検討に値する。

- 自己肯定、自己発現力育成プログラムの開発

たとえ ICT 機器の操作や情報の受発信についての知識が十分にあっても、発信すべき内容や主張が明確でなければ何にもならない。特に日本は「個人が持論や自己主張を明確に意識し、言語化する」土壌が希薄であると言われる。これは、国内的には「和を尊ぶ」などの意味で肯定的な評価をされることもあるが、今後、ネットワーク等を介してコミュニケーションのグローバル化が一層進むと、一転してマイナスに作用することもありうる。そこで、情報発信する内容や主張を明確にできるような能力を育てるための教材やカリキュラム開発が必要になってくるであろう。

添付資料

- 【添付資料 1】 育成プログラム広報リーフレット(一般用)
(本文5-1-3. (1) 関連)
- 【添付資料 2】 「情報モラル教育セミナー in 大阪」広報リーフレット
(本文5-1-3. (2) および(3)②関連)
- 【添付資料 3】 「情報モラル教育セミナー in 東京」広報リーフレット
(本文5-1-3. (2) および(3)②関連)
- 【添付資料 4】 ウェブサイト「学びの場. com」に掲載した本事業関連記事
「伸ばそう ICT メディアリテラシー ーつながる！わかる！伝える！これがネットだー」
(本文5-1-3. (5) 関連)
- 【添付資料 5】 ウェブサイト「学びの場. com」に掲載した本事業関連記事
「New Education Expo2008 in 東京 現地ルポ ～3 つのテーマで、明日の教育の姿をイメージする～」
(本文5-1-3. (5) 関連)
- 【添付資料 6】 ウェブサイト「学びの場. com」に掲載した本事業関連記事
「メディアリテラシー教育は小学校段階から～携帯電話の光と影を知る～」
(本文5-1-3. (5) 関連)
- 【添付資料 7】 公式サイトに掲載した調査結果
(本文5-1-5. および5-2-2. 関連)
- 【添付資料 8】 「伸ばそう ICT メディアリテラシー」導入通知見本
(本文5-1-5. 関連)
- 【添付資料 9】 利用状況調査・アンケート書式
(本文5-2. 関連)
- 【添付資料 10】 指導案ショートバージョン(ティーチャーズガイドのテーマ 1, 3 に追加)
(本文5-4-4. (1) 関連)
- 【添付資料 11】 新たに製作した解説コンテンツ一覧
(本文5-4-4. (2) 関連)

情報モラル
メディアリテラシー
教材

子どもたちに
ネット・ケータイ
どうやって教えますか？

ネットを安全に利用するための基礎を学ぼう!!

総務省 ICTメディアリテラシー教材

伸ばそう ICTメディアリテラシー

つながる！わかる！伝える！これがネットだ

指導
マニュアル付



ネットから**無料**で**教材**を利用できます!!

<http://www.ict-media.net/>

伸ばそう ICTメディアリテラシー

この教材の概要

「伸ばそうICTメディアリテラシー」は、平成18年度総務省事業によって開発された教材です。子どもたちが安全に安心してインターネットや携帯電話を使用できるよう、ICTメディアリテラシー*を育成するプログラムです。

育成プログラムには、右の5つの学習テーマが設定されています。

育成プログラムは、これらを学習するために、冊子タイプの「テキスト教材」とネット上で使用する「インターネット補助教材」の2つから構成されます。

▶ 1. インターネットで調べよう!

インターネットで効率的に情報を収集する方法や正しい情報を見極める方法、分かりやすい発表の仕方について学びます。

▶ 2. わくわく! ハラハラ? インターネット

インターネットの特性や便利なウェブサービス、迷惑メールへの対応など、インターネットを利用する上で気をつけなければいけないことを学びます。

▶ 3. 学校のステキを伝えよう!

デジカメでの撮影やブログを使っての情報発信、コミュニケーションを体験し、情報を発信、受信する際のルールやマナーを学びます。

▶ 4. メールでけんか! どうする?

メールによるけんかのやりとりを疑似体験することで、メールの仕組みや特性、気持ちよく使うためのルールやマナーを学びます。

▶ 5. ケータイを持って街へ出かけよう!

ケータイを持って街におつかいに出かけるというシチュエーションを疑似体験することで、携帯電話の機能や便利な使い方、ルールやマナーを学びます。

※本事業では、「ICTメディアリテラシー」を「単なるICTメディアの活用・操作能力のみならず、メディアの特性を理解する能力、メディアにおける送り手の意図を読み解く能力、メディアを通じたコミュニケーション能力までを含む概念」と定義しています。

テキスト教材

授業や一般の子ども向けイベントで利用するために「ティーチャーズガイド(指導者用)」「学習テキスト(児童・生徒用)」があります。

また、子どもが、自宅等で家族と一緒に学習内容を振り返るために「家庭学習用ガイドブック(保護者用)」「学習ワークブック(児童・生徒用)」もあります。



学校用

使用場面: 学校の授業等

● ティーチャーズガイド

使用者: 教員 講師

● 学習テキスト

使用者: 児童・生徒



家庭用

使用場面: 家庭での振り返り等

● 家庭学習用ガイドブック

使用者: 保護者

● 学習ワークブック

使用者: 児童・生徒



インターネット補助教材

パソコンで稼働するネット対応型教材で、教材サイト*上に公開されています。

<http://www.ict-media.net/>

教材は、「ICTシミュレーター」と「解説コンテンツ」で構成されており、それぞれの利用マニュアルも用意されています。

※利用者ID、パスワードを必要とする教材があります。

※詳しくは、教材サイトのQ&A等を参照ください。

ICTシミュレーター

各学習テーマ毎に、シナリオに沿って学習を進めていく「シナリオモード」と、用意されたシナリオを使わずに、指導を自由に行える「フリーモード」があります。どちらのモードについても、子どもたちは指導者の管理の下で、ブログやメール、チャットなどのやりとりを安全かつリアルに体験することができます。



解説コンテンツ

各学習テーマの中で取り上げられている内容を解説するためのデジタルコンテンツです。学習内容毎に解説テキストとイラストで構成されています。基本的には、各学習テーマのシナリオに沿ってコンテンツを提示できるようになっていますが、単独の教育素材としても利用できるようになっています。



教材の利用手順

教材サイトにアクセス!!
<http://www.ict-media.net/>

テキスト教材を閲覧
(必要に応じてダウンロード)

インターネット
補助教材を体験

使い方がわかったら
授業で利用

情報モラル教育セミナー

in 大阪

2月10日(火)
開催!

インターネットや携帯電話は最近ますます普及し、子どもたちがこれらのメディアを利用する機会もますます増えています。このような状況の下、皆様におかれましても、子どもたちが安全に、安心してインターネットや携帯電話を利用できるよう、様々な教育方法をご検討されているものと存じます。そこで、今回皆様の実践の一助になればと、主に教育委員会および教育センターの研修担当指導主事の方々を対象に、情報モラル教育セミナーを開催させていただき運びとなりました。識者を招いての講演・実践報告や、最新のICTソリューションは、必ず皆様のお役にたてるものと確信しております。



スケジュール

13:30-	受付開始
14:00-14:05	開会挨拶
14:05-14:50	講演 ネットワーク社会における人権 —はじめよう情報モラル教育— 滋賀大学教育学部教授 教育実践総合センター所長 宮田仁先生
14:50-15:05	休憩
15:05-15:35	実践発表 情報モラル育成実践 —ICTシミュレーターを活用して— 千葉県松戸市立馬橋小学校 教諭 佐和伸明先生
15:40-16:10	ご紹介 総務省情報モラル教材 『伸ばそう ICTメディアリテラシー つながる!わかる!伝える!これがネットだ』のご紹介 (教材詳細は、 http://www.ict-media.net/ をご覧ください) 内田洋行教育総合研究所
16:10-16:15	アンケート記入・閉会挨拶



日時

平成 **21** 年 **2** 月 **10** 日(火)
14:00-16:15 (受付開始 13:30-)

場所

株式会社内田洋行
大阪支店 2F 会議室

参加
対象者

主に教育委員会および
教育センターの研修担当指導主事
(小中高 教員の方も可)

参加費用

無料 定員 60名

主催者

内田洋行教育総合研究所

申込方法

Webにて
(詳細は裏面をご覧ください)

お問合せ

TEL **03-3555-5999**
(2月5日まで) 土日祝のぞく
E-Mail **info@ict-media.net**
内田洋行教育総合研究所
ICTメディアリテラシー普及グループ

お申込み締切

2月5日(木)

※定員になり次第締め切りとなります。

お申込方法

申し込み専用の下記 URL よりお願い致します。

【大阪開催】

お申込専用 URL <http://www.manabinoba.com/index.cfm/4,10761,84,html>

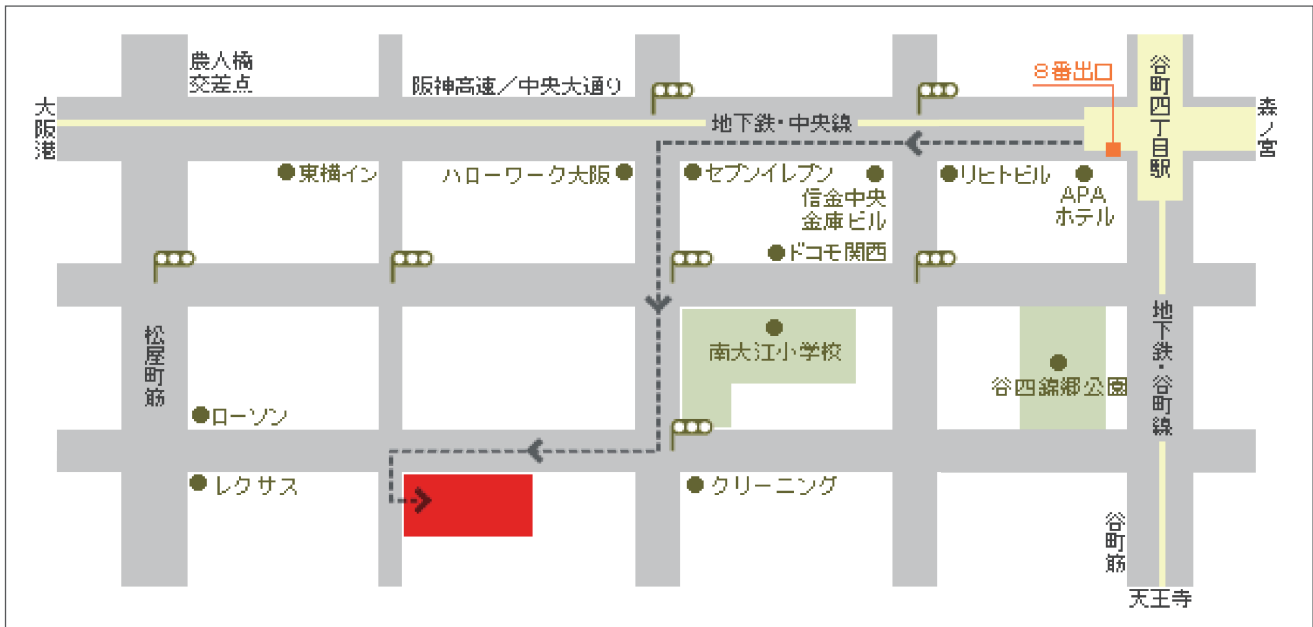
当セミナーの詳細・お申込方法は、当社のWEBサイト「学びの場 .com」
トップページの「イベント情報」からも見るができます

<http://www.manabinoba.com/>

<学びの場 .com トップ画面>



会場へのアクセス



株式会社内田洋行 大阪支店 2F 会議室

〒540-8520 大阪市中央区和泉町 2-2-2

地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目駅」8番出口より徒歩8分

※お車でのご来館はご遠慮ください。

お問合せ

TEL **03-3555-5999**
(2月5日まで) 土日祝のぞく

E-Mail info@ict-media.net

内田洋行教育総合研究所 ICTメディアリテラシー普及グループ

お申込締切 2月5日(木)まで

※定員になり次第締め切りとなります。

情報モラル教育セミナー

in 東京

2月23日(月)

開催!

インターネットや携帯電話は最近ますます普及し、子どもたちがこれらのメディアを利用する機会もますます増えています。このような状況の下、皆様におかれましても、子どもたちが安全に、安心してインターネットや携帯電話を利用できるよう、様々な教育方法をご検討されているものと存じます。そこで、今回皆様の実践の一助になればと、主に教育委員会および教育センターの研修担当指導主事の方々を対象に、情報モラル教育セミナーを開催させていただき運びとなりました。識者を招いての講演・実践報告や、最新の ICT ソリューションは、必ず皆様のお役にたてるものと確信しております。



スケジュール

13:30-	受付開始
14:00-14:05	開会挨拶
14:05-14:50	講演 ネットワーク社会における人権 —はじめよう情報モラル教育— 滋賀大学教育学部教授 教育実践総合センター所長 宮田仁先生
14:50-15:05	休憩
15:05-15:35	実践発表 情報モラル育成実践 —ICTシミュレーターを活用して— 千葉県松戸市立馬橋小学校 教諭 佐和伸明先生
15:40-16:10	ご紹介 総務省情報モラル教材 『伸ばそう ICT メディアリテラシー つながる!わかる!伝える!これがネットだ』のご紹介 (教材詳細は、 http://www.ict-media.net/ をご覧ください) 内田洋行教育総合研究所
16:10-16:15	アンケート記入・閉会挨拶

日時

平成 **21** 年 **2** 月 **23** 日(月)
14:00-16:15 (受付開始 13:30-)

場所

株式会社内田洋行 新川オフィス
B1F ユビキタス協創広場 CANVAS

参加
対象者

主に教育委員会および
教育センターの研修担当指導主事
(小中高 教員の方も可)

参加費用

無料 定員 60名

主催者

内田洋行教育総合研究所

申込方法

Webにて
(詳細は裏面をご覧ください)

お問合せ

TEL **03-3555-5999**
(2月19日まで) 土日祝のぞく
E-Mail info@ict-media.net
内田洋行教育総合研究所
ICTメディアリテラシー普及グループ

お申込み締切

2月19日(木)

※定員になり次第締め切りとなります。

お申込方法

申し込み専用の下記 URL よりお願い致します。

【東京開催】

お申込専用 URL <http://www.manabinoba.com/index.cfm/4,10762,84,html>

当セミナーの詳細・お申込方法は、当社のWEBサイト「学びの場 .com」

トップページの「イベント情報」からも見る您可以通过

<http://www.manabinoba.com/>

<学びの場 .com トップ画面>



会場へのアクセス



株式会社内田洋行 新川オフィス B1F ユビキタス協創広場 CANVAS

〒104-8282 東京都中央区新川2-4-7

東京メトロ 日比谷線「八丁堀駅」下車、「A4」出口より徒歩4分

東京メトロ 日比谷線・東西線「茅場町駅」下車、「1番」出口より徒歩5分

JR京葉線「八丁堀駅」下車、「B1」出口より徒歩5分

※お車でのご来館はご遠慮ください。

お問合せ

TEL 03-3555-5999

E-Mail info@ict-media.net

(2月19日まで) 土日祝のぞく

内田洋行教育総合研究所 ICTメディアリテラシー普及グループ

お申込締切 2月19日(木)まで ※定員になり次第締め切りとなります。

教育News

情報ファイル

授業のヒント

教育なるほど講座

教育アイテム通信

- ・ 教材大研究
- ・ グッズ&プロジェクト

NEW EDUCATION EXPO

学びの場掲示板

学びの場リサーチ



推奨ブラウザ
Internet Explorer 6 以上
Firefox 1.5 以上

RSS
RSSを登録

TOP > 教育アイテム通信 > 教材大研究

教材大研究

総務省 ICTメディアリテラシー教材

伸ばそうICTメディアリテラシー
つながる! わかる! 伝える! これがネットだ!

子どもたちに
ネット・ケータイ
どうやって教えますか?

ネットを安全に利用するための基礎を学ぼう!!

「伸ばそうICTメディアリテラシー」は、総務省事業によって開発された情報モラル教材です。子どもたちが安全に安心してインターネットや携帯電話を使用できるよう、ICTメディアリテラシーを育成するプログラムになっています。育成プログラムは、右の5つの学習テーマが設定されています。

育成プログラムは、これらを学習するために、冊子タイプの「テキスト教材」とネット上で使用する「インターネット教材」の2つから構成されています。

教材には5つの学習テーマ

1. インターネットで調べよう!
2. わくわく! ハラハラ? インターネット
3. 学校のステキを伝えよう!
4. メールでけんか! どうする?
5. ケータイを持って街へ出かけよう!

テキスト教材

PDFファイルをダウンロードできます

- ティーチャーズガイド** 先生の指導用マニュアル
- 学習テキスト** 授業で児童・生徒が使用することを目的に制作したテキスト
- 家庭学習用ガイドブック** 家庭で親子で学習するための保護者向けガイドブック
- 学習ワークブック** 児童・生徒が自宅でも学習するためのワークブック

インターネット補助教材

(ICTシミュレーター/解説用コンテンツ)

ネット・ケータイ
どうやって教えますか?
<http://www.ict-media.net/>

本事業では、「ICTメディアリテラシー」を「単なるICTメディアの活用・操作能力のみならず、メディアの特性を理解する能力、メディアにおける送り手の意図を読み解く能力、メディアを通じたコミュニケーション能力までを含む概念」と定義しています。本教材は子どもたちの情報モラル育成を目的としてどなたでも無料でお使いいただけます。本事業は、「青少年を有害情報環境から守るための国民運動」の一環として実施しています。

バックナンバー | 2009 | 2008 | 2007 | 2006 | 2005 | 2004 | 2003 |

■ 教室がICT空間に変身! ~先進システムが演出する「わかる授業」(2009/03/11)

教育News

情報ファイル

授業のヒント

教育なるほど講座

教育アイテム通信

- ・ 教材大研究
- ・ グッズ&プロジェクト

NEW EDUCATION EXPO

学びの場掲示板

学びの場リサーチ



推奨ブラウザ
Internet Explorer 6 以上
Firefox 1.5 以上

RSS
RSSを登録

TOP > 教育アイテム通信 > 教材大研究

教材大研究



メディアリテラシー教育は 小学校段階から ～携帯電話の光と影を知る～

携帯電話を利用した犯罪行為などが増える中、子どもたちへのメディアリテラシー教育が必要となってきている。「メディアリテラシー教育は、心が柔らかい小学校段階から始めるのが一番よいと思います」と話す、千葉県松戸市立馬橋小学校の佐和伸明先生の授業実践を取材した。

情報モラル教育実践レポート

携帯電話を見て触って、体験することから学ぶ

テーマ	「体験を通して学ぶ携帯電話の光と影」	教材	・パソコン(1人1台) ・「伸ばそう ICTメディアリテラシー」より「ケータイを持って街へ出かけよう! お使いシミュレーター」ソフト(総務省ICTメディアリテラシー育成プログラム) ・携帯電話(8台)
単元名	「職場体験でケータイを活用しよう!」	授業者	佐和伸明 教諭
対象学年	小学6年生		
ねらい	・携帯電話の利用に関するルールやマナーを理解する。 ・携帯電話の基本的な機能や操作方法について理解する。		

ケータイではどんなことができる?

「“ケータイ”って何だか知ってる?」「電話!」「いろんな機能がついてる」「持ち運べる」「メールもできるよ」……。
佐和先生の問いかけに、6年3組の子どもたちが次々と答えていく。

この日は、総合的な学習の時間を使って「情報モラル教育」が行われた。単元は「職場体験でケータイ

イを活用しよう！」。次週に控えた職場体験授業で、携帯電話を利用するために、使用の際のルールやマナーを理解し、基本的な操作方法を知ることが目的だ。

パソコンルームで始まった授業では、冒頭の質問に続き、子どもたちは、携帯電話はゲーム、メール、QRコードの読み込み、写真撮影機能、テレビなど、多機能を備えていることを先生とのやりとりで確認した。

■ シミュレーターソフトでケータイ擬似体験

次に、こうした多機能を備えた携帯電話を利用する際のマナーやルールを知るため、パソコンのシミュレーターソフトで携帯電話操作の疑似体験をした。このソフトは総務省が無料で提供している**ICTメディアリテラシー育成プログラム**で、検索機能やメール、ブログなど、インターネットや携帯電話の機能、それぞれの上手な利用法やマナーについて5つのテーマに分けて学習できる。



今回はこの中の「ケータイを持って街へ出かけよう！ お使いシミュレーター」を使った。佐和先生から、画面に出てくる文章はきちんと読んでから選択肢を選ぶ、という注意事項を伝えられた後、各自が操作を始めた。

この学習テーマでは、幼稚園へ妹を迎えに行かなくてはならなくなった母親にかわって、僕（私）が本を買いに行く、というストーリーを使い、その過程で携帯電話の使い方にまつわるルールやマナーを学べる仕組みとなっている。「電車に乗るときのモード」「電車内での通話」「雑誌をカメラ機能で撮影」「有名人をカメラ機能で撮影」などの場面があり、それぞれどう行動すればよいかを選択肢から選んでいく。

例えば、電車に乗る前の選択肢は「マナーモードをonにする」「メールを確認する」「何もしない」の3つ。「何もしない」を選択すると、車中でお母さんからの電話に出てしまい、隣のおじさんから「車内では携帯電話で話してはいけないよ」と注意されるなど、きめ細かいシチュエーションが用意されている。

子どもたちは、パソコンの操作と共に、各場面で自分が選択した項目と、なぜその項目を選んだのかの理由をワークシートに記入していった。「マナーモードにする」を選んだ子どもは、理由欄に「迷惑だから」と書いた。それを見た佐和先生は、「誰が迷惑なの？ そこまで細かく書こうね」と、子どもたちがより具体的に場面をイメージできるようアドバイスしていた。



15分ほどで全員の操作が終わると、ワークシートを見ながら、各自が選んだ項目を発表していった。電車に乗る前は、「マナーモードをonにする」を選んだ子どもが大多数。しかし、「メールを確認する」「何もしない」を選んだ子どももいた。佐和先生はそれぞれ理由を聞いていく。



「何もしない」を選んだ子どもは「電話がかかってこない可能性もあるから」と答えた。
「メールをチェックする」を選んだ子どもは「お母さんから連絡が入っているかもしれない」との答え。
わいわいと意見があがる中で、まずここでは、「何もしない」のは駄目、ということを確認し、理由を考えた。

「周りの人が「うるさい」と感じる」「ペースメーカーをつけている人がいるかも」などの答えがあり、結果としては「マナーモードをonにする」が正しいこと、また、電車以外でも精密機械などを扱う場所ではマナーモードにすることを佐和先生のリードで学んでいく。

続いて、デジタル万引きや、有名人の撮影では何が問題なのかを考え、前年度に学んだ、著作権や肖像権のことを思い出しながら、どうすればよいかを考えた。

■ 実物を触って操作を体験



次に、いよいよ実際に携帯電話を使ってみる。クラスを8グループにわけ、1グループ(5~6人)につき、1台の携帯電話が配られた。この携帯電話はウィルコム社から貸し出しされたもので、事前に、使いやすく、また、危険のないようカスタマイズされている。

マナーモードの使い方、電源の切り方、電話のかけ方、カメラの使い方、メール送信の方法などを佐和先生が説明し、子どもたちが実際に操作していった。本物の

携帯電話を手にした子どもたちは嬉しそう。使い方を覚えると、それぞれ順番に操作し、教え合っていた。写真を撮る際は、シミュレーターで学んだことを活かし、「撮ってもいいですか」と聞く練習もしていた。

授業のまとめで佐和先生は「携帯電話の使い方は、特に難しくはありません。使い方よりも大事なことはルールやマナーです。これに気がつけられない人は携帯電話を使ってはいけません」と話し、最後にこう付け加えた。

「ただ一方で、携帯電話はとても便利な道具です。連絡がすぐとれるし、写真機能を使えば簡単に記録もできる。だからみんなには、ルールやマナーを守って、上手に使って欲しいです」。

最後まで先生の目を見て聞いていた子どもたち。次週に控えた職場体験がよりいっそう楽しみになってきた様子だった。



職場体験授業レポート



実地での利用で、正しい使い方を習得

先の授業の翌週、いよいよ職場体験学習が行われた。この日は8グループに分かれ、近隣の職場を訪問。職員の方に取材をし、仕事の内容などをうかがった。各グループに1台携帯電話が渡され、先生との連絡や、写真撮影などに利用した。

この日の訪問先は、幼稚園、保育園、交番など。基本的に先生は同行せず、子どもたちだけで行動する。流山電鉄の馬橋駅を訪問したグループを取材した。



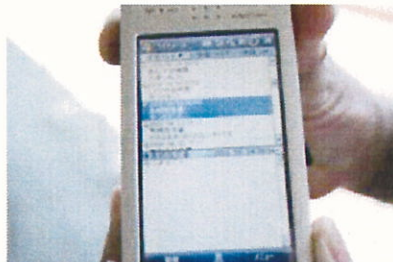
7人のグループのメンバーは、リーダー、ケータイ係、メモ係などそれぞれ役割分担をし、出発。駅に到着すると、佐和先生に連絡メールを入れた。授業で練習したので、操作はスムーズだ。その後、駅員さんに取材をする。

「朝は何をするのです

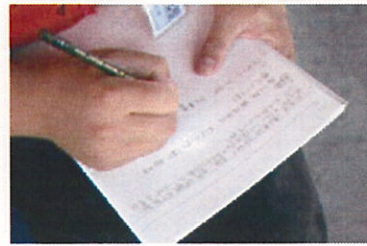
か」「車両は何両ですか」などの質問に、駅員さんが丁寧に答えていく。途中、券売機が1台500万円と聞いて子どもたちはびっくり。その間も、ケータイ係は写真を撮影し、記録のためにも活用していた。終了後は学校へ戻り、ワークシートに聞いてきたことなどをまとめた。



巡回していた佐和先生の携帯へは、すべてのグループから約束通り連絡メールが入った。また、早く終わったグループからワークシートの場所を聞く電話もあり、メール、通話、カメラのどの機能も活用できていたようだ。



ケータイ
系の
児童か
らは、
「すぐに
写真を
撮れた
り、先生



にメールで連絡できて便利だった」「ケータイを持っていたから、自分たちだけで行動していても安心できた」などの感想が聞かれた。前回の授業のシミュレーションと併せて、実際の機械を使ってみることで、ルールやマナーにも気を付けられ、また、その便利さも実感できたようだった。

担当教諭のお話

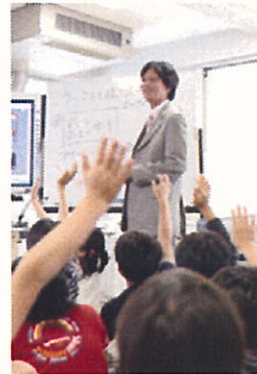


シミュレーションと実体験を組み合わせ、モラル感覚を育てる

小学生の4割が携帯を持つ時代に

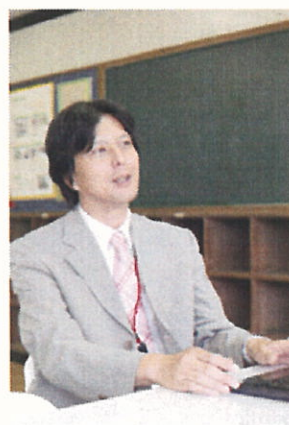
最近は携帯電話を介した犯罪も増えており、子どもたちに携帯電話を持たせないことを推奨する方もいます。ですが、今は地域差こそあれ小学生の約4割、中学生の6~7割が自分専用の携帯電話を持つといわれています。遅かれ早かれ、どの子もいつかはこの機械を持つようになると考えてよいでしょう。

すると、マナーやルールはいつどこで教えるのか、という問題が出てきます。私は小学生のときが一番適していると考えていますが、それは、携帯電話を徐々に触り始める時期であること、また、まだ心が柔らかく、マナーやルールを素直に受け入れられることなどが理由です。そうしたことをふまえて、今回は3回の授業を計画しました。



まず、携帯電話会社主宰のケータイ安全教室で情報モラルの育成を目指し、次に総務省のICTメディアリテラシー育成プログラムを利用してシミュレーションを行い、より具体的にマナー等を学べるようにしました。そして最後に、職場体験学習で実際に携帯電話を使い、マナーやルールを守ると共に、その利便性を実感する機会を持ちました。

活動と結びつけることがポイント



小学生に携帯電話の危険性と利便さを教える際のポイントは、実際の活動と結びつけた内容にすることです。ただ、教材として携帯電話を全員分用意するのは大変です。

そこで役立つのが、パソコンを利用したシミュレーションです。選択肢などを考えながら操作するので、自然とモラル感覚が育っていきますし、シミュレーションであれば失敗も経験できます。

一方、こうしたシミュレーションも、子どもたちに操作させるだけでは、ただのゲームで終わってしまいます。シミュレーターを使って、考え、判断する活動をし、それをワークシートに書き込んで定着させる。そして実際にグループに1台でもいいですから、本物の機械を用意し、触らせることで、実感としてモラル感覚が育つのではないかと思います。

これからの社会では、便利なメディアを上手に使うことが、子どもたちの人生にプラスにはたらくはずですが、学校はとかく、こうしたメディアの「影」の部分のみを教えがちですが、「光」の部分も教えることで、生きていく上で役立つ情報や機器を活用する力を、子どもたちに身に付けさせていければと思

います。



佐和伸明 氏

千葉県松戸市立馬橋小学校教諭。前任校の柏市立旭東小学校より、研究指定校の研究主任として、情報教育の推進に取り組んでいる。

平成15年度より、携帯電話の教育利用に関する研究を進めており、情報モラル教育ついでの実践事例を多数発表している。

取材・文：菅原然子／写真：言美歩 ※写真の無断使用を禁じます。

【佐和教諭 関連記事】New Education Expo in 東京 現地ルポ

学びの場.comの一部のコンテンツは、会員の皆様からのコメントを受け付けています。
ご利用の際は、コメント利用のルールをよくお読みください。詳しくはこちらから。

▶ [この記事へのコメント](#)

[コメント投稿にはログインが必要です](#)

[バックナンバー](#) | [2009](#) | [2008](#) | [2007](#) | [2006](#) | [2005](#) | [2004](#) | [2003](#) |

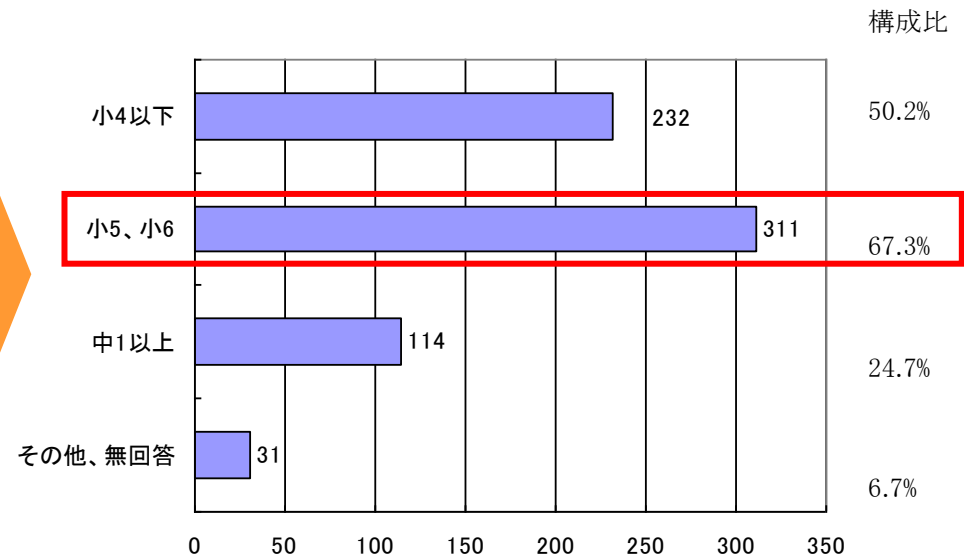
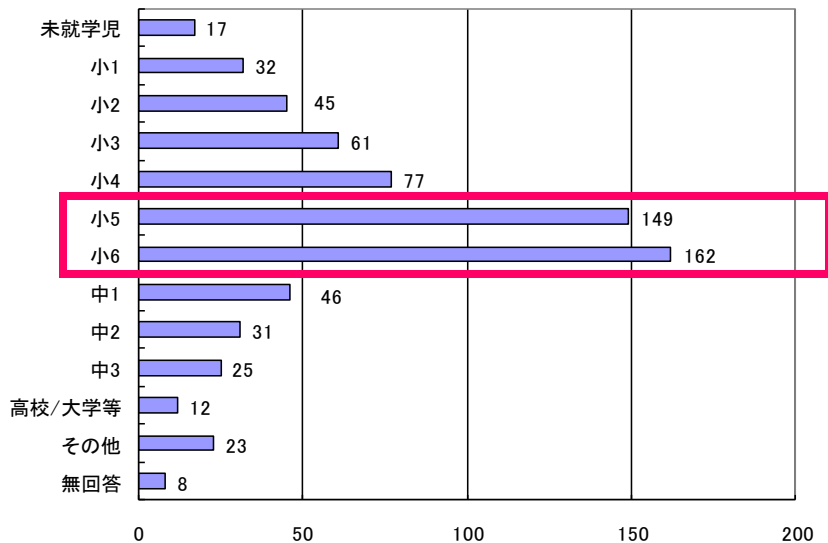
■ [教室がICT空間に変身！～先進システムが演出する「わかる授業」](#) (2009/03/11)

利用状況調査 概要

- ・ 調査対象
教材を利用した教員、保護者
- ・ 調査方法
ウェブアンケート
(一部では用紙を用いたアンケート)
- ・ 調査期間
2008年6月～12月
- ・ サンプル数
教員／学校 (N = 331)
保護者／家庭 (N = 186)

教える対象学年

(図5-2-2-1、図5-2-2-2)

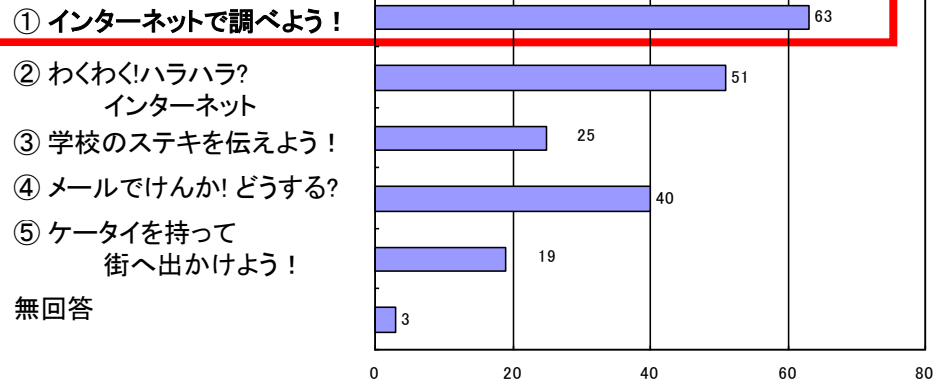


複数回答可
(N=462、有効回答数=688)

教える学習テーマ（学年別）

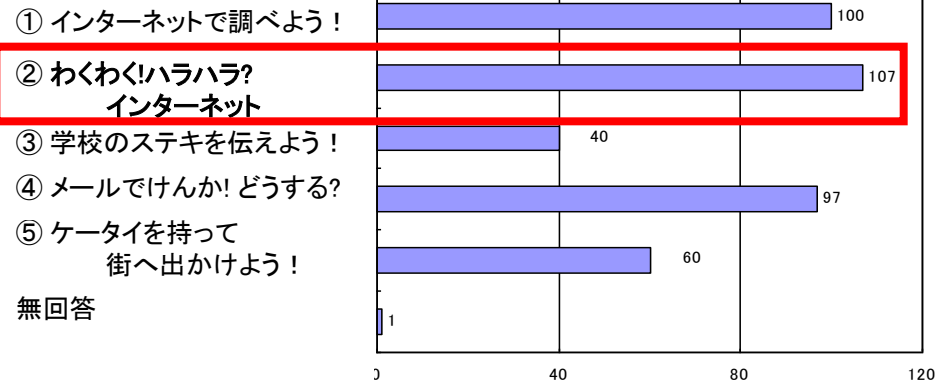
（図5-2-2-8）

小4以下



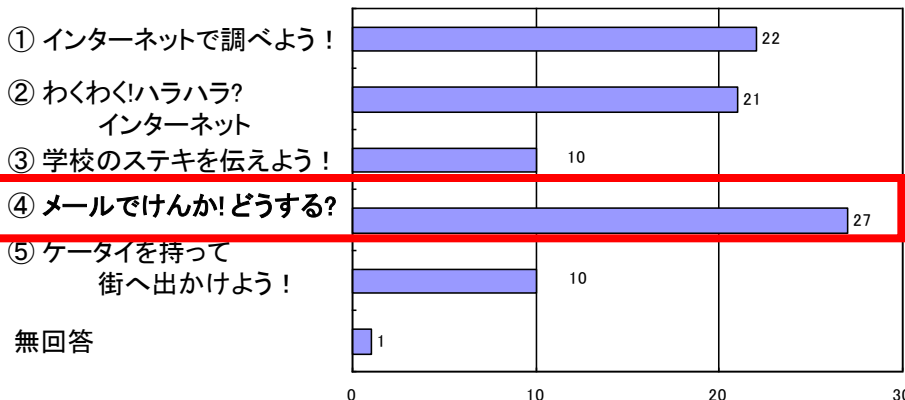
（複数回答可；N=92、有効回答数=201）

小5、小6



（複数回答可；N=160、有効回答数=405）

中1以上

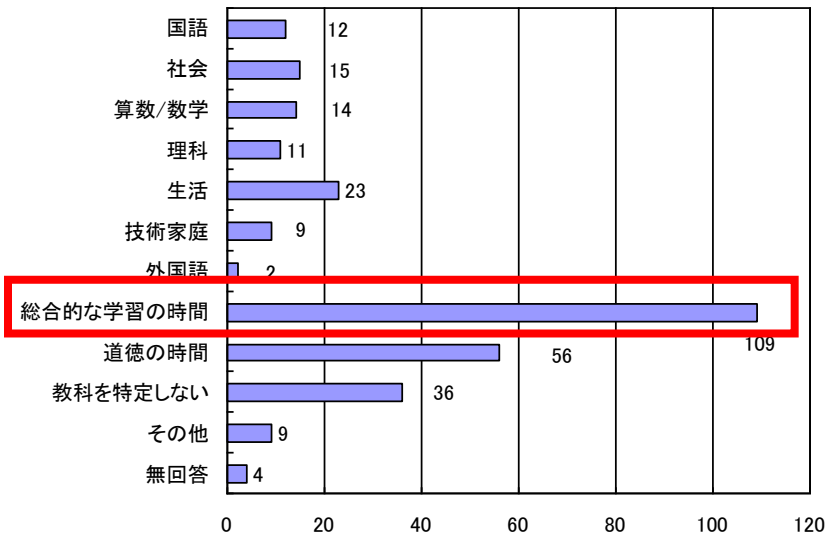


（複数回答可；N=51、有効回答数=91）

授業の状況 1

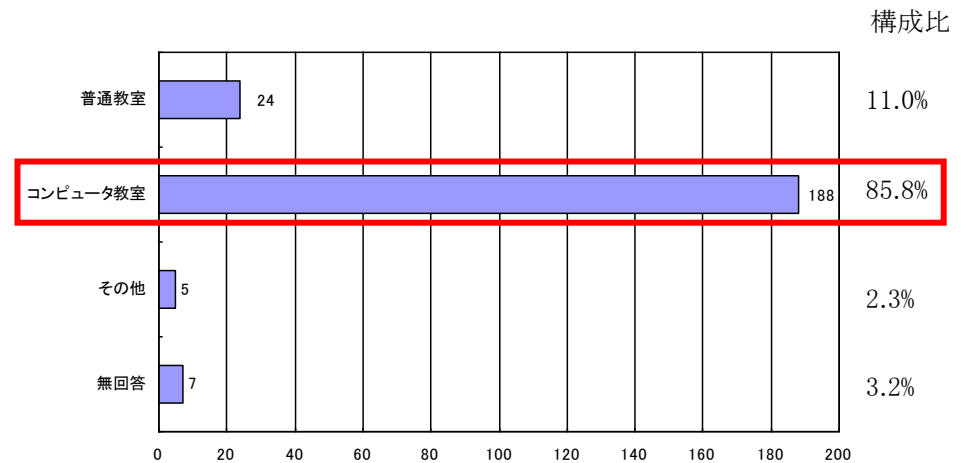
(図5-2-2-23、図5-2-2-25)

■ 実施対象授業



(複数回答可； N=174、有効回答数=300)

■ 実施場所



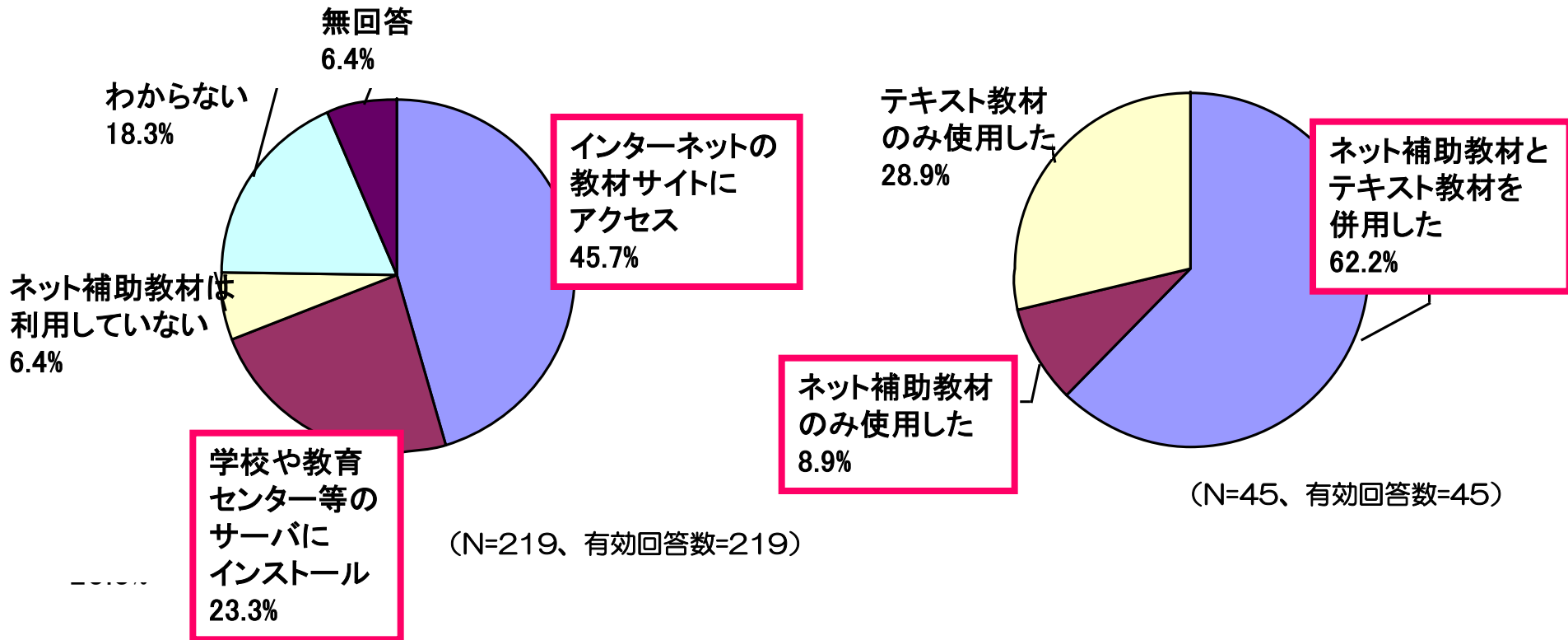
※構成比=選定数÷N値

(複数回答可； N=219、有効回答数=224)

授業の状況2

(図5-2-2-26、図5-2-2-28)

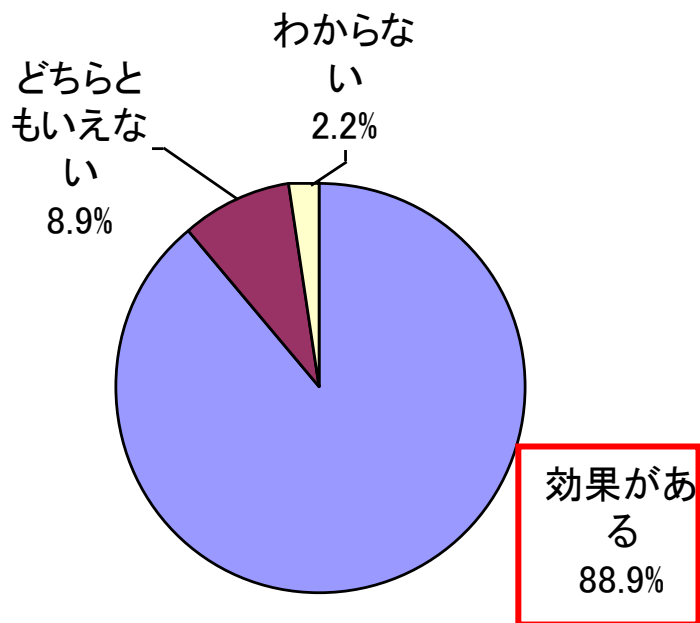
■ 授業実施方法



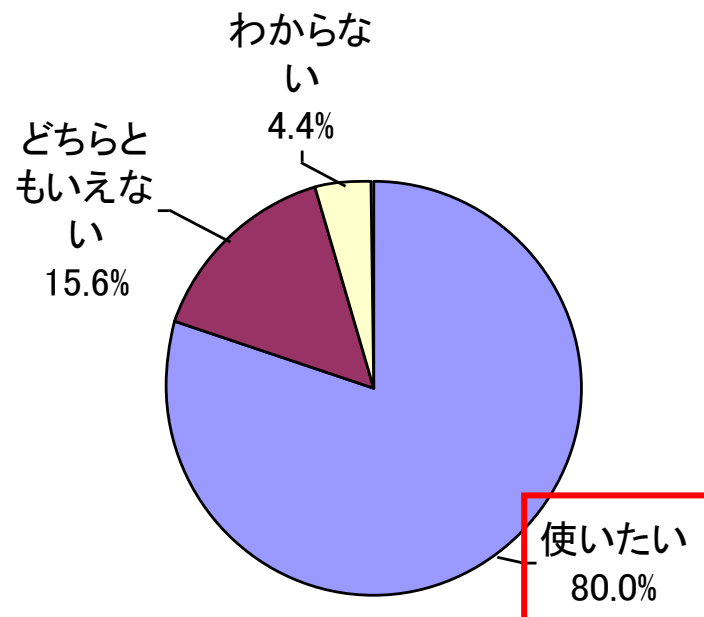
授業の状況3

(図5-2-2-30、図5-2-2-31)

■ 学習効果 (N=45)



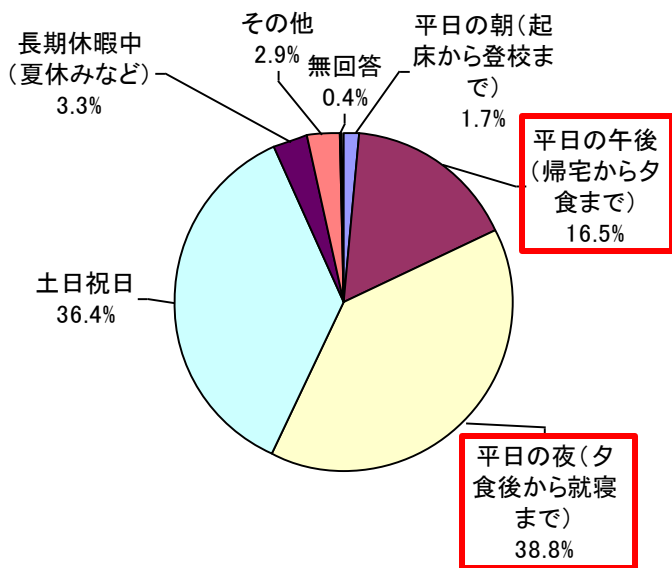
■ 今後の利用 (N=45)



家庭の状況 1

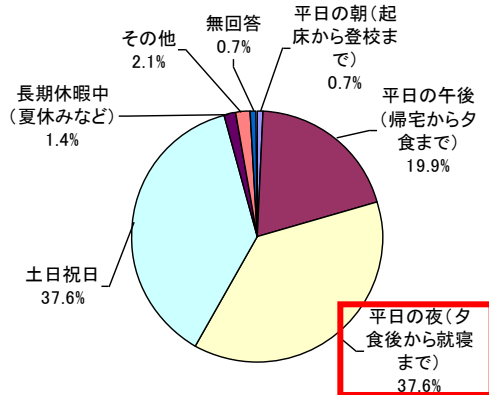
(図5-2-2-37、図5-2-2-38)

■ 学習する時間帯 (N=171)

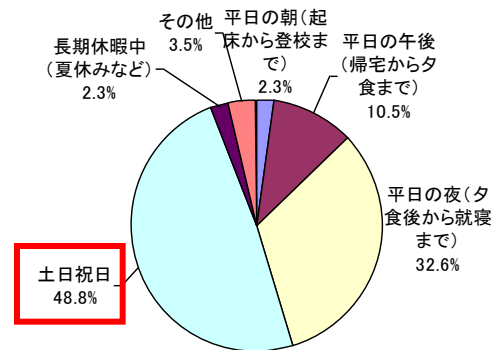


実施対象の学年層別に見てみると…

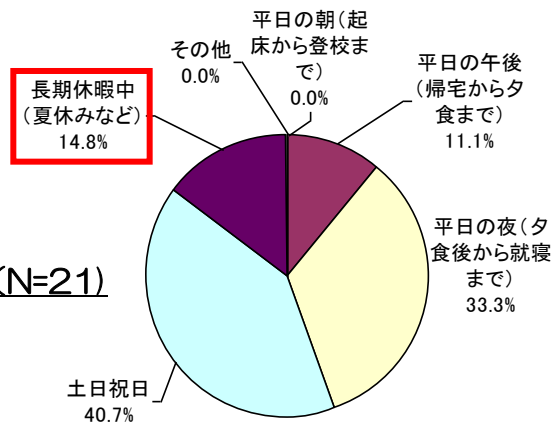
小4以下 (N=93)



小5、小6 (N=63)

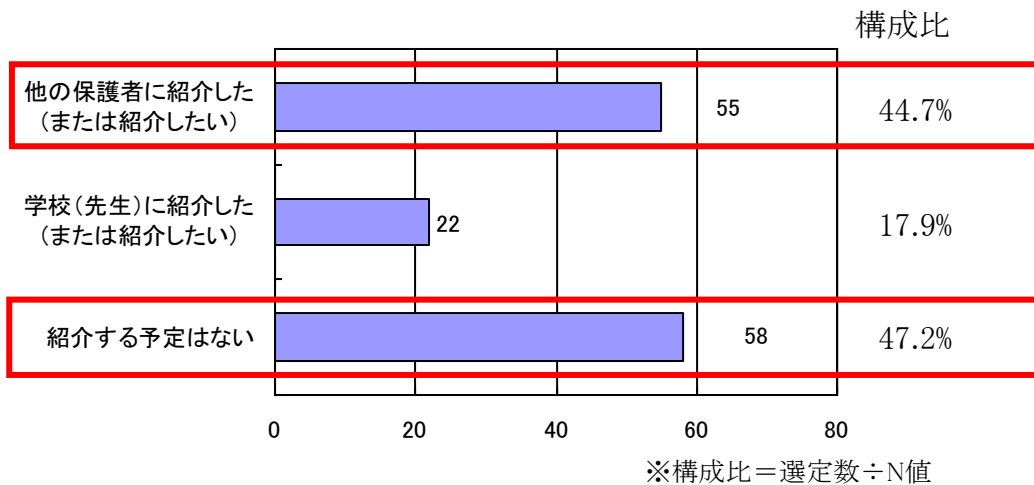
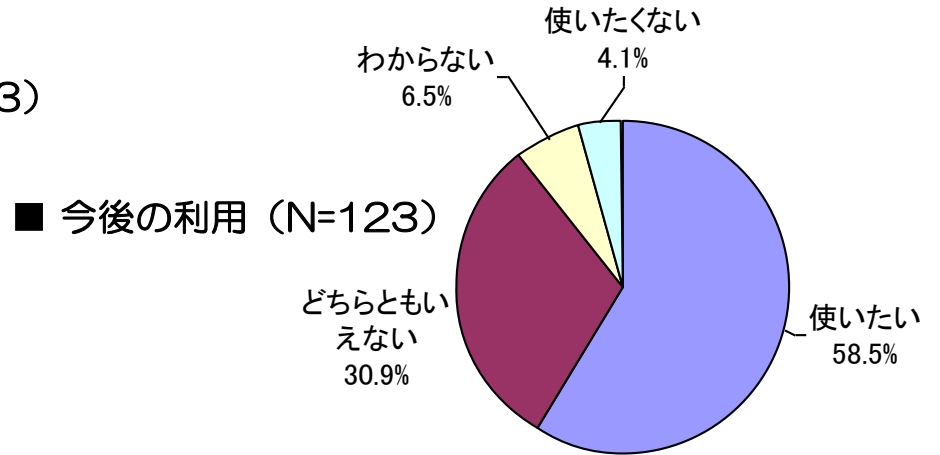
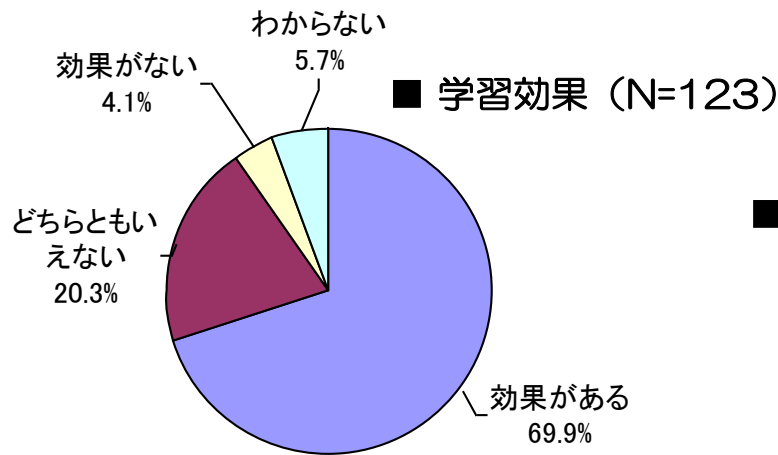


中1以上 (N=21)



家庭の状況2

(図5-2-2-43、図5-2-2-44、図5-2-2-45)



■ 他への紹介(複数回答可)
(N=123、有効回答数=135)

意見・要望（自由記述）

- ・ インターネットと冊子の良さを生かして指導できる
- ・ シミュレータ内容が教師用テキストと一体になっているのが分かりやすい。
- ・ 体験型の学習ができ、子どもたちへの説得力がある。
- ・ サーバへのインストールが大変。技術的補助が必要。
- ・ 他の先生たちと一緒に今後は研究していきたい。
- ・ 自分の子どもに教えることを手始めに、他の子どもにも広めて行きたい。
- ・ 今まで体系的に話をできていなかったもので、よかった。

* 必要な部分を書き換えてご利用ください。Web 上の「ティーチャーズガイド」(約 70 ページ)を印刷して別添とすることをお勧めします。

平成 21 年 ●●月 ●●日

●●●学校各位

●●教育委員会

総務省 ICT メディアリテラシー教材
「伸ばそう ICT メディアリテラシー」の導入について

情報モラル教育を推進するために、総務省 ICT メディアリテラシー教材「伸ばそう ICT メディアリテラシー」を各校に導入できるようにしました。本教材は、子どもたちが安全に安心してインターネットや携帯電話を使用できるように体験させながら指導するための教材です。

教材の具体的な使用方法や指導内容については、別添の「ティーチャーズガイド」を熟読の上、各校にて、指導に活用いただきますようお願いいたします。

◎教材の概要

学習テーマ	目安の学年			目安の授業時間	扱うメディア			情報モラル指導モデルカリキュラム表の分類	教員の ICT 活用指導力の基準 D 項目
	4 年	5 年	6 年		ネット	ケータイ	デジカメ		
1.インターネットで調べよう!	○	○		1-3 時間	検索			e	D-3
2.わくわく! ハラハラ? インターネット	○	○		1 時間	メール			d	D-3
3.学校のステキを伝えよう!		○	○	2-3 時間	ブログ		○	a,e,i	D-1,D-2
4.メールでけんか! どうする?	○	○	○	1 時間		メール		a	D-1
5.ケータイを持って街へ 出かけよう!	○	○		1 時間		マナー 全般		b,c	D-1

「情報モラル指導モデルカリキュラム表」の分類とは、文部科学省「情報モラル指導実践キックオフガイド」6 ページにある分類のアルファベットを指します。

「教員の ICT 活用指導力の基準」の D 項目とは「D 情報モラルなどを指導する能力」の各項目を指します。

◎教材の利用方法

* 各自治体での状況に合わせて、サーバ管理者とご相談の上、使いやすいようにご準備して、ご案内ください。

(例文 1) コンピュータ室の児童用パソコンの Internet Explorer の「お気に入り」に「伸ばそう ICT メディアリテラシー」という項目がありますので、そこをクリックしてください。

(例文 2) コンピュータ室の児童用パソコンのデスクトップに「伸ばそう ICT メディアリテラシー」というアイコンがありますので、そこをダブルクリックしてください。

教師用 ID : ●●●●●● 教師用パスワード : ●●●●●●

児童用 ID : ●●●●●● 児童用パスワード : ●●●●●●

これより先の使用方法については、具体的な指導内容に関わってきます。

「ティーチャーズガイド」を読んで、ご活用ください。

◎参照

総務省 ICT メディアリテラシー教材「伸ばそう ICT メディアリテラシー」の公式サイト

<http://www.ict-media.net/>

【添付資料 9】 利用状況調査・アンケート書式

(本文5-2. 関連)

※アンケート番号は、表 5-2-1-1および表 5-2-1-2の中の番号と対応する。

アンケート1,2

※「アンケート1」では、Q2に相当する設問なし

Q1.どの学習テーマを使って授業を行いますか？(複数選択可) (※必須)

- インターネットで調べよう！
- わくわく！ハラハラ？インターネット
- 学校のステキを伝えよう！
- メールでけんか！どうする？
- ケータイを持って街へ出かけよう！

Q2.授業を行う対象学年は？(複数選択可)※当教材は原則として小学校5-6年生向けです。(※必須)

小学生以下 ・ 小1 ・ 小2 ・ 小3 ・ 小4 ・ 小5 ・ 小6
中1 ・ 中2 ・ 中3 ・ 高校/大学等 ・ その他

Q3.授業に当たってこの教材を選んだ理由をお聞かせください。(複数選択可) (※必須)

- 基本的なテーマが網羅されており、情報リテラシー入門に最適である。
- 学習テーマごとに指導例が提供されており、授業への導入がしやすい
- ケータイやブログに対応したコンテンツが含まれている。
- 指導用テキスト・学習用テキストが揃っており、すぐに利用できる。
- ブログやメールのシミュレーターなど他の教材にない機能が魅力
- 無料コンテンツでありコストがあまりかからない
- 教材の内容や開発者に信頼がおける。

Q4.当教材に関するご要望や改善点(教材内容、取り扱うテーマ、利用手順、使い勝手など)ご自由にお書きください。

アンケート3

Q1.保護者研修の際は、主にどの学習テーマを使って研修を行いますか？(複数選択可) (※必須)

- インターネットで調べよう！
- わくわく！ハラハラ？インターネット
- 学校のステキを伝えよう！
- メールでけんか！どうする？
- ケータイを持って街へ出かけよう！

Q2.研修を行う対象は？※当教材は原則として小学校 5-6 年生向けです。(※必須)

- 小学生の保護者
- 中学生の保護者
- 小学生の親子
- 中学校の親子
- その他

Q3.保護者研修に当たってこの教材を選んだ理由をお聞かせください。(複数選択可) (※必須)

- 基本的なテーマが網羅されており、情報リテラシー入門に最適である。
- 学習テーマごとに指導例が提供されており、子どもに教えやすい
- ケータイやブログに対応したコンテンツが含まれている。
- 指導用テキスト・学習用テキストが揃っており、すぐに利用できる。
- ブログやメールのシミュレーターなど他の教材にない機能が魅力。
- 無料コンテンツでありコストがあまりかからない
- 教材の内容や開発者に信頼がおける。ネットで学習できるため家庭でも利用しやすい。

Q4.当教材に関するご要望や改善点(教材内容、利用手順、使い勝手など)ご自由にお書きください。

アンケート4

Q1.今回、主に学習するお子さんの学年は？※当教材は原則として小学校 5-6 年生向けです。（※必須）

未就学児 ・ 小1 ・ 小2 ・ 小3 ・ 小4 ・ 小5 ・ 小6 ・
中1 ・ 中2 ・ 中3 ・ 高校/大学等 ・ その他

Q2.お子さんは家でインターネットを使っていますか？（※必須）

- よく使う
- たまに使う
- あまり使わない
- まったく使わない(またはパソコンがない)
- わからない

Q3.お子さんは自分用の携帯電話を持っていますか？（※必須）

- 持っている
- 持っていない
- 近々持たせる予定

Q4.今回どなたが、この教材を使ってお子さんに教えますか？（※必須）

- 父親
- 母親
- 祖父母
- 兄姉
- 家族全員
- 子どもだけでやらせる(推奨しません)
- その他

Q5.主に学習する日や時間帯(予定)は？（※必須）

- 平日の朝(起床から登校まで)
- 平日の午後(帰宅から夕食まで)
- 平日の夜(夕食後から就寝まで)
- 土日祝日
- 長期休暇中(夏休みなど)
- その他

Q6.どの学習テーマを使いますか？(複数選択可) (※必須)

- インターネットで調べよう！
- わくわく！ハラハラ？インターネット
- 学校のステキを伝えよう！
- メールでけんか！どうする？
- ケータイを持って街へ出かけよう！

Q7.家庭でこの教材を使ってみようと思った理由をお聞かせください。(複数選択可) (※必須)

- 基本的なテーマが網羅されており、情報リテラシー入門に最適である。
- 学習テーマごとに指導例が提供されており、授業への導入がしやすい
- ケータイやブログに対応したコンテンツが含まれている。
- 指導用テキスト・学習用テキストが揃っており、すぐに利用できる。
- ブログやメールのシミュレーターなど他の教材にない機能が魅力。
- 無料コンテンツでありコストがあまりかからない
- 教材の内容や開発者に信頼がおける。
- 学校や他の保護者に薦められた。

Q8.当教材に関するご要望や改善点(教材内容、取り扱うテーマ、利用手順、使い勝手など)ご自由にお書きください。

アンケート5～14

- Q1. 授業を行う対象学年は？(複数選択可) ※当教材は原則として小学校5-6年生向けです。
未就学児 ・ 小1 ・ 小2 ・ 小3 ・ 小4 ・ 小5 ・ 小6
中1 ・ 中2 ・ 中3 ・ 高校/大学等 ・ その他()
- Q2. どの教科/時間の中で、授業を行いますか？(複数選択可)
国語 ・ 社会 ・ 算数/数学 ・ 理科 ・ 生活 ・ 技術家庭 ・ 外国語
総合的な学習の時間 ・ 道徳の時間 ・ 教科に関係なく特別活動などで行う
その他()
- Q3. どの学習テーマを使って授業を行いますか？(複数選択可)
 インターネットで調べよう！ わくわく！ハラハラ？インターネット 学校のステキを伝えよう！
 メールでけんか！どうする？ ケータイを持って街へ出かけよう！
- Q4. 学校で、この教材を使うメリットは次のうちどれですか？(複数選択可)
 基本的なテーマが網羅されており、情報リテラシー入門に最適である。
 学習テーマごとに指導例が提供されており、授業への導入がしやすい
 ケータイやブログに対応したコンテンツが含まれている。
 指導用テキスト・学習用テキストが揃っており、すぐに利用できる。
 ブログやメールのシミュレーターなど他の教材にない機能が魅力。
 無料コンテンツでありコストがあまりかからない。
 教材の内容や開発者に信頼がおける。
- Q5. 当教材を使って授業を行う(予定の)場所を教えてください。
 普通教室
 コンピュータ教室
 その他 ()
- Q6. 当教材を使って授業を行う際の教材の利用方法を教えてください。 インターネット上に公開している当教材の体験サイトにアクセスして利用する。
 学校や教育委員会(センター)等のサーバーにプログラムをインストールして利用する
 わからない
- Q7. 当教材に関するご要望や改善点(教材内容、利用手順など)ご自由にお書きください。

アンケート 15

- Q1. 今回、情報モラルを教えたいお子さんの学年は？ ※当教材は原則として小学校 5-6 年生向けです。
未就学児 ・ 小1 ・ 小2 ・ 小3 ・ 小4 ・ 小5 ・ 小6
中1 ・ 中2 ・ 中3 ・ 高校/大学等 ・ その他()
- Q2. お子さんは家でインターネットを使っていますか？
よく使う ・ たまに使う ・ あまり使わない ・ まったく使わない(またはパソコンがない)
わからない
- Q3. お子さんは自分用の携帯電話を持っていますか？
持っている ・ 持っていない ・ 近々持たせる予定
- Q4. どなたが、この教材を使って情報モラルをお子さんに教えますか？(予定含む)
父親 ・ 母親 ・ 祖父母 ・ 兄姉 ・ 家族全員
子どもだけでやらせる(推奨しません) ・ その他()
- Q5. 主に学習する日や時間帯(予定)は？
平日の朝(起床から登校まで) ・ 平日の午後(帰宅から夕食まで)
平日の夜(夕食後から就寝まで) ・ 土日祝日 ・ 長期休暇中(夏休みなど)
その他()
- Q6. どの学習テーマを使いますか？(複数選択可)
 インターネットで調べよう！ わくわく！ハラハラ？インターネット
 学校のステキを伝えよう！ メールでけんか！どうする？
 ケータイを持って街へ出かけよう！
- Q7. この教材のどこが良いと思いますか？(複数選択可)
 基本的なテーマが網羅されており、情報リテラシー入門に最適である。
 学習テーマごとに指導例が提供されており、授業への導入がしやすい
 ケータイやブログに対応したコンテンツが含まれている。
 指導用テキスト・学習用テキストが揃っており、すぐに利用できる。
 ブログやメールのシミュレーターなど他の教材にない機能が魅力。
 無料コンテンツでありコストがあまりかからない。
 教材の内容や開発者に信頼がおける。
 学校や他の保護者に薦められた。

Q8. 当教材に関するご要望や改善点(教材内容、利用手順など)ご自由にお書きください。

アンケート 16

Q1.授業を行った対象学年は？(複数選択可) (※必須)

- 未就学児 小1 小2 小3 小4 小5 小6
中1 中2 中3 高校/大学等 その他

Q2.どの学習テーマを使って授業を行いましたか？(複数選択可) (※必須)

- インターネットで調べよう！
 わくわく！ハラハラ？インターネット
 学校のステキを伝えよう！
 メールでけんか！どうする？
 ケータイを持って街へ出かけよう！

Q3.授業を行った場所は、どこですか？(複数回答可) (※必須)

- コンピュータ教室 普通教室 その他

Q4.授業(指導)を行ったのは、どなたですか？(複数選択可) (※必須)

- 学級担任 情報担当教員 教科担当教員 学校管理職等 学校外部の人材 その他

Q5.当教材のうち今回の授業で使ったのものは何ですか？ (※必須)

- ネット教材(インターネット補助教材)と冊子(テキスト教材)を併用した。
 ネット教材のみ使用した。
 冊子のみ使用した。

Q6.当教材以外で、今回の授業で使ったのものは何ですか？(複数選択可) (※必須)

- 当教材のみを使用
 他のネット教材
 他のテキスト教材や書籍等
 ワークシートやプリント等
 その他

Q7.ネット教材の利用方法について (※必須)

- ネット教材は利用していない(冊子のみ)
 インターネットの教材サイトにアクセスして利用した
 学校や教育センター等のサーバにプログラムをインストールして利用した

Q8.当教材の良かったところをお聞かせください。(複数選択可) (※必須)

- 基本的なテーマが網羅されており、情報リテラシー入門に最適である。
- 学習テーマごとに指導例が提供されており、授業への導入がしやすい
- ケータイやブログに対応したコンテンツが含まれている。
- 指導用テキスト・学習用テキストが揃っており、すぐに利用できる。
- ブログやメールのシミュレーターなど他の教材にない機能が魅力。
- 無料コンテンツでありコストがあまりかからない
- 教材の内容や開発者に信頼がおける。

Q9.当教材は情報モラル(ICTメディアリテラシー)育成に効果があると思いますか? (※必須)

効果がある 効果がない どちらともいえない わからない

Q10.今後も情報モラル教育に、当教材を使いたいですか? (※必須)

使いたい 使いたくない どちらともいえない わからない

Q11.当教材に関して他の教員、他の学校に紹介や研修会等を行いましたか? (※必須)

行った 行う予定(計画中) 行う予定はない わからない

Q12.当教材に関して保護者に紹介や研修会等を行いましたか? (※必須)

行った 行う予定(計画中) 行う予定はない わからない

Q13.当教材に関するご要望や改善点(教材内容、取り扱うテーマ、利用手順、使い勝手など)または今後の情報モラル教育に関して必要なものなど、ご自由にお書きください。

アンケート 17,18

※Q15,16 は「アンケート 18」のみ

Q1.当教材を使用したお子様の学年は？(複数選択可) (※必須)

未就学児 小1 小2 小3 小4 小5 小6
中1 中2 中3 高校/大学等 その他

Q2.お子さんは家でインターネットを使いますか？ (※必須)

よく使う たまに使う あまり使わない まったく使わない(またはパソコンがない)
わからない

Q3.お子さんは自分用の携帯電話を持っていますか？ (※必須)

持っている 持っていない 近々持たせる予定

Q4.どの学習テーマを使って学習しましたか？(複数選択可) (※必須)

- インターネットで調べよう！
- わくわく！ハラハラ？インターネット
- 学校のステキを伝えよう！
- メールでけんか！どうする？
- ケータイを持って街へ出かけよう！

Q5.主に学習を行った日や時間帯は？ (※必須)

平日の朝(起床から登校まで) 平日の午後(帰宅から夕食まで)
平日の夜(夕食後から就寝まで) 土日祝日 長期休暇中(夏休みなど) その他

Q6.主に学習を行った場所は、どこですか？ (※必須)

リビングなどの共用スペース 子どもの部屋 その他

Q7.主にどなたが、子どもに教えましたか？ (※必須)

父親 母親 祖父母 兄姉 子どもだけで学習させた 家族全員 その他

Q8.当教材のうち今回の学習で使ったのものは何ですか？ (※必須)

- ネット教材(インターネット補助教材)と冊子(テキスト教材)を併用した。
- ネット教材のみ使用した。
- 冊子のみ使用した。

Q9.当教材以外で今回の学習で使ったのものは何ですか?(複数選択可) (※必須)

- 当教材のみ使用
- 他のネット教材
- 他のテキスト教材や書籍等
- ワークシートやプリント等
- その他

Q10.当教材の良かったところをお聞かせください。(複数選択可) (※必須)

- 基本的なテーマが網羅されており、情報リテラシー入門に最適である。
- 学習テーマごとに指導例が提供されており、導入がしやすい
- ケータイやブログに対応したコンテンツが含まれている。
- 指導用テキスト・学習用テキストが揃っており、すぐに利用できる。
- ブログやメールのシミュレーターなど他の教材にない機能が魅力。
- 無料コンテンツでありコストがあまりかからない
- 教材の内容や開発者に信頼がおける。

Q11.当教材は情報モラル(ICT メディアリテラシー)育成に効果があると思いますか? (※必須)

効果がある 効果がない どちらともいえない わからない

Q12.今後も情報モラル教育に、当教材を使いたいですか? (※必須)

使いたい 使いたくない どちらともいえない わからない

Q13.当教材を他のかたに紹介しましたか?(複数回答可) (※必須)

他の保護者に紹介した(または紹介したい) 学校(先生)に紹介した(または紹介したい)
紹介する予定はない

Q14.当教材に関するご要望や改善点(教材内容、取り扱うテーマ、利用手順、使い勝手など)または今後の情報モラル教育に必要なものなど、ご自由にお書きください。

Q15 お子さんはどのような反応だったか、お聞かせ下さい

- 楽しそうに何度も試していた
- 最後まで飽きずにやった
- 途中で飽きてしまった
- 興味がなさそうで、仕方なくやっていた
- その他

Q16 使ってみて、わかりにくかったこと、困ったことなどがあったら教えてください。

【添付資料10】 指導案ショートバージョン(ティーチャーズガイドのテーマ1、3に追加)
(本文5-4-4. (1) 関連)

テーマ1「インターネットで調べよう！」

学習目標

- 検索シミュレーターの体験を通じて、インターネットから必要な情報を収集する。
- インターネットには間違った情報があることに気付いたり、送り手の意図について考えたりする。

学習の流れ

学習過程	指導内容と発問	指導上の留意点	使用する解説コンテンツ
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・「インターネットを使って調べ活動をした経験がありますか。」(2分) ・これからシミュレーターを使って「土星の輪の正体」について調べることを説明する(3分) 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットでの検索について経験したことを発言させる。 土星のことを話題にしたり、写真を見せたりしながら、子どもたちの興味を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検索って何だろう？ 1 ・土星1
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ・検索シミュレーターを使いながら検索を体験させる。(10分) 「土星というキーワードを入れて、いくつかの情報を見てみましょう。」 ・情報の絞り込み方について説明する。(5分) ・検索シミュレーターを使いながら絞り込み検索を検索させる。(10分) 「知らない情報もあるので、ほしい情報だけを集める仕方を覚えましょう。」 ・用意された学習用ウェブサイトと比較して見せながら、情報の確からしさについて説明する。(5分) ・用意された学習用ウェブサイトと比較して見せながら、送り手の意図について話し合う。(5分) 「どんなことを伝えたくて、『宇宙のものがたり』というホームページを作ったのでしょうか。」 	<ul style="list-style-type: none"> シナリオモードで操作させる。 子どもたちの操作の状況を把握しながら、操作の手順を示していく。 2つのキーワードを使うことを知らせる。 絞り込むためのキーワードの例を示す。 「有限会社土星商会」の情報内容を読ませる。 学習用ウェブサイトの「掲示板」と「なぞの惑星・土星」を用いて説明する。 学習用ウェブサイトの「宇宙のものがたり-その3」と「土星」を取り上げるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検索って何だろう？ 3 ・上手に検索するコツ2 ・有限会社土星商会 売れ筋商品一覧 ・掲示板 ・なぞの惑星・土星 ・宇宙のものがたり-その3 ・土星
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットには多種多様な情報があることを確認する。(2分) ・インターネット情報には間違った情報が含まれていることを確認する。(2分) ・自分がほしい情報を探すときには複数のウェブサイトを見比べて情報を選択することが重要であることを伝える。(1分) 	<ul style="list-style-type: none"> 「土星」に関する実際のウェブサイト情報を提示しながら押さえる。 「なぞの惑星・土星」の情報を大画面提示しながら押さえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぞの惑星・土星

評価の観点

1	検索する方法を理解したか。
2	必要な情報を絞り込むことができたか。
3	インターネットには間違った情報があることに気付いたか。
4	情報の送り手の意図について考えることができたか。

テーマ3「学校のステキを伝えよう！」

学習目標

- ブログ作成(写真・文章)を通して肖像権・個人情報に配慮することの大切さに気づく。
- ブログの読み手を意識し、分かりやすい表現が必要なことを理解する。

学習の流れ

学習過程	指導内容と発問	指導上の留意点	使用する解説コンテンツ
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ブログって知っていますか？どんなものだろうか？」(1分) ・これから「学校のステキ」などを紹介するブログを作成することを説明する。(2分) ・ブログの仕組みについて解説コンテンツを提示しながら解説する。(2分) 	<p>実際のブログを見せながら説明し、子どもたちの興味を高める。</p>	<p>ブログってなに？ 1, 2</p>
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログの作成から公開までの流れを簡単に説明する。(3分) ※シミュレーターが確認メッセージを表示しても、肖像権や著作権はあえて取り上げない。 ・子どもたちに自分の学校のステキなところを紹介する文章を書かせて、写真と文章をブログに書き込ませる。(15分) ・子どもたちが書いたブログを紹介し、写真の選び方・文章の書き方(肖像権や個人情報)への配慮をスライドを使って説明する。(5分) ・同じ写真を用いて書かれたブログを紹介し、文章表現のわかりやすさに配慮することを確認する(2分) ・再度、子どもたちが自分の書いたブログを見直し、修正を行う(10分) 	<p>指導者がシミュレーター上で実演すると分かりやすい。(コメント機能やトラックバック機能は説明しない)</p> <p>ブログシミュレーターで使用する写真をあらかじめ数枚用意しておく。その際、肖像権や個人情報に問題がある写真も用意しておくが良い。</p> <p>写真の選び方や個人情報の説明については、子どもたちの意見をもとにすすめていけると良い。</p> <p>子どもたちの見直した点を取り上げ、全体で共有する。</p>	<p>その写真、勝手に公開してもいいのかな？ 1, 2</p> <p>分かりやすい文章の書き方(3種類を内、必要に応じて1-2種類を見せる)</p> <p>名前や住所などを書く前に考えよう！ 1, 2</p>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログを書くときには、肖像権や個人情報に注意することを確認する。(2分) ・ブログの読み手を意識して分かりやすい表現にすることを確認する。(2分) ・ブログは手軽に書け、他の人とコミュニケーションできる機能があることを紹介する。(1分) 	<p>実物のブログやスライドを提示しながら確認する。</p> <p>時間に余裕があれば、授業の感想を書くようにする。</p>	

評価の観点

1	肖像権に配慮する必要性を理解し、ブログに書き込んでいないか。
2	個人情報に配慮する必要性を理解し、ブログに書き込んでいないか。
3	自分の伝えたいことを分かりやすい文章で表現しようとしているか。
4	選んだ写真と書いた文章をブログに登録することができたか。

【添付資料 11】 新たに製作した解説コンテンツ一覧(本文5-4-4. (2) 関連)

指導案(ショートバージョン)に対応するもの



テーマ1



テーマ3(ページ1)



テーマ3(ページ2)



テーマ3(ページ3)

各セッションのまとめや区切りとなるもの



テーマ1・セッション1



テーマ1・セッション2

Session3のまとめ

←もどる すすむ→



◆まとめたことを伝えよう！
わかりやすく発表するには、言葉だけでなく、調べた写真やグラフなどを入れて発表する事が大事です。話す言葉と見せる図などを上手に分けて発表するように考えてみましょう。

ページ: 1

Copyright (C) 2009 Ministry of Internal Affairs and Communications All Rights Reserved

テーマ1・セッション 3

Session1のまとめ

←もどる すすむ→



◆インターネットは便利なもの！
インターネットは私たちの生活に深くかかわっていて、いつでもどこでも自由に使うことができます。それは情報を速く広い人々に伝えることができます。お店の情報や場所を調べたり、お店まで行かなくても家にいながら買い物ができます。インターネットを使えば、私たちの生活をより便利にしてくれるでしょう。

ページ: 1 2

Copyright (C) 2009 Ministry of Internal Affairs and Communications All Rights Reserved

テーマ2・セッション 1(ページ 1)

Session1のまとめ

←もどる すすむ→



◆インターネットには危険もいっぱい。
インターネットには危険もひそんでいます。相手がかかりにくいというを利用して、人をだましたり、いやがらせをしたりする人もいます。あるサイトでうかつに個人情報を書きこんでしまったことによって、その情報が悪用されることもあります。インターネットにはこのような危険があることを知り、対処できるようにして、上手に利用しましょう。

ページ: 1 2

Copyright (C) 2009 Ministry of Internal Affairs and Communications All Rights Reserved

テーマ2・セッション 1(ページ 2)

Session1のまとめ

←もどる すすむ→



◆デジタルカメラで写真を撮(と)ろう！
写真を撮(と)る時は、「伝えたいこと」をしっかり意識することが大切です。自分は相手に何を伝えたいのか、よく考えて写真を撮(と)りましょう。素敵な写真が撮(と)れるように、サイズや角度、光の向きも工夫してみましょう。

ページ: 1

Copyright (C) 2009 Ministry of Internal Affairs and Communications All Rights Reserved

テーマ3・セッション 1

Session2のまとめ

←もどる すすむ→



◆ブログを使って伝えよう！
ブログは自分が伝えたい情報を、全世界の人に簡単に発信することができます。多くの人にとってわかりやすい内容になるように文章や写真を工夫しましょう。ただし、個人情報や肖像権(しょうざうけん)には注意が必要です。

ページ: 1

Copyright (C) 2009 Ministry of Internal Affairs and Communications All Rights Reserved

テーマ3・セッション 2

Session3のまとめ

←もどる すすむ→



◆ブログでコミュニケーションしよう！
ブログは多くの人と情報を交換(こうかん)することができます。ただし、相手と気持ちよくコミュニケーションをするために、直接会って話(はな)しが出来ない分、思いやりをもってコメントを書くことが大切です。

ページ: 1

Copyright (C) 2009 Ministry of Internal Affairs and Communications All Rights Reserved

テーマ3・セッション 3

Session1のまとめ

←もどる すすむ→



◆メールの落とし穴
メールは、相手のメールアドレスがわかれば、文字などの情報をしゅんじにやりとりができる便利なコミュニケーションツールです。それは、かぶりのせしきゅうないようなメールを送るなど、悪用されることもあります。また、相手と文字だけでやりとりすることが多いため、相手が誤解(ごんげ)したりふゆわかになることもあります。メールを使うときには気をつけましょう。

ページ: 1

Copyright (C) 2009 Ministry of Internal Affairs and Communications All Rights Reserved

テーマ4・セッション 1

Session1のまとめ

←もどる すすむ→



◆何気なくつづいているケータイの使い方をふり返(かへ)ろう
ケータイは、どこでも電話やメールができるようになるだけでなくカメラやお財布の代わりにもなり、私たちの日常生活に欠かせない存在となっています。それをとる構(かま)わず使(つか)うほかの人のめいわくなる場合があることや、そのカメラで何でも勝手にとってはいけ(い)ないということルールがあります。ケータイを使うときはルールやマナーを守りましょう。

ページ: 1

Copyright (C) 2009 Ministry of Internal Affairs and Communications All Rights Reserved

テーマ5・セッション 1

平成 20 年度総務省事業

「ICT メディアリテラシー育成プログラムの普及・改良に関する 調査研究」報告書

2009 年(平成 21 年)3 月 31 日

株式会社内田洋行 教育総合研究所

〒104-8282 東京都中央区新川 2-4-7
